

HOSHIZAKI

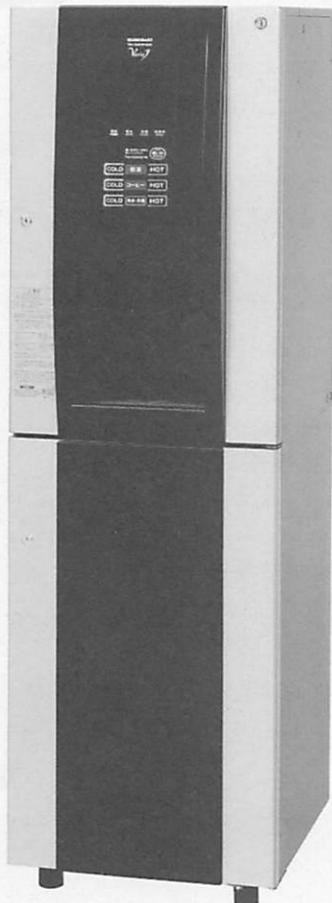
ティーディスペンサー

PTE-100 シリーズ

PTE-250, F250 シリーズ



取扱・据付工事説明書



PTE-100H2WA1-C-BK

このたびは、ホシザキ商品をお買い求めいただきましてまことにありがとうございました。

- この商品を安全に正しく使用していただくために、お使いになる前にこの取扱説明書をよくお読みになり十分に理解してください。
- お読みになったあとはいつも手元においてご使用ください。

も く じ

ご使用の前に

重要なお知らせ	2
安全上のご注意	4
■製品の仕様について	
■安全装置	
■PL ラベル（警告）の貼り付け位置	
各部のなまえとその働き	12
付属品	18
お使いになる前に	20

運転・停止のしかた

運転のしかた	28
■運転の手順	
■注出のしかた	
■注出量・粉量設定	
■機能設定	
■コインメックについて	
■週間タイマー	
■その他	
停止のしかた	44
■停止の手順	

お手入れと点検

お手入れと点検	50
■サービスマンによる安全点検のおすすめ	
■お手入れの概要	
■お手入れと点検一覧表	
■毎日のお手入れ	
■1週間に1回のお手入れ	
■1か月に1回の点検	
■年に1～2回の点検	
■消耗品・定期交換部品	
長期停止	64
■長期停止	
アフターサービス	65
■保証書（ホシザキ販売会社発行）	
■補修用性能部品の保有期間	
■修理を依頼されるとき	
■ネームプレートと貼り付け位置	
■保証とサービス	

知っておいてください

修理を依頼される前に	67
■エラーメッセージ（設定パネル）	
■ランプの異常（操作パネル）	
■動作の異常	
■その他のメッセージ	
仕様	71
■仕様	
■外形寸法	
お手入れガイド	78

据付工事説明

重要なお知らせ

■ 食品衛生法に基づく食品等事業者の法的責務

食品衛生法により、食品等事業者は自らの責任において食品の安全性を確保するよう求められています。製品の安定した性能維持のために毎日の点検・清掃を行い、衛生的にお使いください。

■ フロン排出抑制法に基づく法的責務

フロン排出抑制法により、業務用冷凍空調機器（第一種特定製品）の管理者（所有者または使用者）は、主に、以下の適正管理が求められています。みだりにフロン類を大気中に放出した場合、罰則が適用されます。

1. 四半期に1回以上、冷媒漏えいの兆候の有無（冷え具合や氷の出来、配管の腐食など）を、管理者が自ら目視確認できる範囲で点検すること。
一定規模以上の製品（電動機の定格出力が7.5 kW以上）のみ、1年に1回以上、専門知識を有する者による点検が必要です。
2. 点検時の冷媒漏えいの兆候の有無、及び故障が発生した時の整備結果記録を設置から廃棄あるいは譲渡するまで保管すること。
3. 廃棄する場合は、都道府県知事の登録を受けた第一種フロン類充填回収業者にフロン回収を依頼し、その費用を負担すること。

* フロン排出抑制法の詳細については、各都道府県の窓口へお問い合わせください。
また、点検方法などについては、最寄りのホシザキ販売会社までお問い合わせください。

■ お客様の個人情報に関するお取り扱いについて

ホシザキ電機株式会社およびホシザキグループ関係会社（以下「当社」）は、お客様よりお知らせいただいたお客様の氏名・住所などの個人情報（以下「個人情報」）を、下記のとおり、お取り扱いします。

1. 当社は、お客様の個人情報を、ホシザキ製品のご相談への対応や修理およびその確認などに利用させていただき、これらの目的のためにご相談内容の記録を残すことがあります。
2. 当社は、お客様の個人情報を、下記の場合を除いて第三者への開示・提供はいたしません。
 - ・ 修理やその確認業務を当社の協力会社に委託する場合
 - ・ 法令に基づく義務の履行または権限の行使のために必要な場合
 - ・ その他正当な理由がある場合
3. 当社は、お客様の個人情報を、適切に管理します。

お客様の個人情報に関するお問い合わせは、裏表紙に記載のご相談窓口をお願いします。

■ 商標または登録商標について

この取扱説明書に記載されている会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。

■ 移設・廃棄・譲渡について

- このティードispenser（以下「製品」）は、国内での使用を前提にしています。したがって、海外諸国での規格などの適用・認定などは実施していません。この製品を国外へ持ち出し、使用した場合、事故などによる補償の問題が発生することがあっても、当社は、直接・間接を問わず、一切の責任を負いません。
- この製品を移設する場合は、専門業者が最寄りのホシザキ販売会社にご相談ください。据付不備があると水漏れ、感電、火災などの原因になります。
- この製品を廃棄する場合は、専門業者が最寄りのホシザキ販売会社にご相談ください。不法投棄すると、罰則が適用されます。また環境破壊の原因にもなります。
- みだりにフロン類を放出した場合、罰則が適用されます。廃棄するときは、第一種フロン類充填回収業者に回収を依頼してください。（第一種特定製品）
- そのまま放置すると、幼児などがドアで手をはさんだり、ケガする原因にもなります。
- この製品を転売・譲渡する場合は、新しい所有者に正しくお使いいただくため、この取扱説明書を製品本体の目立つところにテープ止めして渡してください。また、添付されているすべてのもの（保証書、付属品）を、新しい所有者に渡し、転売（または譲渡）した側は、一切の複製物を保持しないでください。
- この製品を転売・譲渡する場合は、新しい所有者を最寄りのホシザキ販売会社にご連絡ください。

■ 使用目的・用途について

- この製品は、水道水から冷水とパウダー原料・粉碎茶を原料としたお茶などの飲料を作り、湯呑みなどに供給する目的で作られています。それ以外の用途に使用しないでください。
- この製品は、業務用として作られています。家庭用には使用しないでください。
- 事故を防止するため、本来の使用目的以外の製品の使用やこの取扱説明書に記載している以外の運転・保守作業はおやめください。

■ 取り扱い上の注意

- 当社は、この取扱説明書記載の指示事項を守らなかったり、製品を改造・乱用・誤用したり、あるいは運転・保守作業にあたり、通常払うべき注意または用心を怠って生じた損害ならびに傷害に対しては一切責任を負いません。
- 当社は、この製品の取り扱い上の危険について、すべての状況を予測することはできません。したがって、すべての危険を取扱説明書や製品に貼り付けている PL ラベルで伝えることはできません。事故を防止するため、製品の運転・保守作業を行う場合は、この取扱説明書や PL ラベルに記載の指示事項だけでなく、十分気を付けてください。
- 製品の性能、故障および耐久性は、日常の取り扱いや整備によっても変わります。
- この取扱説明書は、日本語を理解できる人を対象に作成されています。管理者は使用される方に対して、安全・操作指導を徹底してください。
- 管理者は、この製品を使用される方が代わった場合には、この取扱説明書を理解させて、かつ安全・操作指導してください。

■ 取扱説明書について

- この製品には、設計上の対策や安全装置によって除去できないものについては、警告文として情報を提供しています。
- この取扱説明書の内容は、製品改良により、予告なく変更する場合があります。
- この取扱説明書に記載されている図は、実際の製品とは異なることがあります。また、図の一部は、製品内部の説明を容易にするために、省略していることがあります。
- この取扱説明書は当社が著作権を有しています。この取扱説明書を含む図面および技術文書のいかなる箇所も当社の事前の同意書なしに、複写、電子媒体など、どのような方式であっても複写することはできません。
- この取扱説明書を紛失、または損傷した場合は、速やかに最寄りのホシザキ販売会社にご注文ください。取扱説明書のない状態での使用は、事故発生の原因となります。
- より詳しい情報を必要とする場合やご質問がある場合は、最寄りのホシザキ販売会社にお問い合わせください。

■ 保証書について

- 保証書はホシザキ販売会社で発行します。
必ずお受け取りいただき、よくお読みになり大切に保管してください。

■ 地球温暖化防止対策への取り組み

- この製品は地球温暖化防止のため、適正にフロンを回収する必要があります。冷媒を使用している製品に「フロン見える化」ラベルを貼り、冷媒の地球温暖化に与える影響や廃棄時のフロン回収率の向上をうながしています。



(貼付けラベル例)

安全上のご注意

ご使用になる前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しくお使いください。
ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので守ってください。
表示と意味は次のようになっています。

- 表示内容を無視して誤った使い方をしたとき生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

人身事故、物的損害および製品本体の損害に関する警告表示

* 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットにかかわる拡大損害をいいます。

 警告	誤った取り扱いをしたときは、死亡、後遺症などの重大な被害の可能性があることを意味します。
 注意	誤った取り扱いをしたときは、軽度の傷害が発生する可能性があることを意味します。

衛生に関する警告表示

 衛生	誤った取り扱いをしたときは、健康障害が発生する可能性があることを意味します。
---	--

- お守りいただく内容の種類を、次の絵表示区分し、説明しています。(下記は、絵表示の一例です。)

	(例)  分解禁止	 接触禁止	禁止 (してはいけないこと) を示します。 具体的な禁止内容は、  の中や近くに絵や文章で示します。
	(例)  プラグを抜く	 アース線接続	強制 (すること) を示します。 具体的な強制内容は、  の中や近くに絵や文章で示します。
	(例)  感電注意	 手はさみ注意	注意を示します。 具体的な注意内容は、  の中や近くに絵や文章で示します。

その他の表示

 使用上の注意	誤った取り扱いをしたときは、製品が故障する可能性があることを意味します。
 お知らせ	製品本来の能力が発揮できないこと、あるいは、特に知っておいていただきたいことを意味します。

警告

よく読む この製品を安全に正しく使用していただくために、お使いになる前に取扱説明書をよくお読みになり十分に理解すること
ケガの原因になります。



管理 管理者がかぎを管理すること
いたずらされたり、思わぬ事故の原因になります。



専門業者 据付工事は専門業者に依頼すること
お客様自身で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災の原因になります。



禁止 電源コードを傷付けないこと
加工したり、引っ張ったり、たばねたり、また重いものを載せたり、はさみ込んだりすると、電源コードが破損し、感電、火災の原因になります。



アース線接続 アース工事を行うこと
アース線はガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないこと
電気工事業者による D 接続工事が必要です。(アースが不完全な場合は、感電の原因になります。)



ぬれ手禁止 ぬれた手で電源プラグなど電気部品に触れたり、電源スイッチ（漏電遮断器）を操作しないこと
感電の原因になります。



専用電源 専用電源を使用すること
電源コードは途中で接続したり、延長コードの使用やタコ足配線をする、感電、発熱、火災、また誤作動の原因になります。



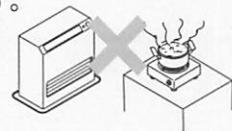
ガス栓閉 周辺のガス器具などからガスが漏れていたら、ガスの元栓を閉めて、換気すること
ガスが漏れた状態で電源プラグを抜くと、火花により引火爆発します。



屋外禁止 屋外で使用しないこと
雨水のかかる場所で使用されると、漏電、感電の原因になります。



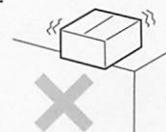
熱器具禁止 熱器具（ガスコンロなど）をのせたり、熱器具を周囲に置いたりしないこと
熱でプラスチックが溶けたりして、火災の原因となります。



設置 公共の場に設置する場合には施錠すること
いたずらされたり、思わぬ事故の原因になります。



禁止 この製品の上に重量物や水を入れた容器を置かないこと
落下しケガをしたり、こぼれた水で電気部品の絶縁が悪くなり、漏電の原因になります。



警告



可燃性のスプレーを近くで使用したり、揮発性、引火性のあるものを置かないこと

禁止

スイッチの火花などで引火し、発火の原因になります。



電源プラグの刃および刃の取り付け面にほこりが付着していないか定期的に確認し、ガタのないように刃の根元まで確実に差し込むこと

点検掃除

ほこりを取る

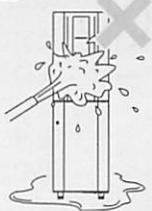
ほこりが付着したり、接続が不完全な場合は、感電、火災の原因になります。



製品に直接水をかけないこと

水かけ禁止

ショート、感電、錆、故障の原因になります。

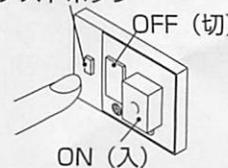


漏電遮断器の機能は月に1回、動作確認すること

動作点検

テストボタン

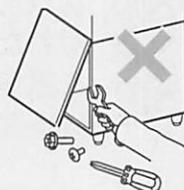
漏電遮断器を故障のまま使用すると、漏電のとき動作せず、感電の原因になります。



改造は行わないこと

改造禁止

改造すると、水漏れや感電、火災の原因になります。



電源スイッチ（漏電遮断器）が「OFF（切）」に作動した場合には、ホシザキ販売会社に連絡すること

連絡

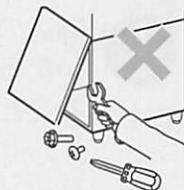
無理に「ON（入）」にすると、感電や火災の原因になります。



修理技術者以外の方は分解したり、修理しないこと

分解禁止

異常動作をしてケガをしたり、修理に不備があると感電、火災などの原因になります。



異常時（焦げ臭いなど）は元電源を切つて、すぐにホシザキ販売会社に連絡すること

連絡

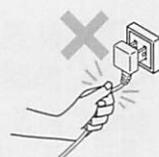
異常のまま運転を続けると、感電、火災の原因になります。



電源プラグを抜くときは、電源コードを持って抜かないこと

禁止

プラグを持って抜いてください。電源コードを引っ張るとコードが傷つき、火災、感電の原因になります。



長期間、製品を止めていたあと、製品を再び動かすときは、ホシザキ販売会社に連絡すること

専門業者

お客様自身で製品を再び動かすのはおやめください。感電などの原因になります。



！ 衛生



水道水を使用すること

水道水以外を使用すると、錆・配管詰まりや健康障害の原因になります。



断水の際は、電源スイッチ（漏電遮断器）を「OFF（切）」にし、給水バルブを閉めること

断水時
閉弁

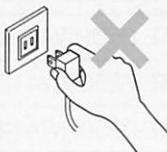
開けておくと、通水時に「赤水*1」が出て不衛生の原因になります。



電源プラグを抜いたまま長期間（2日以上）放置しないこと

禁止

ホットタンク内の水質が変化し、不快な臭い・味がし、健康障害の原因になります。



浄水器のカートリッジは、定期的に変換すること

定期交換

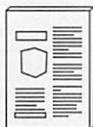
水質や使用量によって異なりますが、年1回以上交換してください。



浄水器の取扱いは、浄水器付属の取扱説明書に従うこと

よく読む

取扱いを誤ると水の腐敗から雑菌が繁殖し、健康被害の原因になります。



注) *1 黄褐色や赤褐色に濁った錆を含んだ水

■製品の仕様について

同じシリーズの製品であっても仕様によって使用方法などが異なる箇所があります。
 下記の「機種一覧表」の「お客様の製品」で確認してから、該当部分をお読みください。
 なお、取扱説明書に記載している形名または呼称名は、「機種一覧表」にて確認してください。

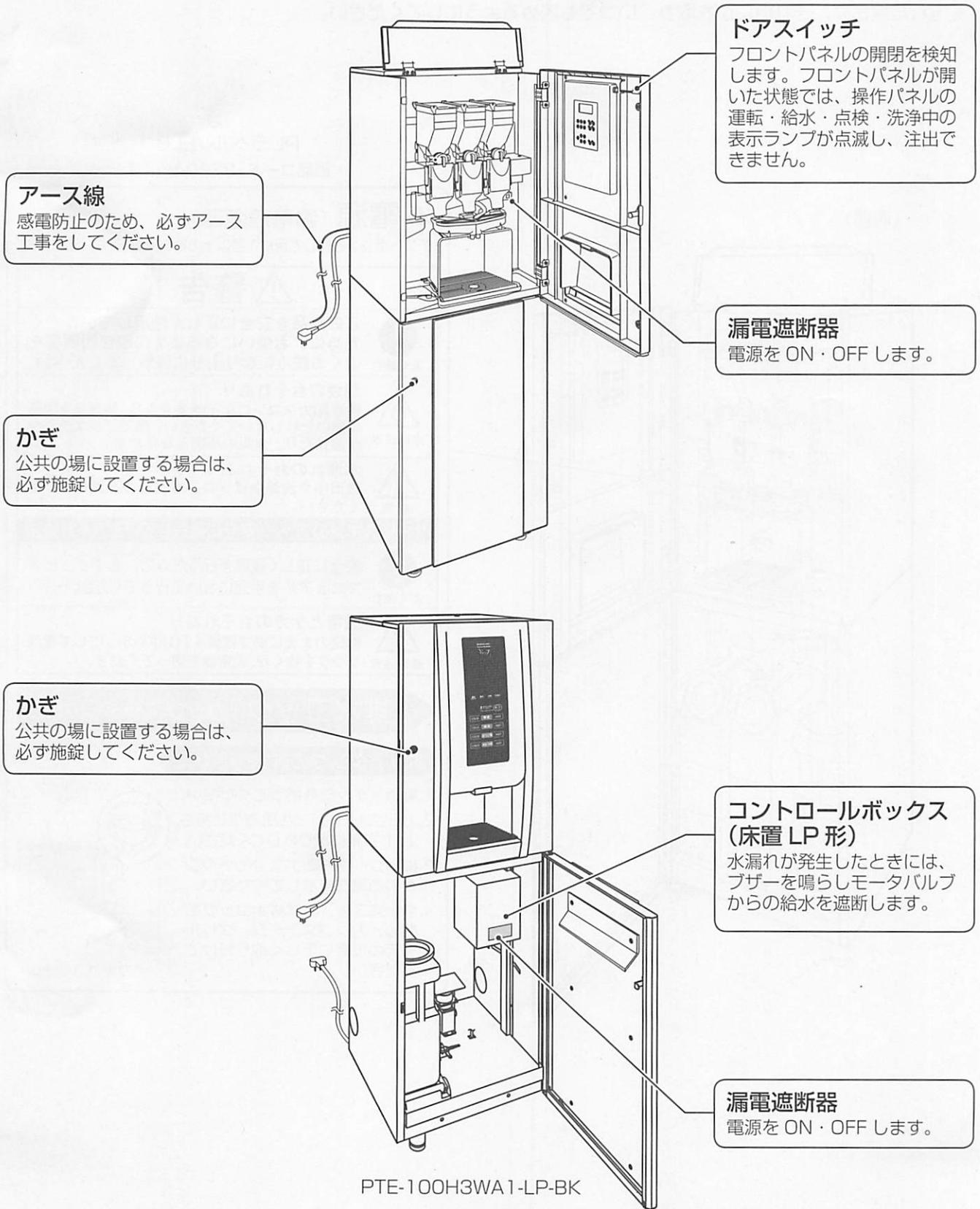
機種一覧表

お客様の製品	硬度測定結果	呼称名	仕様	組み合わせ形名	給茶機	キャビネットスタンド	イメージ
<input type="checkbox"/>		卓上形	卓上形 自動給水 直接排水仕様		PTE-250HWA1-BK		
<input type="checkbox"/>					PTE-250HWA1-BR		
<input type="checkbox"/>					PTE-F250HWA1-BK		
<input type="checkbox"/>					PTE-F250HWA1-BR		
<input type="checkbox"/>					PTE-100H2WA1-BK		
<input type="checkbox"/>					PTE-100H2WA1-BR		
<input type="checkbox"/>					PTE-100H3WA1-BK		
<input type="checkbox"/>					PTE-100H3WA1-BR		
<input type="checkbox"/>		床置 C形	床置形 自動給水 直接排水仕様	PTE-250HWA1-C-BK	PTE-250HWA1-BK	APC-EA1-BK	
<input type="checkbox"/>				PTE-250HWA1-C-BR	PTE-250HWA1-BR	APC-EA1-BR	
<input type="checkbox"/>				PTE-F250HWA1-C-BK	PTE-F250HWA1-BK	APC-EA1-BK	
<input type="checkbox"/>				PTE-F250HWA1-C-BR	PTE-F250HWA1-BR	APC-EA1-BR	
<input type="checkbox"/>				PTE-100H2WA1-C-BK	PTE-100H2WA1-BK	APC-EA1-BK	
<input type="checkbox"/>				PTE-100H2WA1-C-BR	PTE-100H2WA1-BR	APC-EA1-BR	
<input type="checkbox"/>				PTE-100H3WA1-C-BK	PTE-100H3WA1-BK	APC-EA1-BK	
<input type="checkbox"/>				PTE-100H3WA1-C-BR	PTE-100H3WA1-BR	APC-EA1-BR	
<input type="checkbox"/>		床置 T1形	床置形 カセットタンク 給排水仕様	PTE-250HWA1-T1-BK	PTE-250HWA1-BK	APC-EA1-T1-BK	
<input type="checkbox"/>				PTE-250HWA1-T1-BR	PTE-250HWA1-BR	APC-EA1-T1-BR	
<input type="checkbox"/>				PTE-F250HWA1-T1-BK	PTE-F250HWA1-BK	APC-EA1-T1-BK	
<input type="checkbox"/>				PTE-F250HWA1-T1-BR	PTE-F250HWA1-BR	APC-EA1-T1-BR	
<input type="checkbox"/>				PTE-100H2WA1-T1-BK	PTE-100H2WA1-BK	APC-EA1-T1-BK	
<input type="checkbox"/>				PTE-100H2WA1-T1-BR	PTE-100H2WA1-BR	APC-EA1-T1-BR	
<input type="checkbox"/>				PTE-100H3WA1-T1-BK	PTE-100H3WA1-BK	APC-EA1-T1-BK	
<input type="checkbox"/>				PTE-100H3WA1-T1-BR	PTE-100H3WA1-BR	APC-EA1-T1-BR	
<input type="checkbox"/>		床置 LP形	床置形 漏水検知 + 自動給水 カセットタンク 排水仕様	PTE-250HWA1-LP-BK	PTE-250HWA1-BK	APC-EA1-LP-BK	
<input type="checkbox"/>				PTE-250HWA1-LP-BR	PTE-250HWA1-BR	APC-EA1-LP-BR	
<input type="checkbox"/>				PTE-F250HWA1-LP-BK	PTE-F250HWA1-BK	APC-EA1-LP-BK	
<input type="checkbox"/>				PTE-F250HWA1-LP-BR	PTE-F250HWA1-BR	APC-EA1-LP-BR	
<input type="checkbox"/>				PTE-100H2WA1-LP-BK	PTE-100H2WA1-BK	APC-EA1-LP-BK	
<input type="checkbox"/>				PTE-100H2WA1-LP-BR	PTE-100H2WA1-BR	APC-EA1-LP-BR	
<input type="checkbox"/>				PTE-100H3WA1-LP-BK	PTE-100H3WA1-BK	APC-EA1-LP-BK	
<input type="checkbox"/>				PTE-100H3WA1-LP-BR	PTE-100H3WA1-BR	APC-EA1-LP-BR	

*PTE-F250HWA1-BK,PTE-F250HWA1-BR は粉碎茶専用機です。

■ 安全装置

この製品には、使用者の安全を守り人身事故発生防止のため、次のような安全装置を組み込んでいます。これらの安全装置は、この取扱説明書に記載している「安全上のご注意」の厳守・禁止事項を遵守して初めて活かされるものです。また、これらの安全装置の機能が正常であることの確認を行う必要があります。

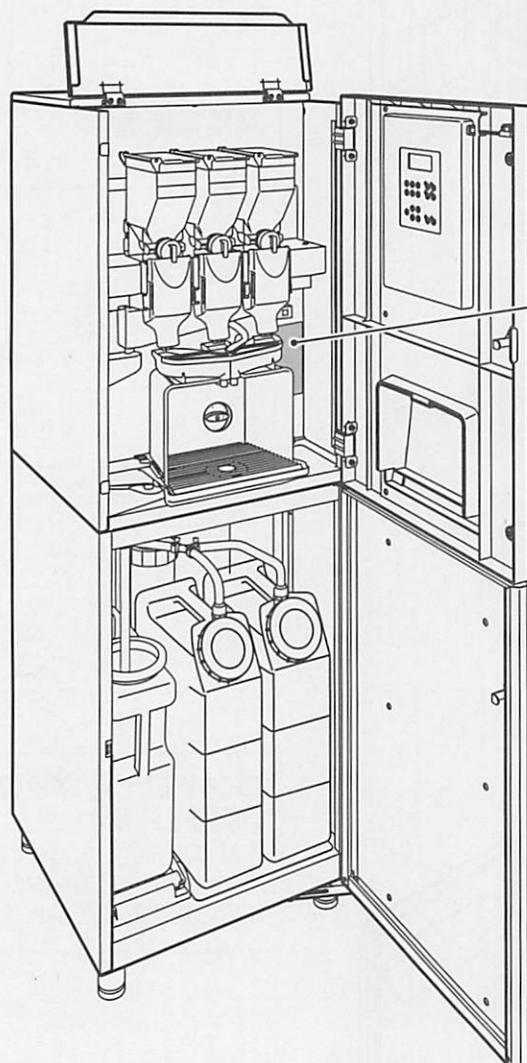


■ PL ラベル (警告) の貼り付け位置

- この製品には、正しく使用していただくため、PL ラベルが貼付してあります。よく読み、これらの注意に従ってください。
- PL ラベルを破損・紛失したり、記載文字が読めなくなった場合は、新しいラベルに貼り替えてください。PL ラベルはホシザキ販売会社にご注文ください。
- 汚れた場合は、きれいにふき取り、いつでも読めるようにしてください。

PL ラベル /ELB
部品コード 372048L01

(内部)



▲ 電源 (漏電遮断器)

372048L01B

テストボタンを押して月に1回以上の動作確認をしてください。

⚠ 警告

❗ この商品を安全に正しく使用していただくために、お使いになるまえに取扱説明書をよく読み、よくお読みになり十分に理解してください。

⚠ 類焼のおそれあり
熱器具(ガスコンロなど)を乗せたり、熱器具を周囲に置いたりしないでください。熱でプラスチックが溶けたり、火災の原因となります。

⚠ 水漏れのおそれあり
注出中や洗浄中はフロントパネルを開けないでください。

サービスマンの方へ：安全に修理していただくために

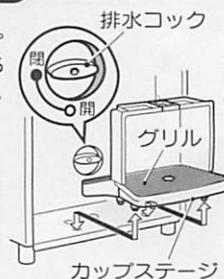
❗ 安全に正しく修理を行うために、必ずサービスマニュアルを手元において行ってください。

⚠ 感電とケガのおそれあり
修理のまえに必ず電源を「OFF (切)」にして電源プラグを抜くか、元電源を切ってください。

▶ 排水コック (カップステージの奥)

ホットタンクの排水のしかた

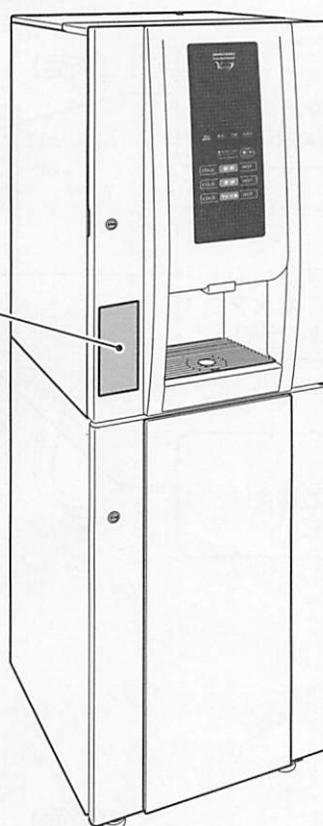
1. 電源スイッチを切ってください。
2. カップステージ、グリルを上を持ち上げ、手前に取り外してください。
3. 排水コックを開けて、ホットタンクのお湯を排水してください。
4. 排水完了後、必ず排水コックを閉め、カップステージ、グリルを元の位置に正しく取り付けてください。



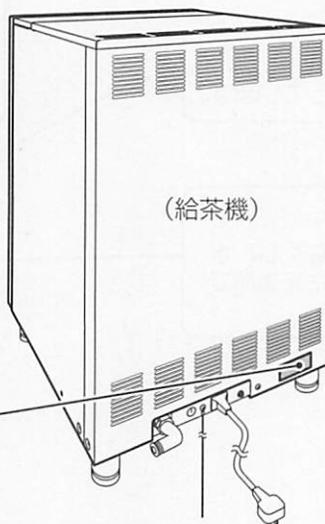
PL ラベル / コウオン
部品コード 372047L01

⚠ 警告	
	やけどのおそれあり 注出口の下に手や顔を入れないでください。
	やけどのおそれあり およそ 時になると自動的にミキシングを 洗浄したお湯がでます。
—— 正しくお使いいただくために ——	
お茶がぬるかったり、注出できないときなどは、 管理者の方が下記の内容をご確認ください。	
<ul style="list-style-type: none"> ● 運転ランプの点滅は故障ではありません。 停電などによりタイマー運転が解除された状態です。 そのままでもご使用いただけますが、タイマー運転に戻す ときは庫内の記載に従い、現在時刻とタイマー予約を設定 してください。 ● 排水コックをきちんと閉めて ください。 湯沸しタンクに水が貯まらず、 湯温も低下します。  ● フロントパネルをきちんと 閉めてください。 フロントパネルが閉まっていな いと安全上、注出できません。  ● 使用状況を確認してください。 注出頻度が高く、多量注出後はお茶がぬるくなります。 適温になるまでお待ちください。 ● タイマー予約運転の設定状況を確認してください。 「入」時間直後はお茶がぬるく、「切」時間中は注出できません。 予約時間の変更はフロントパネル裏面の記載に従い、行って ください。 	
【カセット給水式キャビネットスタンドをご使用の場合】	
<ul style="list-style-type: none"> ● 給水タンク・排水タンク内の水位を確認してください。 給水タンクの水位が低かったり、排水タンクが満水の状態 では、注出できません。キャビネットスタンドのフロント パネル裏面の記載に従い、給水・排水を行ってください。 	
お願い	
飲みのこしたお茶などを取出口 に捨てないでください。排水口 がつまるおそれがあります。	
372047A	

(前面)



(背面)



(給茶機)

PL ラベル / カンデン
部品コード 473258L01

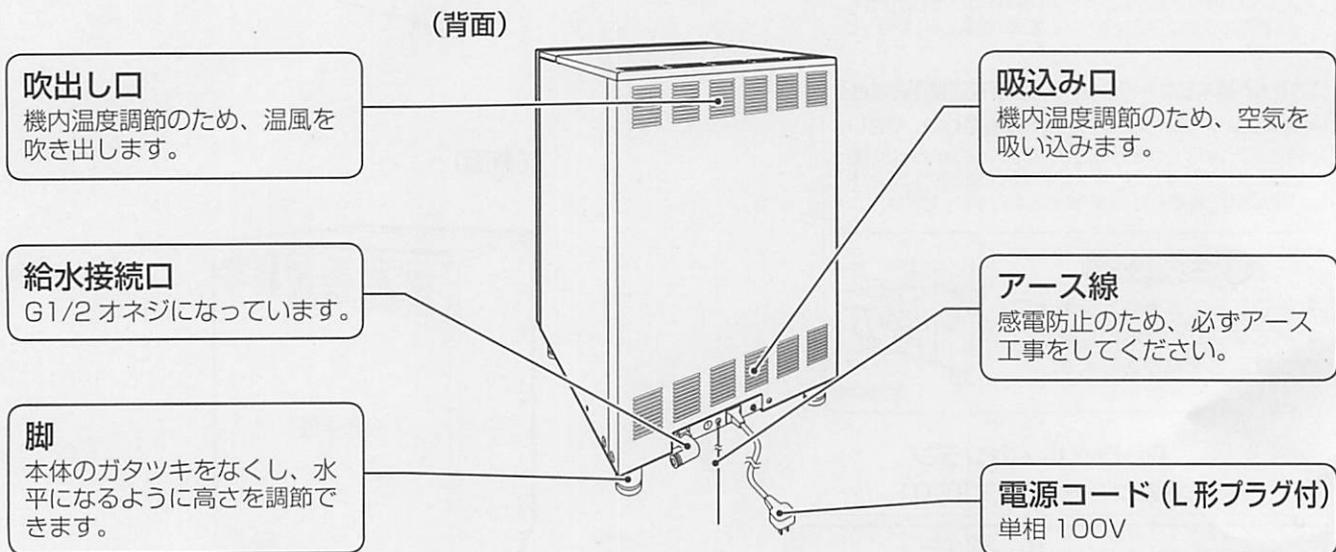
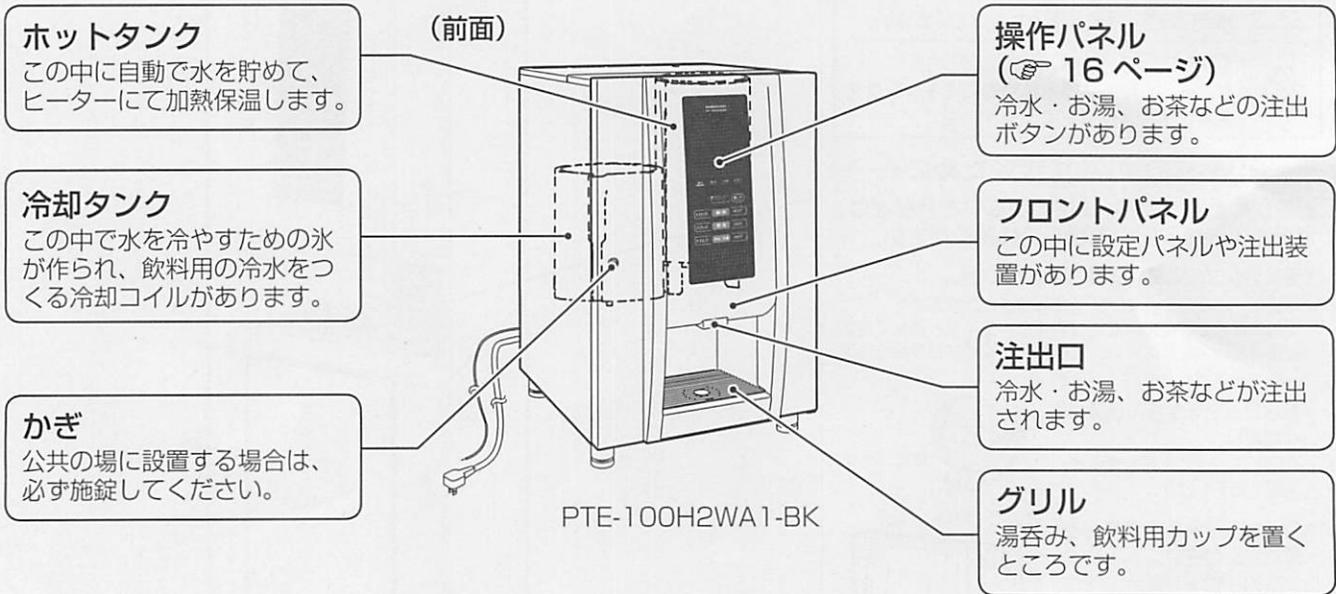
⚠ 警告	
	感電のおそれあり 必ずアース工事を行ってください。 アース線はガス管、水道管、避雷針、 電話のアース線に接続しないで ください。アースが不完全な場合、 感電するおそれがあります。 473258A
感電注意	

各部のなまえとその働き

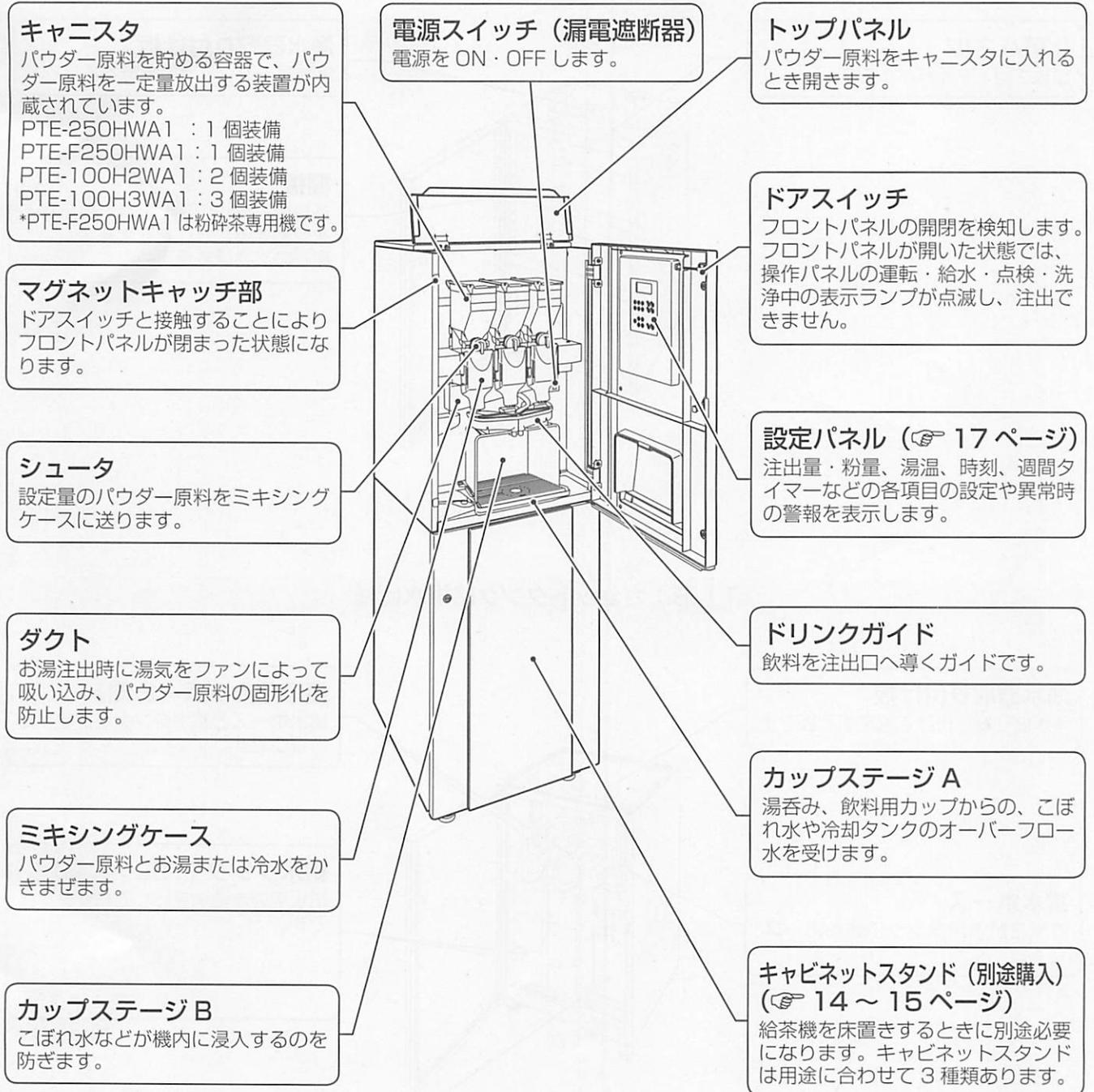
■ 給茶機 (卓上形・床置形)

この製品は、水道水から冷水とパウダー原料・粉碎茶を原料としたお茶などの飲料を作り、湯呑みなどに供給する自動給茶機です。

外観名称



内部名称



キャビネットスタンド内部名称

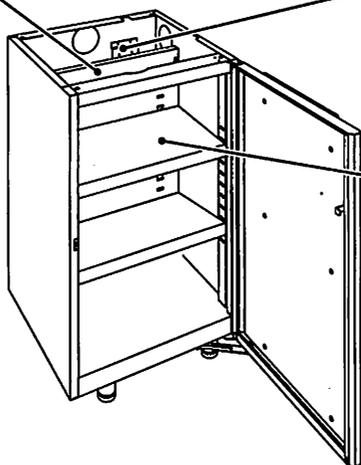
C形：自動給排水仕様

化粧パネル

棚板を固定するパネルです。

浄水器取り付け板

浄水器を取り付けて固定する板です。



棚板

パウダー原料のストック、備品などを収納することができます。棚板の高さを変更可能です。

T1形：カセットタンク給排水仕様

浄水器取り付け板

浄水器を取り付けて固定する板です。

接続用カプラ (2個)

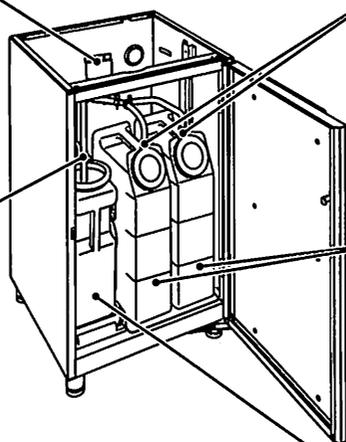
給水ホースと給水タンクを接続するカプラです。

排水ホース

排水を排水用タンクに送るホースです。

給水タンク (15L : 2個)

給水用の水道水を貯めておくタンクです。

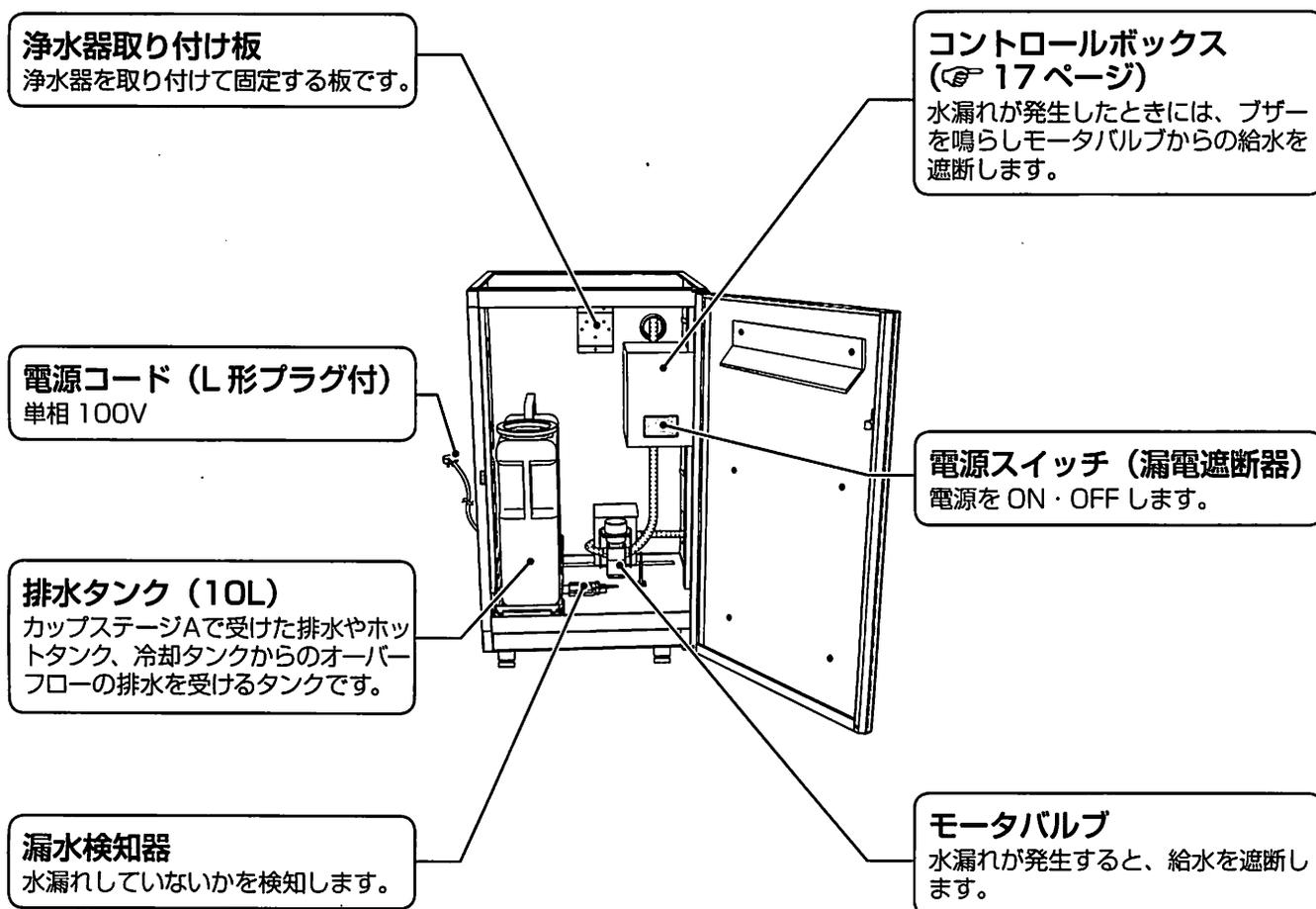


排水タンク (10L)

カップステージAで受けた排水やホットタンク、冷却タンクからのオーバーフローの排水を受けるタンクです。

LP 形：漏水検知 + 自動給水カセットタンク排水仕様

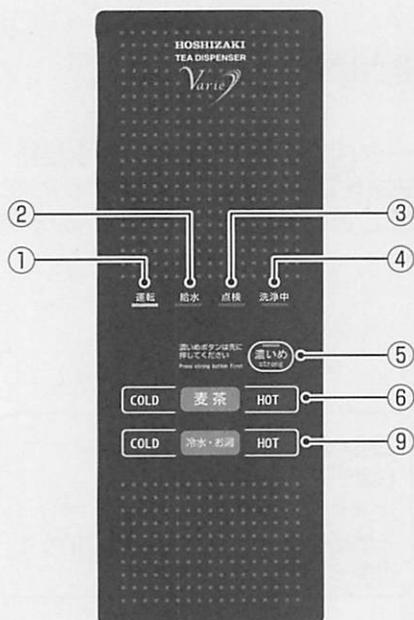
床置 LP 形は、給茶機側で発生した水漏れを電気的に検知し、モータバルブを作動させて給水経路を遮断し、水漏れの被害を最小限に抑えるためのキャビネットスタンドです。水漏れを検知するため、底部に漏れた水を一時的に集めますが、一部の水が機外へ流出することがあります。（機外への水の流出防止を完全に保証するものではありません。）



操作パネル

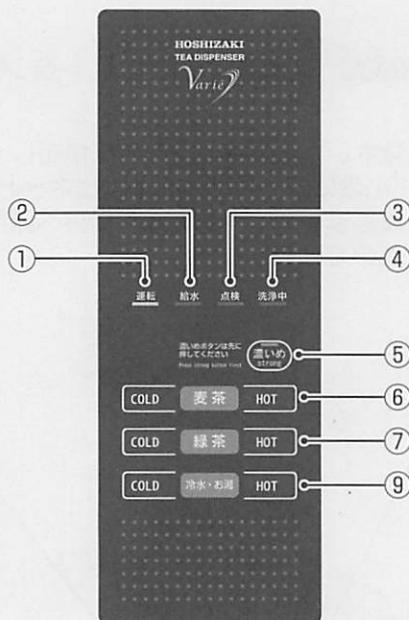
1 キャニスタ仕様

PTE-250HWA1-BK/BR
PTE-F250HWA1-BK/BR



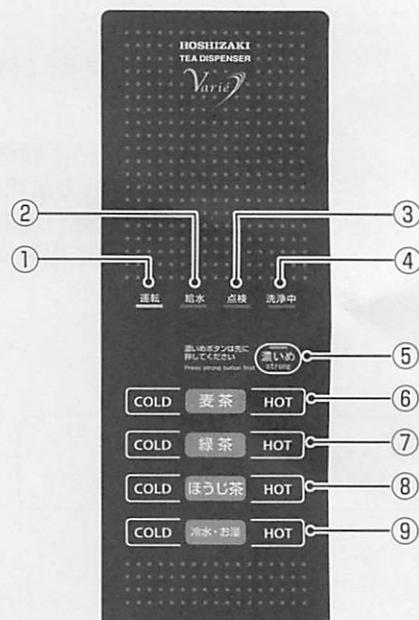
2 キャニスタ仕様

PTE-100H2WA1-BK/BR



3 キャニスタ仕様

PTE-100H3WA1-BK/BR



① 運転ランプ (緑)

- 電源スイッチ (漏電遮断器) を「ON (入)」にすると点灯します。
- 週間タイマーによる停止 (切) や電源スイッチ (漏電遮断器) 「OFF (切)」の時は消灯します。

② 給水ランプ (赤)

- ホットタンクの水位が下限になると点灯します。
- 水道が断水時に点滅します。(卓上形、床置C・LP形)
- カセット給水タンクの水がなくなると点滅します。(床置T1形)

③ 点検ランプ (赤)

- ホットタンクの湯温検知異常が発生すると点滅します。
- 冷却タンクの水温検知異常が発生すると点滅します。
- 浄水器カートリッジの交換時期がきたら点滅します。(交換時期設定の場合だけ)

④ 洗浄中ランプ (赤)

- ミキシングケースと冷水経路の洗浄中に点滅します。

⑤ 濃いめボタン

- 濃い目の味にしたいとき、注出の直前に押します。
- 注出中は濃いめランプが点灯します。

⑥ メニューボタン 1 (メニュー例：麦茶)

- 右側のキャニスタにあるメニューの飲料が「HOT」または「COLD」のどちらかのボタンを 1 回押すと、適温ランプが点滅しながら一定量注出されます。(例：「温麦茶」または「冷麦茶」を注出。)

⑦ メニューボタン 2 (メニュー例：緑茶)

- 真中のキャニスタにあるメニューの飲料が「HOT」または「COLD」のどちらかのボタンを 1 回押すと、適温ランプが点滅しながら一定量注出されます。(例：「温緑茶」または「冷緑茶」を注出。)

⑧ メニューボタン 3 (メニュー例：ほうじ茶)

- 左側のキャニスタにあるメニューの飲料が「HOT」または「COLD」のどちらかのボタンを 1 回押すと、適温ランプが点滅しながら一定量注出されます。(例：「温ほうじ茶」または「冷ほうじ茶」を注出。)

⑨ 冷水・お湯ボタン

- 「HOT」または「COLD」のどちらかのボタンを押している間、「お湯」または「冷水」が注出されます。

<①～④表示ランプ点滅表示>

- 電源スイッチ (漏電遮断器) を「ON (入)」の状態、フロントパネルが開いているときや完全に閉まっていないときは、運転、給水、点検、洗浄中の表示ランプが点滅します。

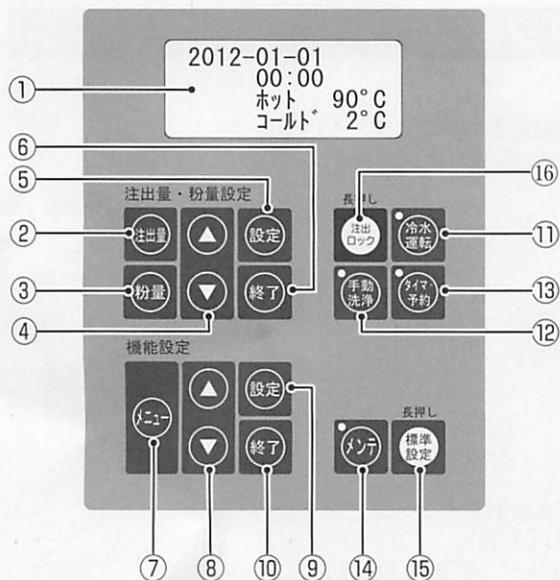
<適温ランプ表示>

- お湯と冷水が設定適温になると、「HOT」側ボタンの周りが「橙」、「COLD」側ボタンの周りが「青」に点灯します。
- ホット運転停止や注出停止が設定されていると消灯します。

<全適温ランプ点滅>

- 排水タンクが満水になると点滅します。(床置T1・LP形)

■ 設定パネル



- ① 液晶表示部
● 時刻、各項目の設定、異常時の警報を表示します。

注出量・粉量設定

- ② 注出量ボタン
● 注出量を設定するときに押します。
- ③ 粉量ボタン
● 粉量を設定するときに押します。
- ④ ▲・▼ボタン
● 注出量・粉量の設定を変更するときに押します。
- ⑤ 注出量・粉量設定ボタン
● 設定した内容を確定するときに押します。
- ⑥ 注出量・粉量終了ボタン
● 設定変更を終了するときに押します。

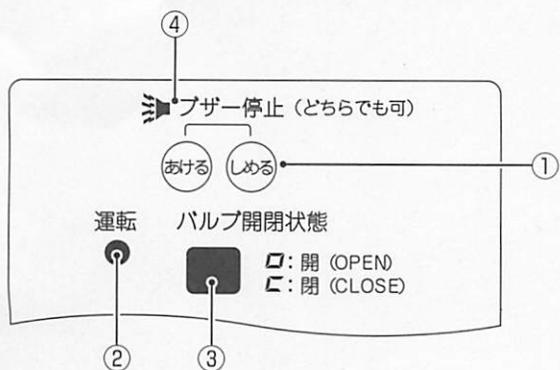
機能設定

- ⑦ メニューボタン
● 各項目のメニューを選択するときに押します。
- ⑧ ▲・▼ボタン
● メニューや設定を変更するときに押します。
- ⑨ メニュー設定ボタン
● 設定した内容を確定するときに押します。
- ⑩ メニュー設定終了ボタン
● 各項目のメニューの設定変更を終了するときに押します。

その他

- ⑪ 冷水運転ボタン
● ボタンを押してランプが点灯すると、5分後に冷水機が運転を開始し冷水の注出ができます。
● 水（常温水）の注出は、ボタンを押さなくても可能です。（COLD 適温ランプは点灯します）
- ⑫ 手動洗浄ボタン
● ボタンを押してランプが点灯した後、フロントパネルを開めるとミキシングケースの洗浄と冷水経路の洗浄を開始します。フロントパネルを開けると洗浄を中止します。
● 洗浄中は「洗浄中」ランプと「HOT」側ボタンの周りが「橙」、「COLD」側ボタンの周りが「青」に点滅します。
- ⑬ タイマー予約ボタン
● ボタンを押してランプが点灯すると、あらかじめ設定しておいた時間にタイマーの「入/切」を行います。
- ⑭ メンテナンスボタン
● ボタンを押してランプが点灯すると、フロントパネルを開いた状態でパウダー原料放出が可能です。
- ⑮ 標準設定ボタン
● 3秒間押し続けると、標準設定（P.36 ページ メニュー項目 01～12（工場出荷時））に戻ります。（注出量：90mL、湯温設定：90°C）
- ⑯ 注出ロックボタン
● 3秒間押し続けると、液晶表示部に「チュウシュツロック」の表示が出て、全ての注出を停止します。（注出ボタンを押しても注出できなくなります。）適温ランプが消灯します

■ コントロールボックス（床置 LP 形）



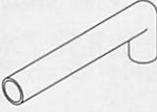
動作時の状態

	漏水検知時	運転時
① モータバルブ	閉	開
② 運転ランプ (赤)	点滅	点灯
③ 状態表示窓	C：閉 (CLOSE)	O：開 (OPEN)
④ ブザー音	ブザー音を停止するときは、「あける」または「しめる」ボタンのどちらかを押しと停止することができます。	

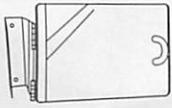
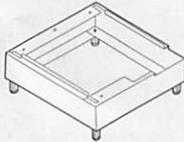
付属品

給茶機

卓上形

取扱・据付工事説明書 (1冊) 部品コード L1W032-02	
排水ホース (1個) 部品コード 4R4737R01	
ブラシ (1個) 部品コード 434785-02	
ジョウゴ (1個) 部品コード 456965-01	
注出アダプタ (1個) 部品コード 4R4815R01 (PTE-F250HWA1には含まれていません)	
シュータ 部品コード 3S0348P01 PTE-250HWA1 : 1個 PTE-F250HWA1 : 1個 PTE-100H2WA1 : 2個 PTE-100H3WA1 : 3個	
転倒防止金具 (1個) 部品コード 3S0848M01	
転倒防止金具固定用ネジ (2個) 部品コード FT20412M0	
メニューシール (1個) 部品コード 372049L01	
かぎ (1個) 部品コード 455722F02	
フィルタ (スポンジ) (1個) 部品コード 4R6096P01	
浄水器 (スケール抑制型浄水器) HK-10GH (1個) 部品コード P02776-01	

オプション

粉碎茶対応用キャニスタ*1(1個) 部品コード 2R4544A01	
注出口カバー (1個) 部品コード 3S2353A01	
キャビネットスタンド高さ変更用ベース (1個) 製品コード W022-D001 高さ : +120mm	
コインメック (1個) 製品コード W022-D002	
コーンスープ注出 対応部品 (1セット) 部品コード 3Y8984A01	

注) *1 粉碎茶対応用キャニスタに変更する場合は、ミキシングケース部をミキシングケース AY (3S4159A01) に交換する必要があります。変更の場合は、最寄のホシザキ販売会社に問い合わせください。

■ キャビネットスタンド

床置 C 形

フレキシブルチューブ (1 個)
部品コード 441048-01
長さ: 950mm



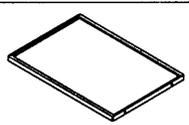
フレキシブルチューブ (1 個)
部品コード 441048-06
長さ: 550mm



パッキン (4 個)
部品コード 441048F01



棚板 (2 個)
部品コード 3S0518M01



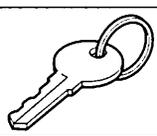
棚板取付金具 (8 個)
部品コード 4R4372M01



ちょうボルト (4 個)
部品コード FBW0812F0



かぎ (1 個)
部品コード 455722F02



床置 T1 形

排水ホース (1 個)
部品コード 3S0652R01



フレキシブルチューブ (1 個)
部品コード 441048-06
長さ: 550mm



パッキン (3 個)
部品コード 441048F01



結束バンド (2 個)
部品コード 7920-0027



ちょうボルト (4 個)
部品コード FBW0812F0



アース線固定用ネジ (1 個)
部品コード FT20408M0

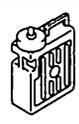


かぎ (1 個)
部品コード 455722F02



床置 T1 形 (オプション)

給水タンク (2 個)
部品コード 342589A01
容量: 10L

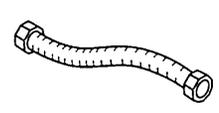


床置 LP 形

排水ホース (1 個)
部品コード 3S0652R01



フレキシブルチューブ (1 個)
部品コード 441048-02
長さ: 850mm



フレキシブルチューブ (1 個)
部品コード 441048-04
長さ: 650mm



フレキシブルチューブ (1 個)
部品コード 441048-06
長さ: 550mm



パッキン (6 個)
部品コード 441048F01



結束バンド (2 個)
部品コード 7920-0027



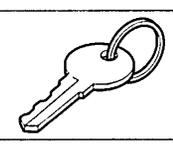
ちょうボルト (4 個)
部品コード FBW0812F0



アース線固定用ネジ (1 個)
部品コード FT20408M0



かぎ (1 個)
部品コード 455722F02



お使いになる前に

■ 据付工事終了時の確認

この確認は、お客様が立ち会いのうえ、専門業者と一緒に行ってください。

据付工事が終了しましたら、正しい工事が行われたことを「据付工事説明」に従ってご確認ください。

(☎ 79 ページ)

■ 運転前の確認

注出部はご使用前に清掃し、各部品が所定の位置に取り付けてあるかご確認ください。

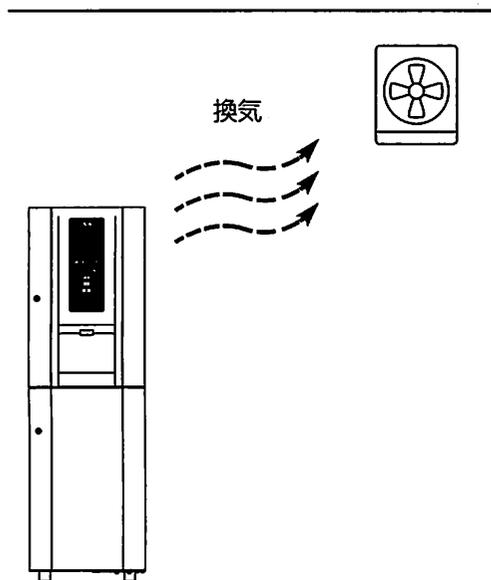
(☎ 13 ページ)

使用上の注意

- 使用温度範囲は周囲温度 5 ~ 35℃、水温 5 ~ 30℃でお使いください。
- 周囲温度が 35℃を超える場合は、換気扇などで換気して 35℃以下にしてください。
- 直射日光が当たらないようにしてください。やむをえず直射日光の当たる場所で使用するときは、日除けを付けてください。
- 給水圧は 0.05 ~ 0.78MPa の範囲内で使用してください。
- 浄水器は、スケール抑制型を取り付けて頂くことをお勧めします。スケール抑制型浄水器を取り付けない場合、水質によっては、製品が故障するおそれがあります。

お知らせ

- 水圧が 0.05MPa よりも低い場合は、お茶（冷茶）の定量が出ない場合があります。また、パウダー原料の溶けが悪くなるおそれがあります。



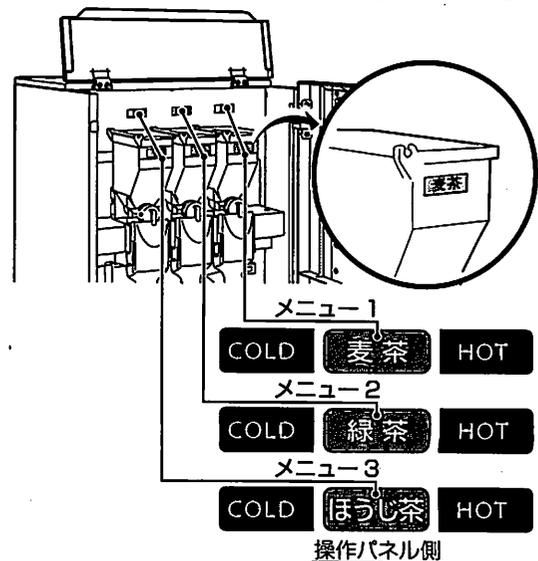
■ 運転前の準備

メニューシールの貼り付け

お知らせ

- 使用されるパウダー原料が、「コーヒー」の場合は、注出をスムーズにするために、必ずメニュー 2 のキャニスタへパウダー原料を入れてください。（PTE-100 シリーズの場合のみ）

パウダー原料の補給まちがい防止のため、キャニスタ取付部（本体側）、キャニスタ、メニューの 3 か所に付属品のメニューシールを貼り付けてください。

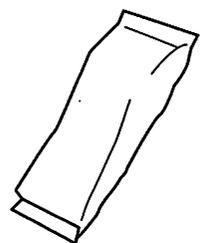


パウダー原料の準備

- パウダー原料は、アグロマート、スプレードライ、またはフリーズドライをお使いください。
- この製品で使用できるパウダー原料は、煎茶・ほうじ茶・玄米茶・麦茶・烏龍茶・紅茶・コーヒーです。これらのパウダー原料は、「HOT」と「COLD」の注出ができます。
- パウダー原料は、当社推奨品をお使いください。推奨品以外のものを使用されると原料の溶け不良や固着などの不具合が発生するおそれがあります。

お知らせ

- 上記以外のパウダー原料（スポーツドリンク、みそ汁、コンソメスープ、コーンスープなど）や類似品を使用する場合は、ホシザキ販売会社にご相談ください。
- パウダー原料によっては、COLD 注出が適さないものがありますのでご使用にあたっては、確認が必要です。
- PTE-F250HWA1 は、粉碎茶専用機です。ご使用になる原料は、粉碎茶をお選びください。



パウダー原料の補給

⚠ 警告

! パウダー原料は、賞味期限内のものを使用し、一度開封したパウダー原料はできるだけ早く使い切ることで健康障害の原因になります。

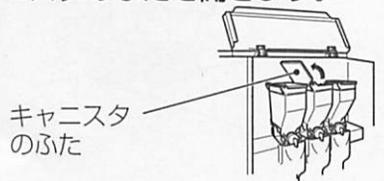
パウダー原料をキャニスタへ入れてください。

使用上の注意

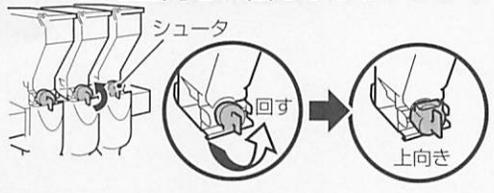
- パウダー原料は、2～3日で消費できる量をキャニスタに入れてください。
パウダー原料が長期間キャニスタ内にあると、固着して放出できなくなるおそれがあります。
- パウダー原料をキャニスタに入れたまま、製品の電源スイッチ（漏電遮断器）を「OFF（切）」にしないでください。スイッチを切ると、防湿機能が動かず、パウダー原料が固着するおそれがあります。（給茶機をご利用にならない時間帯がある場合は、タイマ運転を推奨いたします。
(☞ 39 ページ)
- パウダー原料は使用頻度に合わせて補充し、開封したパウダー原料は湿気らないように保存してください。
- パウダー原料を補給する際は、帯電を軽減して、原料を円滑に放出させるため、シュータを予備のものと交換するようにしてください。

1 フロントパネル、トップパネルを開きます。

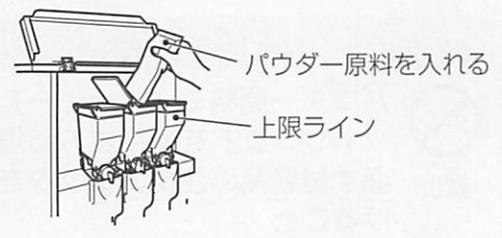
2 キャニスタのふたを開きます。



3 シュータを上向きに回します。



4 キャニスタにパウダー原料を上限ライン（目安）まで補給します。



使用されるパウダー原料によって入れ過ぎると、出にくくなる場合がありますので、上限ライン以下でご使用ください。

5 メンテナンスボタンを押して、正確な放出量になるように5回程度パウダー原料を放出します。
(☞ 43 ページ)

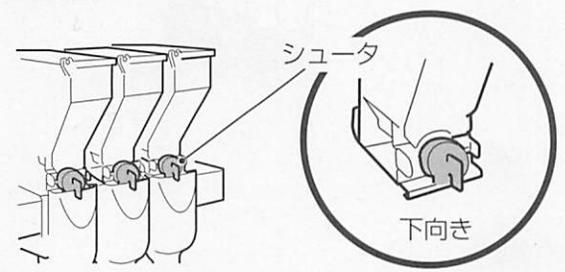
6 シュータを手前に引き出します。
⇒シュータ内にパウダー原料がたまっている場合はキャニスタ内に戻し、シュータをキャニスタに取り付け下向きにします。



シュータ部にパウダー原料がたまったまま使用されると、濃い飲料が注出されたり、場合によっては注出時に異音が発生するおそれがあります。

7 キャニスタのふたを閉じます。

8 シュータが下向きになっていることを確認します。



9 トップパネル、フロントパネルを閉じます。

注出アダプタの取付け

⚠ 警告



禁止

パウダー原料で「コーヒー」「スポーツドリンク」を使用される場合は、必ず付属品の注出アダプタを取り付けること

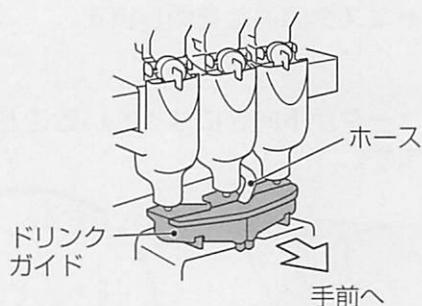
取り付けしないで注出すると、注出がとぎれたりするので、注出の適温ランプが点滅中は手を入れないでください。やけどの原因になります。

注出アダプタを取り付けることで、コーヒー（コールド）注出時の泡立ちをおさえることができます。

使用上の注意

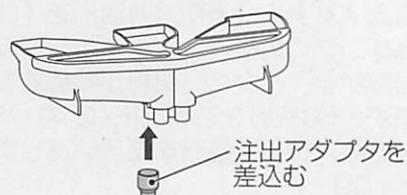
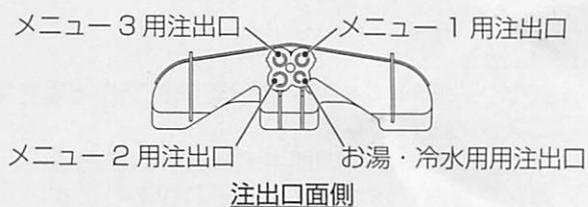
- パウダー原料で「コーヒー」「スポーツドリンク」を使用される場合は、必ず粉種類設定を「コーヒー」にしてください。（☞ 36 ページ）
- 注出アダプタを取り付けた状態で、粉種類設定を「コーヒー」以外にして使用すると、ドリンクガイドから飲料があふれて水漏れの原因になります。

- 1 フロントパネルを開きます。
- 2 ドリンクガイドからホースを外します。
- 3 ドリンクガイドを手前に引き出します。

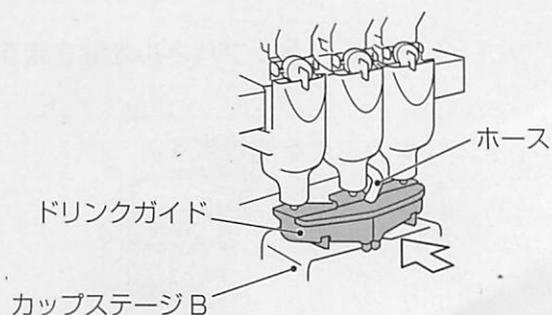


- 4 ドリンクガイドの注出口に注出アダプタを差し込んで取り付けます。

- ・ コーヒー：メニュー 1 用注出口 (PTE-250 シリーズの場合のみ)
- ・ コーヒー：メニュー 2 用注出口 (PTE-100 シリーズの場合のみ)
- ・ スポーツドリンク：メニュー 1～3 用注出口



- 5 ドリンクガイドをカップステージ B の上に取り付けます。
- 6 ホースをドリンクガイドに取り付けます。



- 7 フロントパネルを閉じます。

冷却タンクへの給水

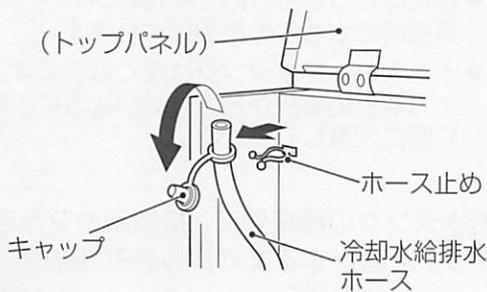
この製品は瞬間冷却式です。ご使用前に、冷却タンクへ冷却用の水（水道水）を入れてください。

お知らせ

- 使用される水道水の水質は、地域により異なるため、水質の違いにより氷の検知が正しく行われず蓄氷しないことがあります。この場合は、冷却タンク内の水に重曹（3g）を混ぜて蓄氷をしやすい水質にし、氷の検知が正しくできるようにする必要があります。詳しくは、ホシザキ販売会社にご連絡ください。
- 安定した冷水運転を行うために、月に一度は冷却タンクの水を入れ替えることをお勧めします。
- 冷却タンク内の水量が減ると正常な冷却運転ができなくなりますが、冷却水給排水ホースのキャップをしたまま運転を続けると、ホース内の水位が下がることがあります。キャップを外して水位が上がる場合は異常ではありませんので、ご注意ください。

1 フロントパネル、トップパネルを開きます。

2 製品内部左側にある冷却水給排水ホースをホース止めから外し、ホース先端のキャップを外します。



3 ジョウゴ（付属品）をホースに円すい部分までしっかり差し込んでジョウゴが水平になるようにホース止めでホースを固定します。

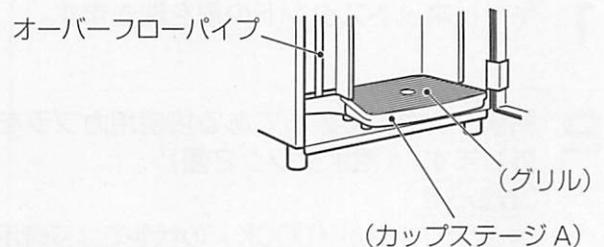
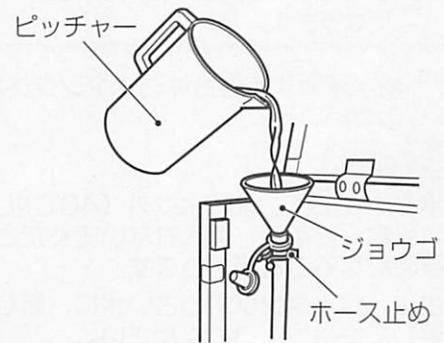


4 ピッチャーなどを利用して、ジョウゴから水道水を入れます。

オーバーフローパイプから水が出てくるまで約 4.3L の水を入れます。

使用上の注意

- 水を入れるときは、ジョウゴからあふれたり、こぼれたりしないよう注意してください。製品に水がかかると故障の原因になります。
- ジョウゴから水があふれる原因になりますので、一度にたくさん給水しないでください。



5 冷却水給排水ホースをホース止めから外しジョウゴを取り外します。

お知らせ

- ジョウゴは紛失しないように保管してください。

6 ホース先端にキャップを差し込み、再びホースをホース止めで固定します。

7 トップパネル、フロントパネルを閉じます。

給水タンクへの給水（床置 T1 形）

警告



洗浄

初めて使用する場合や、しばらく使用を中止した後に使用するときは、給水タンクを十分にすすいでから使用すること

雑菌により健康障害の原因になります。

衛生



水替え

カセット給水タンクの水は毎日入れ替えること

水の腐敗から雑菌が繁殖し、健康障害の原因になります。

カセット給水運転する場合は給水タンクへ水道水を入れてください。

使用上の注意

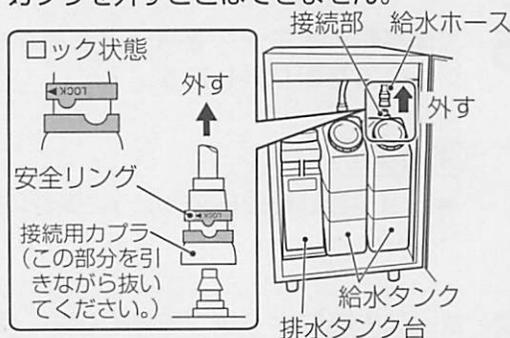
- 給水タンクには、水道水以外（40℃以上のお湯、飲料原料、麦茶等）は入れないでください。故障の原因になることがあります。
- 衛生上、給水タンク内の古い水に、新しい水を継ぎ足して使用しないでください。

1 キャビネットスタンドの扉を開きます。

2 給水タンクに接続してある接続用カプラを外します。（給水タンク2個）

お知らせ

- 安全リングが「LOCK」の状態では接続用カプラを外すことはできません。

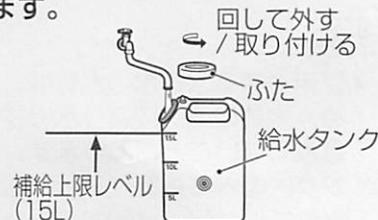


3 給水タンク2個を取り出します。

使用上の注意

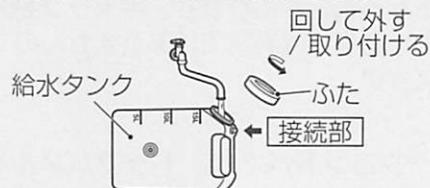
- 給水タンクを取り出すときは、取手部を持って取り出してください。接続部を持って取り出すと、接続部破損の恐れがあります。

4 給水タンクのふたを回しながら外して、1度すすいでから15L表示位置までタンクに水道水を入れます。



お知らせ

- 必ず、両方（2個）の給水タンクに水道水を入れてください。片方のタンクが空では給水できません。
- 給水タンクを立てた状態で水道水が給水できない場合は、給水タンクを横にして給水することが可能です。（タンク内の水位が上がってくると接続部から水が出てきますので、満水にすることはできません。）



5 給水タンクにふたを取り付け、キャビネットスタンドの中に設置します。

使用上の注意

- ふたはしっかりしめてください。運搬時の水もれの原因になります。
- 水を入れた給水タンクは重くなります。ケガなどの事故が発生しないように、運搬・設置に注意してください。

6 給水タンクの接続部に、接続用カプラを「カチッ」と音がするまで押し込み、接続します。



7 キャビネットスタンドの扉を閉じます。

お知らせ

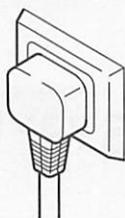
- 給茶機運転中に給水タンクが空（給水ランプが点滅）になったら、給水タンクへ給水して、給茶機のフロントパネルを一度開閉してください。給茶機がリセットされ、給水を開始します。（リセット後は注出準備のため、約30秒間は注出を受けません。）

現在時刻設定

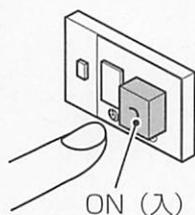
現在の日時を設定してください。

(例) 現在時刻を 2013-10-15、13:01 に変更する場合の手順を以下に記載します。

- 1** 電源コードのプラグを専用コンセントに確実に差し込みます。



- 2** フロントパネルを開いて、電源スイッチ（漏電遮断器）の「ON（入）」を押します。



⇒ 液晶表示部は初期画面になっています。

```
2012-01-01
00:00
ホット 90°C
コールド 2°C
```

お知らせ

- "ホット"と"コールド"の温度は、給茶機の状態によって異なります。

- 3** メニューボタンを押します。



⇒ メニュー項目の表示に切り替わります。

```
>01)ホットタンク オンド*
02)ホット1 セッテイ
03)ホット2 セッテイ
04)ホット3 セッテイ
```

- 4** 機能設定の▲・▼ボタンを押して、「13) ニチジ セッテイ」を選択します。



⇒ ">" が移動します。

```
>13) ニチジ セッテイ
14) ウィークリタイマ
15) ケンリョウ セッテイ
16)
```

- 5** メニュー設定ボタンを押します。



⇒ 表示画面：西暦日時を表示します。

```
13) ニチジ セッテイ
>2012-01-01
00:00
```

- 6** メニュー設定ボタンを押します。



⇒ 表示画面：西暦側の"2012"が点滅表示します。

```
13) ニチジ セッテイ
>2012-01-01
00:00
```

- 7** 機能設定の▲・▼ボタンで西暦側を"2013"に設定します。



```
13) ニチジ セッテイ
>2013-01-01
00:00
```

- 8** メニュー設定ボタンを押します。



⇒ 月の設定に移ります。

```
13) ニチジ セッテイ
>2013-01-01
00:00
```

⇒ 表示画面：月側の"01"が点滅表示します。

```
13) ニチジ セッテイ
>2013-01-01
00:00
```

- 9** 機能設定の▲・▼ボタンで月側を"10"に設定します。



```
13) ニチジ セッテイ
>2013-10-01
00:00
```

10 メニュー設定ボタンを押します。



⇒日にちの設定に移ります。

13) ニチジ、セツテイ
>2013-10-01
00:00

⇒表示画面：日側の
"01" が点滅表示します。

13) ニチジ、セツテイ
>2013-10-01 -
00:00、

11 機能設定の▲・▼ボタンで日側を"15"に設定します。



13) ニチジ、セツテイ
>2013-10-15 -
00:00、

12 メニュー設定ボタンを押します。



⇒時刻の設定に移ります。

13) ニチジ、セツテイ
>2013-10-15
00:00

お知らせ

- 同様に上記の手順に従って、時刻設定を行ってください。

13 メニュー設定終了ボタンを押します。



⇒日時が設定されます。

2013-10-15
13:01

14 メニュー設定終了ボタンを押します。



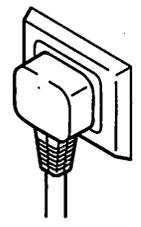
⇒初期画面の表示に切り替わります。

2013-10-15
13:01
ホット 90°C
クール 2°C

15 フロントパネルを閉じます。

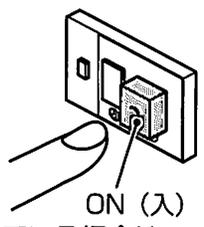
モータバルブの運転のしかた (床置 LP 形)

1 キャビネットスタンドの電源コードのプラグを専用コンセントに確実に差し込みます。



2 キャビネットスタンドの扉を開きます。

3 コントロールボックスの電源スイッチ (漏電遮断器) を「ON」にします。



⇒ 給茶機が正常に動作している場合は、コントロールボックス上の運転ランプが点灯し、状態表示窓に O : 開 (OPEN) を表示します。(モータバルブが開いて、給茶機へ給水を行います。)



4 キャビネットスタンドの扉を閉じます。

お知らせ

● 水漏れを検知すると、給茶機への給水を自動停止します。コントロールボックス上の運転ランプが点灯から点滅に変わり、ブザーが鳴ります。状態表示窓は C : 閉 (CLOSE) を表示します。



浄水器の警告について

浄水器のカートリッジの交換時期になると交換を知らせる警報が設定パネルの液晶表示部に「フィルタコウカン」が表示されますので、必ず交換を行ってください。

交換時期になりましたら、ホシザキ販売会社に連絡して、浄水器のカートリッジの交換を行ってください。

交換時期を過ぎての使用は、健康障害の原因となります。

＜全硬度と通水量によるカートリッジ交換の目安＞

全硬度 (mg/L)	10	20	50	100	200
通水量 (L)	50,000	25,000	10,000	5,000	2,500

＜通水量と注出杯数によるカートリッジ交換の目安＞

杯数 (杯/日)	通水量 (L)				
	50,000	25,000	10,000	5,000	2,500
50	12か月	12か月	12か月	12か月	7か月
100	12か月	12か月	12か月	10か月	6か月
200	12か月	12か月	12か月	6か月	3か月
400	12か月	12か月	7か月	3か月	2か月

日本水道協会 (JWWA) において、衛生の観点から使用限度月数の表示上限を 12 か月と定め、1 年以内のカートリッジ交換を推奨しています。

運転のしかた

■ 運転の手順

⚠ 警告



管理

管理者がかぎを管理すること
いたずらされたり、思わぬ事故の原因になり
ます。

⚠ 注意



挿入禁止

空気の吸込み口や吹出し口に指や棒
などを入れないこと
内部でファンが高速回転しているため、ケガ
の原因になります。

⚠ 衛生



洗浄

手動洗浄を毎日行うこと
冷水経路の水道水に雑菌が繁殖し、健康障害
の原因になります。

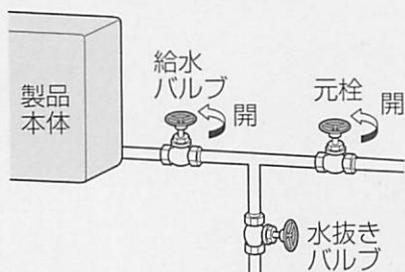
タイマー運転をしないときは手動洗浄をすること

お知らせ

- 断水時は水抜きバルブを開いて、配管にたまった水を抜いてから運転してください。
(卓上形、床置 C・LP 形) (P.49 ページ)

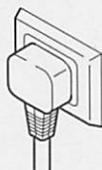
給水と電源スイッチ (漏電遮断器) 「ON (入)」

- 水道の元栓を開き、給水バルブを開きます。
(卓上形、床置 C・LP 形)

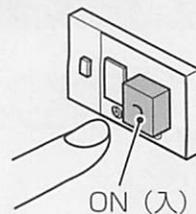


お客様ごとに配管状態が異なります。水道の元栓・給水バルブ・水抜きバルブの位置を確認してください。

- 電源コードのプラグを専用コンセントに確実に差し込みます。



- フロントパネルを開いて、電源スイッチ (漏電遮断器) の「ON (入)」を押します。



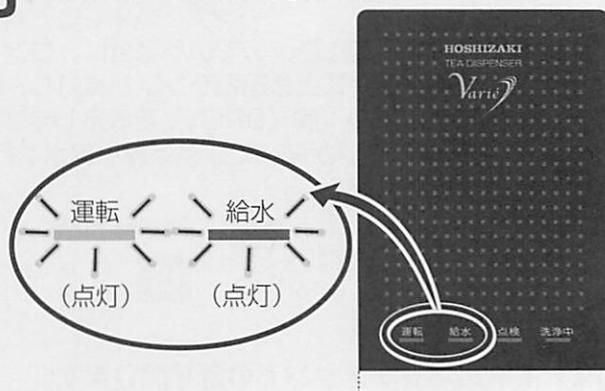
- 冷水を使用する場合は、設定パネルの冷水運転ボタンを押します。



⇒ 冷水運転ランプが点灯し、5 分後に冷水機が運転を開始します。
冷水運転ランプは運転中、点灯し続けます。
(P.41 ページ)

⇒ 冷水運転ボタンを押して、水ランプを消灯させても水 (常温水) の注出は可能です。

- フロントパネルを閉じます。



⇒ 操作パネルの運転ランプ (緑) が点灯し給水ランプ (赤) が点灯して、ホットタンクへの給水が始まります。

⇒ ホットタンク内に、ある程度水がたまり始めると、給水ランプ (赤) が消灯し、自動で加熱を開始します。

⇒ ホットタンクが満水になると、自動で給水を停止します。

- フロントパネルにかぎをかけます。

使用上の注意

- 給水タンクに 2L 以上の水が入っていても給水しないときは、給茶機のフロントパネルを一度開閉してください。給茶機がリセットされ給水を開始します。(床置 T1 形)

お知らせ

- 運転を始めて冷却タンクの蓄氷が完了するまで約 2.5 時間かかります。その間に COLD ボタンで注出しても、十分に冷えた冷水、冷茶は注出されない場合があります。
- 運転を始めて冷却タンクの蓄氷が完了するまでに冷水を注出したり、連続注出能力以上に冷水を注出すると、一時的に冷水注出ができなくなることがあります。これは冷却タンクへの蓄氷が優先されるためで故障ではありません。約 30 分程度で再び注出が可能になります。
- 運転中に給水ランプが点滅したときは、断水している場合があります。断水の回復を待ってから、フロントパネルを一度開閉してください。給茶機がリセットされ給水を開始します。(卓上形、床置 C・LP 形)
- 液晶表示部に「レイキャクスイライレカエテクダサイ」の表示が出ていると、冷却水の水質が変化して冷水の注出能力が低下している可能性があります。一度、冷却タンク内の水を排水をして(☞ 46 ページ) 冷却用の水を給水してください。(☞ 23 ページ)

ホット運転の停止について

- ホット運転を「停止」に設定したら、ホットタンクを衛生的に保つためタンク内を空(排水)にし、排水コックを「開」の状態にしてください。(☞ 45 ページ) 排水コックが「閉」のままだと、点検ランプが点滅し、液晶表示部に「ハイスイバルブヲアケテクダサイ」と表示します。

冷水運転の停止について

- フロントパネルを開いて、設定パネルの冷水運転ボタンを押し、運転ランプを消灯させてください。(☞ 41 ページ) 冷凍機の運転が停止します。冷水運転を停止しても、水(常温水)の注出は可能です。
- 冷却用の水は、腐敗防止のため、排水してください。(☞ 46 ページ) 冷水運転を再開するときは、再度冷却用の水を給水してください。(☞ 23 ページ)

■ 注出のしかた

⚠ 警告



注出中や洗浄中はフロントパネルを開けないこと

禁止 水漏れの原因になります。また、水漏れすると、感電の原因になります。



お茶、お湯等の注出中、および手動洗浄・自動洗浄中は、注出口付近に手や顔を近づけないこと

禁止 熱いお茶やお湯等がかかり、やけどの原因になります。

⚠ 注意



飲みのこしたお茶などを取出口に捨てないこと

禁止 排水口が詰まる原因になります。



ミキシングケースを取り外すときは注意すること

熱湯注意 注出ボタンを押しても飲料が注出されない場合、ミキシングケース内に熱湯が残っていることがあるため、やけどの原因になります。

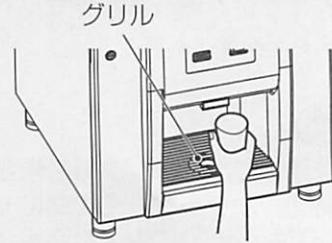
使用上の注意

- HOT ボタンで注出するときは、適温ランプが点灯していることを確認してください。点灯していない状態で注出すると、設定温度より低い温度のお湯が注出されます。
(工場出荷設定時：設定温度が 90℃ の場合、78℃ 以下のお湯が注出されます。)
- COLD ボタンで注出するときは、適温ランプが点灯していることを確認してください。点灯していない状態で注出すると、十分に冷えていない水が注出されます。
(工場出荷設定時：適温ランプは水温に関係なく点灯するように設定されています。お好みの温度で適温ランプが点灯するように設定してください。)
- 給水ランプが点灯しているときや、フロントパネルが開いているときは、HOT または COLD ボタンを押しても注出されません。

お知らせ

- 使いはじめは、飲料にゴム臭がする場合がありますが、使用しているうちに無くなります。
- コーヒーを COLD で注出すると、泡立ちが多くなることがあります。これは、原料製法に由来するもので、品質上、問題はありません。

- 1 グリル中央に湯呑みまたは飲料用カップを置きます。



- 2 お好みのメニューボタンを押します。

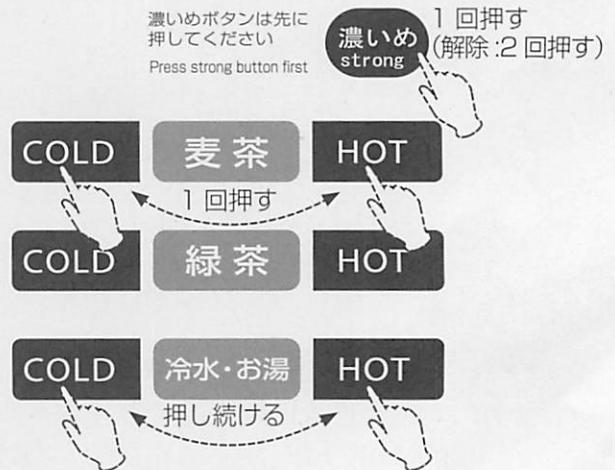
お知らせ

- 濃いめのお茶にするときは、HOT または COLD ボタンを押す前に、濃いめボタンを 1 回押します。濃いめ具合の設定は、「機能設定」を参照してください。(P.36 ページ)
- 濃いめボタンを 2 回押すと、解除されます。

⇒「冷水・お湯」以外のメニューの HOT または COLD ボタンを押すと、ボタン周囲の適温ランプが点滅し、一定量注出されます。

⇒「冷水・お湯」メニューの HOT または COLD ボタンを押すと、ボタン周囲の適温ランプが点滅し、ボタンを押している間、連続で注出されます。

濃いめボタンは先に押してください
Press strong button first



パウダー原料の補給

- パウダー原料がキャニスタ内にあるかを使用頻度に応じて確認してください。
- 注出した飲料の味が薄い場合やしない場合は、キャニスタにパウダー原料が残っているか確認し、空の場合には補給してください。(P.21 ページ)

■ 注出量・粉量設定

工場出荷時の設定値

注出量・粉量、ホットタンク湯温は工場出荷時に設定されています。このまま使用できますが、お好みで設定値を変更したりすることができます。

パウダー原料の種類によっても、注出量・粉量を調節することが必要になります。



(工場出荷時)

項目	設定値	設定内容
ホットタンク湯温	90℃	65～94℃まで1℃刻みで湯温度を変更できます。
注出量	90mL	各キャニスタについて、それぞれ停止または90～250mLまで、10mL刻みで設定することができます。「HOT」・「COLD」個別に注出量を変更できます。
粉量	5	各キャニスタについて、それぞれ1(薄い)～20(濃い)まで、20段階でお茶の濃さを設定することができます。「HOT」・「COLD」個別に濃さを変更できます。
飲み頃温度*1	70℃	各キャニスタについて、それぞれ50～90℃まで1℃刻みで注出温度設定できます。「HOT」側だけの注出温度を変更できます。
冷水	—	冷水温度を設定することはできません。(冷却タンク内の水温表示だけ。)

注) *1 飲み頃温度の設定は、ホットタンク湯温より高い温度の設定はできません。また、冷水運転を停止(常温水を注出)した場合は、ホットタンクの湯温で注出します。

キャニスタ装備数

PTE-250HWA1/F250HWA1
(1 キャニスタ仕様)

	メニュー1
「HOT」側	ホット1
「COLD」側	コールド1

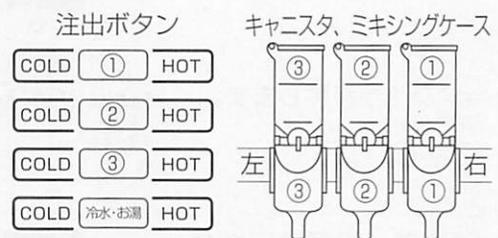
PTE-100H2WA1 (2 キャニスタ仕様)

	メニュー1	メニュー2
「HOT」側	ホット1	ホット2
「COLD」側	コールド1	コールド2

PTE-100H3WA1 (3 キャニスタ仕様)

	メニュー1	メニュー2	メニュー3
「HOT」側	ホット1	ホット2	ホット3
「COLD」側	コールド1	コールド2	コールド3

注出ボタン、キャニスタ、ミキシングケースの番号は連動しています。(図は、3キャニスタ仕様です。1キャニスタ仕様には②と③、2キャニスタ仕様には③はありません。)



注出量を変更する

注出量は、給茶機のキャニスタ数に応じて「HOT」と「COLD」側の設定変更ができます。

(例) コールド2の注出量：90 → 120mLに変更する場合の手順を以下に記載します。

1 フロントパネルを開きます。

⇒ 液晶表示部は初期画面になっています。

2013-10-15
13:01
ホット 90°C
コールド 2°C

2 注出量ボタンを押します。



⇒ "チュウシュツリョウ セッテイ" の表示に切り替わります。

チュウシュツリョウ セッテイ
>ホット
コールド

3 注出量・粉量設定の▲・▼ボタンを押して、"コールド" を選択します。



⇒ ">" が移動します。

チュウシュツリョウ セッテイ
ホット
>コールド

4 注出量・粉量設定ボタンを押します。



⇒ 「コールド番号」の表示に切り替わります。

>コールド	1	90mL
コールド	2	90mL
コールド	3	90mL

5 注出量・粉量設定の▲・▼ボタンを押して変更したいキャニスタを選択します。



⇒ ">" が移動します。

コールド	1	90mL
>コールド	2	90mL
コールド	3	90mL

6 注出量・粉量設定ボタンを押します。



⇒ 選択したコールド番号の設定値が点滅します。(コールド番号が確定されます。)

コールド	1	90mL
>コールド	2	90mL
コールド	3	90mL

コールド	1	90mL
>コールド	2	-90mL
コールド	3	90mL

7 注出量・粉量設定の▲・▼ボタンで設定値を"120"に変更します。



コールド	1	90mL
>コールド	2	-120mL
コールド	3	90mL

お知らせ

- ▲・▼ボタンを押し続けると連続で数値が変わります。
- 途中で注出量・粉量設定終了ボタンを押すと解除され、1つ前の設定表示画面に戻ります。

8 注出量・粉量設定ボタンを押します。



⇒ 設定した数値が確定します。

コールド*	1	90mL
>コールド*	2	120mL
コールド*	3	90mL

お知らせ

- 他のホットまたはコールド番号の設定値を変更する場合も、同じように続けて変更できます。

9 注出量・粉量設定終了ボタンを2回押します。



⇒ 初期画面の表示に切り替わります。

2013-10-15	
13:01	
ホット*	90°C
コールド*	2°C

10 フロントパネルを閉じます。

粉量を変更する

粉量は、給茶機のキャニスタ装備数に応じて「HOT」と「COLD」側の設定変更ができます。

1 フロントパネルを開きます。

⇒液晶表示部は初期画面
になっています。

2013-10-15
13:01
ホット 90°C
コールド 2°C

2 粉量ボタンを押します。



⇒「コナリョウ セッテイ」の表示に切り替わります。

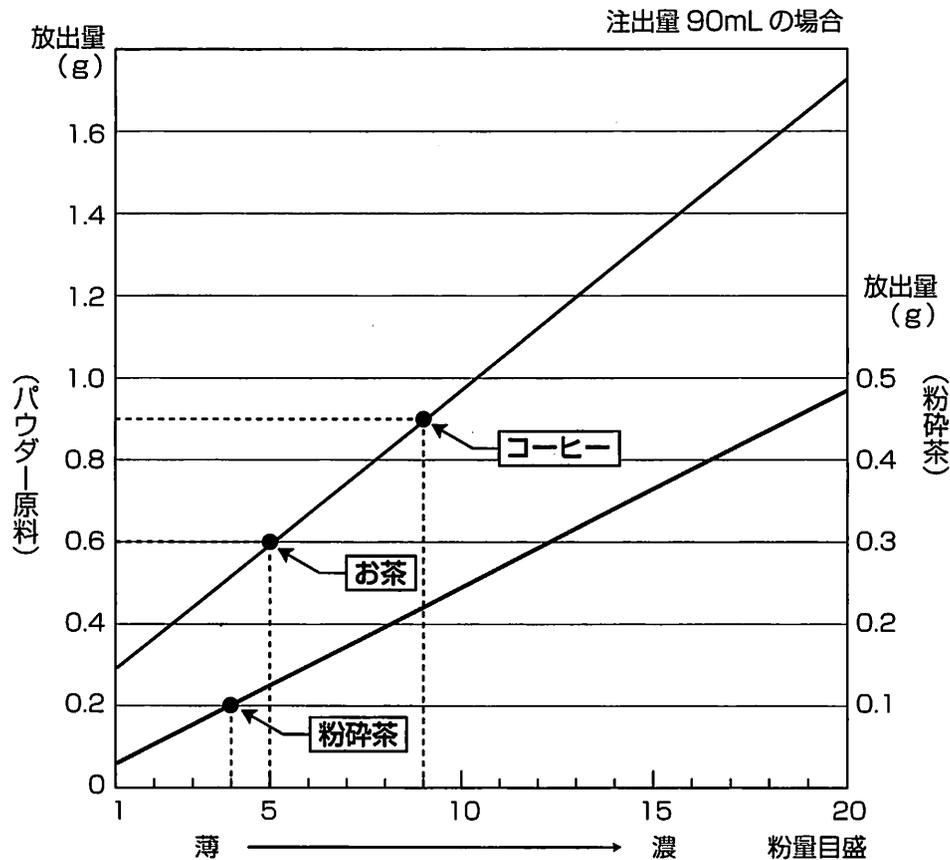
コナリョウ セッテイ
>ホット
コールド

お知らせ

- 手順3以降は、「注出量を変更する」の手順3～10を参照してください。(☞32～33ページ)
- 粉量を変更する場合は、5回ほどパウダー原料を放出して調節してください。(☞43ページ)

パウダー原料放出の目安

粉量目盛と放出量の関係は下記のようなグラフになります。使用されるパウダー原料により関係は異なりますので、目安としてください。



その他のパウダー原料目安 (注出量 90mL の場合)

種類	粉量目盛	放出量 (g)
スポーツドリンク	8	1.1
みそ汁	4	4.2
コンソメスープ	5	3.4
コーンスープ	7	5.8

使用上の注意

- 使用されるパウダー原料がコーヒーの場合は、注出を円滑にするため、メニュー 2 のキャニスタへパウダー原料を入れてください。(PTE-100 シリーズの場合のみ)

お知らせ

- キャニスタへパウダー原料を補給したときや粉量を変更したときなどは、正確な量が放出されない場合があります。正確な放出量になるには、5 回ほどパウダー原料放出が必要です。(P 43 ページ)
- 注出量を変更しても濃度は一定に保たれますので、粉量設定を変更する必要はありません。

■ 機能設定

各機能の初期設定内容の確認、変更をすることができます。各機能の項目は以下のとおりです。

番号	項目	液晶表示画面	設定内容	工場出荷時
01	ホットタンク湯温	ホットタンク オンド	65～94℃ (1℃単位ごと)	90℃
02	ホット1	ホット1 セッテイ	注出量：停止/90～250mL 粉量：1～20 粉種類：お茶/コーヒー/その他*1	注出量：90mL 粉量：5 粉種類：お茶
03	ホット2	ホット2 セッテイ	かくはん時間：2～40秒*2 注出量補正：-9～9mL	かくはん時間：5秒 注出量補正：0mL
04	ホット3	ホット3 セッテイ	飲み頃温度設定：有効/無効*3 飲み頃温度：50℃～90℃ コインメック：有効/無効	飲み頃温度設定：無効 (F250HWA1は有効) 飲み頃温度：70℃ コインメック：無効
05	ホットタンク運転	ホットウンテンセッテイ	停止/運転*15	運転
06	コールド1	コールド1 セッテイ	注出量：停止/90～250mL *16 粉量：1～20	注出量：90mL 粉量：5
07	コールド2	コールド2 セッテイ	かくはん時間：2～40秒	かくはん時間：5秒
08	コールド3	コールド3 セッテイ	注出量補正：-9～9mL コインメック：有効/無効	注出量補正：0mL コインメック：無効
09	—	(表示なし)	設定不可	—
10	お湯注出モード	オコ チュウシュツ	注出モード：任意/定量 注出量：停止/90～250mL 飲み頃温度設定：有効/無効 飲み頃温度：50℃～90℃	注出モード：任意 注出量：90mL 飲み頃温度設定：無効 (F250HWA1は有効) 飲み頃温度：70℃
11	水注出モード	ミス チュウシュツ	注出モード：任意/定量 注出量：停止/90～250mL *16	注出モード：任意 注出量：90mL
12	粉増量	コナソウリョウセッテイ	なし/10～50% (0%の時に、OFF表示する)	30%
13	現在時刻	ニチジ セッテイ	2012年1月1日から2050年12月31日 00:00～23:59	日時設定：2012年1月1日 00:00
14	ウィークリータイマー	ウィークリタイマ	毎日/月・火・水・木・金・土・日 開始時間 00:00～23:59 終了時間 00:00～23:59	月～金は 土・日は 開始時間 07:00 開始時間 07:00 終了時間 20:00 終了時間 07:00
15	原料	ゲンリョウ セッテイ	パウダー茶/粉碎茶 (各キャニスタごと)	パウダー茶 (F250HWA1は粉碎茶)
16	—	(表示なし)	設定不可	—
17	ブザー音	ブザー	注出開始時：有効/無効 注出中：有効/無効 音量：0～5レベル	注出開始時：有効 注出中：有効 音量：3レベル
18	ホット注出ボタン 適温時点灯	ホット テキオン	湯温に関係なく点灯/50～92℃*4,11,14	78℃：PTE-100H2WA1,100H3WA1 77℃：PTE-250HWA1,F250HWA1
19	コールド注出ボタン 適温時点灯	コールド テキオン	水温に関係なく点灯/3～20℃*4,12	水温に関係なく点灯
20	自動洗浄	ジドウ センジョウ	洗浄：有効/無効*5 ブザー通知：有効/無効 水回路洗浄：有効/無効*5	洗浄：有効 ブザー通知：有効 水回路洗浄：有効
21	ミキシング洗浄	ミキシングセンジョウ	洗浄量：300～1000mL (50mL単位ごと) 洗浄時間：10～30秒 (5秒単位ごと)	洗浄量：300mL *13 洗浄時間：20秒
22	水回路洗浄	ミスカイロ センジョウ	通水量：500～2500mL (100mL単位ごと)	通水量：2000mL
23	給水方式	キュウスイ ホウシキ	カセット給水/水道*6	水道
24	コールドタンク蓄水量	チクヒョウリョウ	少ない/標準/多い*7	標準
25	ヒーター制御	ヒータセイギョ	有効/無効*8	有効
26	お湯経路の循環時間	オコ ジュンカン	なし/10～120分 (10分単位ごと)*9	20分 (10分単位ごと)
27	故障履歴表示	コショウリレキ	最新の故障履歴 5つを表示 (履歴がない部分は番号だけ表示する) 故障履歴消去：実行/中止 (消去完了すると「完了」と表示する)	故障履歴消去：中止
28	注出回数	チュウシュツ カウンタ	注出回数 9,999,999 杯まで表示 お湯・ホット1・ホット2・ホット3 水・コールド1・コールド2・コールド3 注出回数クリア：実行/中止	注出回数 0 杯表示 お湯・ホット1・ホット2・ホット3 水・コールド1・コールド2・コールド3 注出回数クリア：中止
29	浄水器交換	フィルタ コウカン	交換時期設定：2012年1月1日～2050年12月31日 交換通知：有効/無効*10	交換時期設定：2012年1月1日 交換通知：有効

注) *1 使用されるパウダー原料により、粉種類を設定してください。
 お茶 : 煎茶、ほうじ茶、玄米茶、麦茶、烏龍茶、紅茶
 コーヒー : コーヒー、スポーツドリンク
 その他 : 上記以外の原料
 その他で設定するパウダー原料(みそ汁、スープ類など)は、コールド飲料での注出に適さないものがありますので、コールド注出量は「停止」に設定してください。

*2 かくはん時間の設定は、粉種類を「コーヒー(コールド)」、「その他」に設定したときだけ有効です。
 かくはん時間の目安(90 mL注出の場合)

コーヒー	5秒(コールド設定のみ)
スポーツドリンク	7秒(コールド設定のみ)
みそ汁	15秒
スープ類	5秒

粉量、注出量の設定により異なりますので、目安としてください。

- *3 飲み頃温度設定は、01で設定したホットタンク湯温より高い設定はできません。(飲み頃温度の設定上限値は設定タンク湯温-4℃です。)冷水運転ボタンが消灯の場合、粉種類が「その他」の場合、飲み頃温度設定は無効となります。
- *4 適温ランプの点灯温度を設定します。
- *5 自動洗浄の有効/無効の設定はウィークリータイマー実施時の場合です。手動洗浄の場合は対象外です。
- *6 **使用上の注意** 床置T1形の場合、給水方式は「カセット給水」に設定してください。
- *7 冷却タンクの凍結が発生する場合は、蓄水量を「少ない」に設定してください。
- *8 ヒータ制御を「有効」に設定すると、ウィークリータイマー実施時に長時間給茶機が停止していても定期的に昇温を実施するため、ホットタンク内の水を衛生的に保つことが可能です。
- *9 お湯循環時間を設定すると、製品内部の注出経路にあるお湯を自動的に入れ替えることが可能です。
- *10 液晶表示部に浄水器カートリッジの交換表示が出た場合、次の交換時期を設定(更新)しないかぎり、表示は消えません。交換時期を設定しなくても、電源をOFFにすると表示は消えますが、設定された交換日から30日目ごとに最大2回まで再度交換表示を行います。
- *11 「なし」に設定すると、湯温に関係なくHOTボタン周囲の適温ランプが点灯します。そのため、希望した注出温度よりも低い温度で注出される場合があります。
- *12 「なし」に設定すると、水温に関係なくCOLDボタン周囲の適温ランプが点灯します。そのため、希望した注出温度よりも十分に冷えていない温度で注出される場合があります。
- *13 ミキシング洗浄量および洗浄時間は、工場出荷時、推奨値を設定していますが、ミキシングケース内の汚れが落ちにくい場合は、使用状況により数値を設定しなおしてください。
- *14 数値は、01で設定したホットタンク湯温より低い値を設定してください。高い値を設定すると、適温ランプが点灯しなくなります。
- *15 ホット運転を「停止」に設定したら、排水コックは「開」の状態にしてください。排水コックが「閉」のままだと、点検ランプが点灯し、液晶表示部に「ハイスイバルプリアケテクダサイ」と表示します。
- *16 コールド、水を注出しない場合は、06~08・11の注出量を「停止」に設定してください。

■ コインメックについて

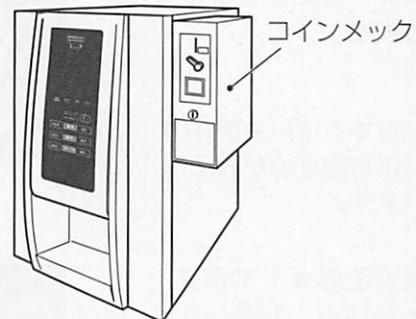
使用上の注意事項

コイン(硬貨)を受け付けない条件は下記となりますので、ご注意ください。

- 電源「停止(切)」のとき。
- ウィークリータイマーにて「停止(切)」の時間帯のとき。
- 断水および断水検知のとき。
- ホットタンク内が空のとき。
- 洗浄中のとき。
- 排水満水のとき(カセット給水仕様のみ)
- ホットタンク湯温検知サーミスター異常のとき。(ホット注出スイッチのみ)
- 冷水タンク水温検知サーミスター異常のとき。(コールド注出スイッチのみ)

お知らせ

- 釣り銭は出ません。
(設定金額より高い金額の硬貨を入れると返却されます。)
- 金額設定は1種類しかできません。
(キャニスター毎やホット&コールド毎に設定金額を変えることはできません。)
- コインセレクトのレバーは釣り銭返却用のレバーではありません。
(投入した硬貨が詰まったときに、レバーを下げると硬貨が返却されます。)
- コインセレクトの表示部は設定金額を示していますが、硬貨を投入していくとその金額に合わせて表示は減額していきます。設定金額分の硬貨を投入すると、注出可能な注出ボタンが点灯します。
(表示部は設定金額に達すると1秒後に元の設定金額に戻ります。)



機能設定を変更する

機能設定変更の操作方法について説明します。

(例) ホット2の粉種類：お茶→コーヒーに変更する場合の手順を以下に記載します。

1 フロントパネルを開きます。

⇒液晶表示部は初期画面
になっています。

2013-10-15
13:01
ホット 90°C
コールド 2°C

2 メニューボタンを押します。



⇒メニュー項目の表示に
切り替わります。

>01)ホットタンク オント
>02)ホット1 セッテイ
>03)ホット2 セッテイ
>04)ホット3 セッテイ

3 機能設定の▲・▼ボタンを押して、変更する項目を選択します。

(例)
"03)ホット2 セッテイ"
に変更します。

⇒">"が移動します。



01)ホットタンク オント
02)ホット1 セッテイ
>03)ホット2 セッテイ
04)ホット3 セッテイ

4 メニュー設定ボタンを押します。

⇒変更する項目の現在の
動作や設定値が表示さ
れます。



03)ホット2 セッテイ
>チュウシュツリョウ 90mL
コナリョウ 5
コナシユイ オチャ

5 機能設定の▲・▼ボタンを押して、変更したい項目を選択します。

(例)
"粉種類"を変更します。

⇒">"が移動します。



03)ホット2 セッテイ
チュウシュツリョウ 90mL
コナリョウ 5
>コナシユイ オチャ

6 メニュー設定ボタンを押します。



⇒選択した項目の動作ま
たは数値が点滅します。
(項目が確定されます。)

03)ホット2 セッテイ
チュウシュツリョウ 90mL
コナリョウ 5
>コナシユイ ■■■

03)ホット2 セッテイ
チュウシュツリョウ 90mL
コナリョウ 15
>コナシユイ - オチャ

7 機能設定の▲・▼ボタンを押して希望の動作または数値に変更します。

(例)
"粉種類：お茶→コーヒー"
に変更します。



03)ホット2 セッテイ
チュウシュツリョウ 90mL
コナリョウ 15
>コナシユイ - コーヒー

お知らせ

- ▲・▼ボタンを押し続けると連続で数値または項目が変わります。
- メニュー項目に設定内容が複数ある場合は、">"が移動しながら画面が次ページに切り替わり、続けて変更できます。続けて他の項目の変更をする場合は、手順5から行ってください。
- 途中でメニュー設定終了ボタンを押すと解除され、1つ前の設定表示画面に戻ります。

8 メニュー設定ボタンを押します。

⇒変更した動作または数
値が確定します。



03)ホット2 セッテイ
チュウシュツリョウ 90mL
コナリョウ 5
>コナシユイ コーヒー

9 メニュー設定終了ボタンを2回押します。

⇒初期画面の表示に切り
替わります。



2013-10-15
13:01
ホット 90°C
コールド 2°C

10 フロントパネルを閉じます。

■ 週間タイマー

この製品には週間タイマー機能が備えてあります。曜日ごとに毎日の「運転（入）」、「停止（切）」の時間を決めて自動でタイマー運転させることができます。

週間タイマー設定

タイマー運転をする前には、現在の日時を設定してください。(☞ 25 ~ 26 ページ)

使用上の注意

- 「運転（入）」、「停止（切）」時刻を同じにした場合は、電源が入らず運転を開始しません。工場出荷時は下記の設定になっているため、土曜日および日曜日は運転しません。

< 月曜日～金曜日 >

開始時間：7：00 終了時間：20：00

< 土曜日、日曜日 >

開始時間：7：00 終了時間：7：00

(例) < 毎日 > 開始時刻：07:00/ 終了時刻：20:00
を < 木曜日 > だけ 開始時刻：06:00/ 終了時刻：21:00 にする場合の手順を以下に記載します。

1 フロントパネルを開きます。

⇒ 液晶表示部は初期画面になっています。

2013-10-15
13:01
ホット 90°C
クール* 2°C

2 メニューボタンを押します。



⇒ メニュー項目の表示に切り替わります。

>01) ホットタンク オンド*
02) ホット1 セッテイ
03) ホット2 セッテイ
04) ホット3 セッテイ

3 機能設定の▲・▼ボタンを押して、「14) ウィークリタイマ」を選択します。

⇒ ">" が移動します。



13) ニチジ* セッテイ
>14) ウィークリタイマ
15) ケンリョウ セッテイ
16)

4 メニュー設定ボタンを押します。

⇒ 表示画面：設定画面を表示します。



14) ウィークリタイマ
マイニチ
>カイン 07:00
シュウリョウ 20:00

5 機能設定の▲・▼ボタンで曜日を設定します。

(例)
"木曜日" に変更します。



14) ウィークリタイマ
モクヨウ
>カイン 07:00
シュウリョウ 20:00

お知らせ

- 同様に上記の手順に従って、開始・終了時刻の設定を行うことができます。

14) ウィークリタイマ
モクヨウ
>カイン 06:00
シュウリョウ 21:00

6 メニュー設定終了ボタンを2回押します。

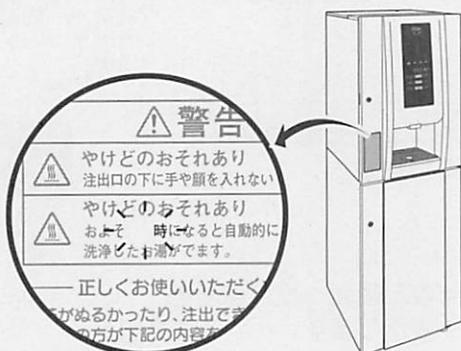
⇒ 初期画面の表示に切り替わります。



2013-10-15
13:01
ホット 90°C
クール* 2°C

7 フロントパネルを閉じます。

8 フロントパネルに貼り付けてある PL ラベル / コウオンに、油性マジックで自動洗浄開始時刻 (タイマー終了時刻) を書き込みます。



9 記入した数字が消えないように、上から透明のテープを貼ります。

タイマー予約運転

あらかじめ設定しておいた週間タイマーによる曜日・時間で「運転 (入)」、「停止 (切)」を行います。
(☞ 39 ページ)

タイマー予約運転を行うと、週間タイマー設定 (☞ 39 ページ) で設定した「停止 (切)」、「運転 (入)」時刻に、自動でミキシングケースの洗浄と水経路内を衛生的に保つため、冷水経路内の通水による洗浄を行います。

自動洗浄について

- 設定したタイマー終了時刻にミキシングケースの洗浄を行います。
- 設定したタイマー開始時刻に冷水経路内の洗浄を行います。(冷水運転ボタンが OFF でも水経路内洗浄は実施されます。)

1 フロントパネルを開いて、設定パネルのタイマー予約ボタンを押します。



⇒タイマー予約ランプが点灯し、タイマー予約運転を開始します。

2 フロントパネルを閉じます。

お知らせ

- 2週間以上電源が入っていない状態が続いた後で電源が入ると現在時刻がリセットされ、表示が「00:00」になります。
- タイマー予約運転を再開する場合は、現在時刻を正しく設定してから、タイマー予約ボタンを押してください。
- 現在時刻を正しく設定しないと運転ランプが点滅したままとなり、タイマー予約運転を行うことができません。

タイマー予約運転を中止する場合

1 もう一度、タイマー予約ボタンを押します。



⇒タイマー予約ランプが消灯し、タイマー予約運転を中止します。

■ その他

冷水運転

⚠ 衛生



手動洗浄を毎日行うこと

水経路の水道水に雑菌が繁殖し、健康障害の原因になります。

洗浄

冷水を使用する場合は、冷水運転ボタンを押して冷水機を運転させてください。冷水運転ボタンを消灯させると、水（常温水）の注出が可能です。

1 冷却タンクに水が入っていることを確認します。

水位を確認してください。（P. 23 ページ）

2 フロントパネルを開いて、設定パネルの冷水運転ボタンを押します。



⇒冷水運転ランプが点灯し、5分後に運転を開始します。冷水運転ランプは運転中、点灯し続けます。

3 フロントパネルを閉じます。

水（常温水）を注出したい場合

1 もう一度冷水運転ボタンを押します。



⇒冷水運転ランプが消灯し、冷凍機の運転を停止します。冷水運転ボタンを消灯させても、水（常温水）の注出は可能です。

2 冷却水を一度抜きます。

⇒再開する場合は、必ずタンクに水を入れてください。

手動洗浄

⚠ 警告



洗浄を行う場合は、ミキシングケースを取り付けた状態で行うこと

取り付けていないと、本体内に水があふれて、製品のショート、感電、錆、故障の原因になります。

ミキシングケースの洗浄と水経路内の通水による洗浄を行います。

お知らせ

- 洗浄に使用のお湯と水の総量は最大約 5.5L になります。
- 床置 T1 形をご使用の場合は、給水タンク内の水量が半分以上で行ってください。
- 床置 T1・LP 形をご使用の場合は、排水タンク内に十分な排水容量（4/5 以上）があることを確認してから行ってください。排水タンク内に十分な排水容量を確保しておかないと、途中で終了したり、洗浄を行わない場合があります。

1 フロントパネルを開いて、設定パネルの手動洗浄ボタンを押します。



⇒手動洗浄ランプが点灯します。

2 フロントパネルを閉じます。

⇒ミキシングケースの洗浄、水経路内の洗浄の順で洗浄を開始し、約 2 分間（工場出荷時の設定）行います。

お知らせ

- フロントパネルが開いた状態では洗浄を行いません。
- 洗浄中にフロントパネルを開くと洗浄を中止し、手動洗浄が解除されます。

標準設定

注出量・粉量、ホットタンク湯温などは任意で設定変更しても、以下の手順で工場出荷時の設定に戻すことができます。

標準設定に戻すことのできる機能設定項目 (☞ 36 ページ) は 01 ~ 04、06 ~ 12 です。

- 1 フロントパネルを開いて、設定パネルの標準設定ボタンを 3 秒以上押し続けます。



⇒ “ピーツ” と音が鳴ります。

⇒ 表示画面：“標準設定完了” と表示されます。

ヒョウジュンセツテイ
カンリョウ

⇒ 5 秒後に初期画面に戻ります。

2013-10-15
13:01
ホット 90°C
ユールト 2°C

- 2 フロントパネルを閉じます。

注出ロックボタン

全ての注出を停止させることができます。

- 1 フロントパネルを開いて、設定パネルの注出ロックボタンを 3 秒間押し続けます。



⇒ 液晶表示部に「チュウシュツロック」の表示が出て、全ての注出ができなくなります。

- 2 フロントパネルを閉じます。

- 3 全注出停止を解除するときは、注出ロックボタンをもう一度押します。

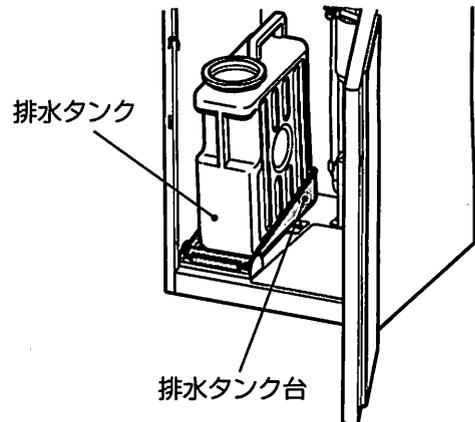
排水タンク台 (床置 T1・LP 形)

飲みのコシなどの排水は製品に内蔵されている排水タンクで受けます。

排水タンクが満水になると、全適温ランプが点滅します。満水になったら、排水タンク内の排水を捨て、排水タンクを洗浄してください。(☞ 48 ページ)

お知らせ

- 排水タンクが満水になると検知し、注出と手動洗浄、タイマー予約運転による自動洗浄を行うことができません。



メンテナンス (原料放出確認用)

フロントパネルを開いた状態で、放出動作を確認することができます。(放出原料を受ける容器を準備してください。)

お知らせ

- キャニスタへパウダー原料を補給したときや粉量を変更したときなどは、正確な量が放出されない場合があります。正確な放出量になるには、5回ほどパウダー原料放出が必要です。(☞ 35 ページ)

- 1 フロントパネルを開いて、設定パネルのメンテナンスボタンを押します。



⇒ メンテナンスボタンのランプが点灯し、フロントパネルを開いた状態でのパウダー原料放出が行える状態になります。

- 2 原料放出を確認したいキャニスタに連動したメニューの HOT または COLD ボタンを押します。(☞ 31 ページ)

⇒ パウダー原料が放出されます。

お知らせ

- 準備した容器を放出口に近づけ、原料を回収してください。

- 3 原料放出の確認が終わったら、メンテナンスボタンをもう一度押します。



⇒ メンテナンスボタンのランプが消灯します。

- 4 フロントパネルを閉じます。

停止のしかた

■ 停止の手順

⚠ 警告

-  電源スイッチ（漏電遮断器）「ON（入）」のまま電源プラグを抜かないこと
禁止
感電の原因になります。

お知らせ

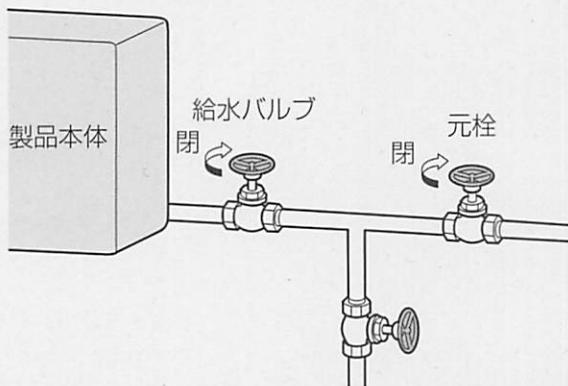
- キャニスタ内にパウダー原料が入った状態で電源スイッチを OFF にすると、キャニスタ内のパウダー原料の品質を維持できません。電源スイッチを OFF にする場合は、パウダー原料を他の密閉できる容器に移し替えてください。

停止する場合は、下記の手順に従ってください。

- 1 水道の元栓を閉じ、給水バルブを閉じます。（卓上形、床置 C・LP 形）

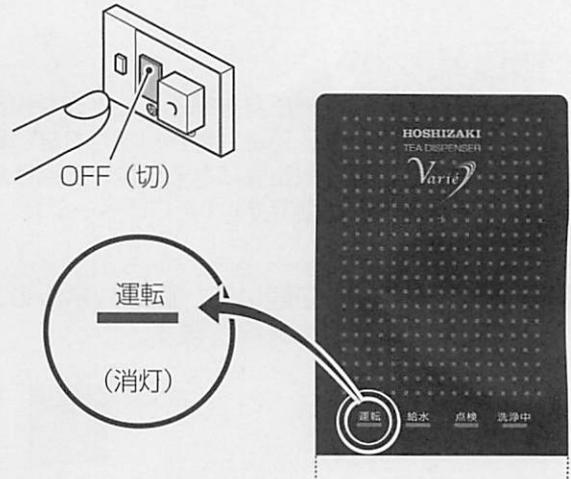
お知らせ

- 運転終了時は給水バルブを閉じてください。通常は給水バルブが開いていても水漏れは起こりませんが、万が一部品が故障した場合には水漏れにより床を濡らす原因になります。

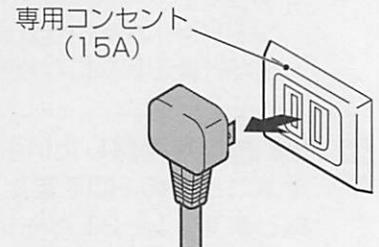


お客様ごとに配管状態が異なります。水道の元栓・給水バルブ・水抜きバルブの位置を確認してください。

- 2 フロントパネルを開いて、電源スイッチ（漏電遮断器）を「OFF（切）」にします。
⇒ 操作パネルの運転ランプが消灯します。



- 3 電源コードのプラグを専用コンセントから抜きます。



- 4 ホットタンクと冷却タンクの排水をします。（☞ 45、46 ページ）

- 5 フロントパネルを閉じます。

お知らせ

- 2 週間以上電源が入っていない状態が続いた場合は、現在時刻を再度設定し直す必要があります。

ホットタンクの排水

⚠ 警告

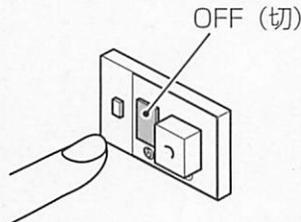
 運転直後にホットタンクのお湯を排水するときは、排水コック以外には接触禁止 手を触れないこと
やけどの原因になります。

⚠ 衛生

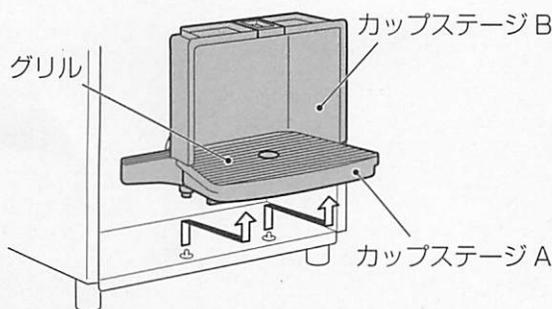
 長期間（2日以上）停止させる時は水抜きをすること
水抜き実施 水の腐敗から雑菌が繁殖し、健康障害の原因になります。

1 フロントパネルを開きます。

2 電源スイッチ（漏電遮断器）を「OFF（切）」にします。

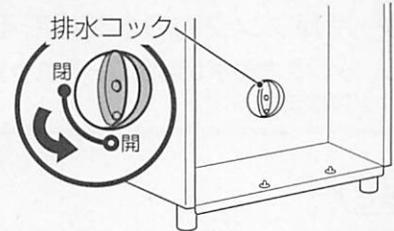


3 カップステージA・Bとグリルを一緒に持ち上げながら手前に引き出します。



4 排水コックを「開」にします。

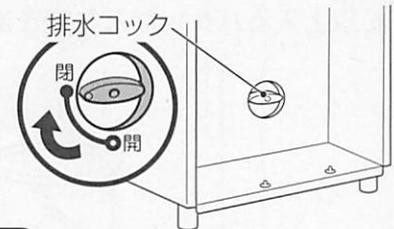
⇒ホットタンク内のお湯が排水されます。



お知らせ

- 床置 T1・LP 形をご使用の場合は、排水タンクが満水になっても排水を停止する機能がありません。排水タンク内の水位を確認しながら排水処理を行ってください。（排水タンク内が満水になる前に一旦排水コックを閉め、排水タンクを空にしてから再度排水処理を行ってください。）

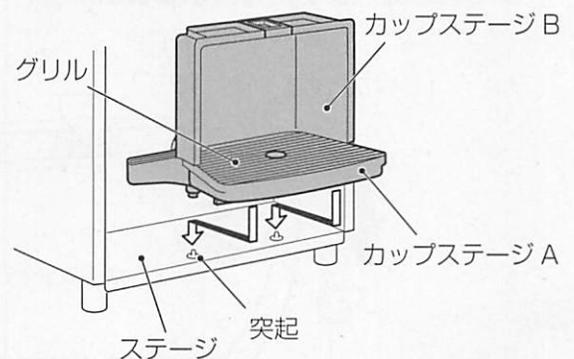
5 排水が終わったら、必ず排水コックを閉めます。



お知らせ

- ホットタンク運転を停止させる場合は、タンク内を衛生的に保つために、排水コックを「開」の状態のままにしておいてください。（☞ 29 ページ）

6 組み立てたカップステージA・Bとグリルを元の位置の突起にはめ込みます。



7 フロントパネルを閉じます。

冷却タンクの排水

⚠ 衛生



長期間(2日以上)停止させるときは、冷却タンク内の水を捨てること

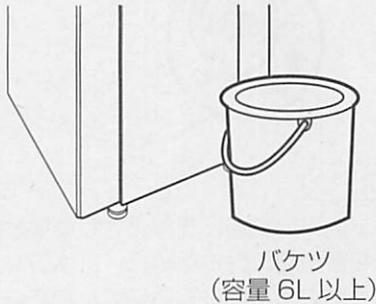
排水 タンク内の水が腐敗し、汚れや異臭の原因になります。

お知らせ

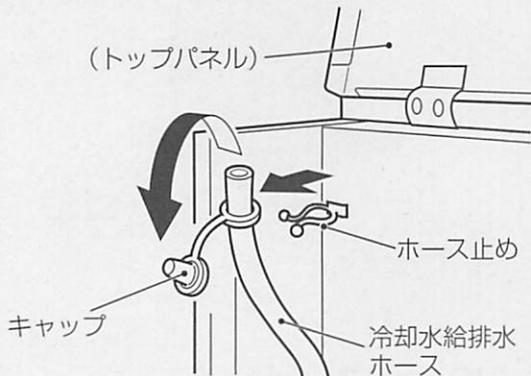
- 運転を停止してから冷却タンク内の氷が溶けるのに約1日程度かかります。事前に冷却運転を停止し、冷却タンク内の氷が溶けたことを確認してから冷却タンクの排水を行ってください。氷が冷却タンク内に残った状態では完全に排水ができません。

1 フロントパネル、トップパネルを開きます。

2 本体の前に冷却タンクの排水を受ける容量6L以上入るバケツなどを置きます。



3 製品内部左側にある冷却水給排水ホースをホース止めから外して、ホース先端のキャップを外してバケツ内に排水します。



4 排水が終わったら、ホース先端にキャップを差し込み、再びホースをホース止めで固定します。

5 トップパネル、フロントパネルを閉じます。

給水タンクの排水 (床置 T1 形)

⚠ 衛生

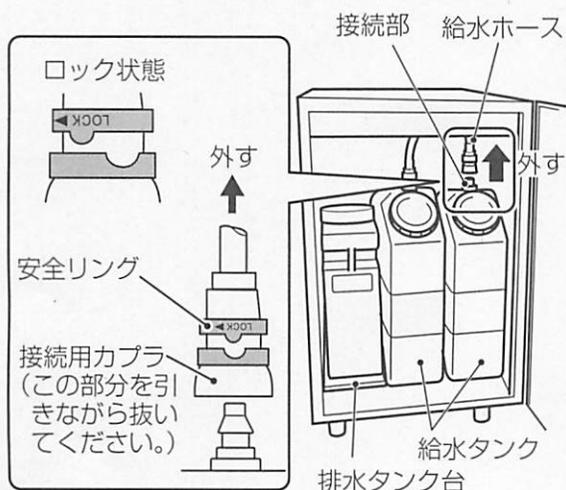
- !** カセット給水運転の場合は、運転停止後に給水タンクの水を捨てること
排水 水の腐敗から雑菌が繁殖し、健康障害の原因になります。

1 キャビネットスタンドの扉を開きます。

2 給水タンクに接続してある接続用カプラを外します。(給水タンク2個)

お知らせ

- 安全リングが「LOCK」の状態では接続用カプラを外すことはできません。

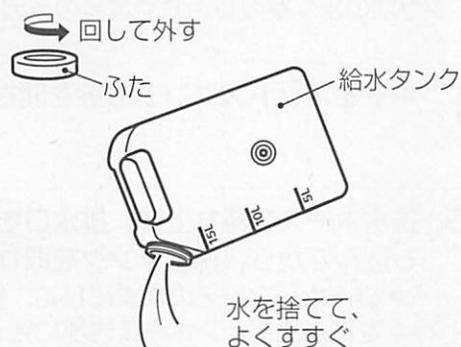


3 給水タンク2個を取り出します。

使用上の注意

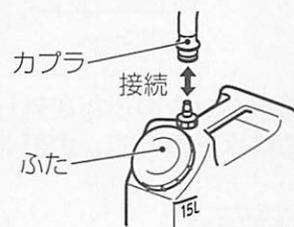
- 給水タンクを取り出すときは、取手部を持って取り出してください。接続部を持って取り出すと、接続部破損の恐れがあります。

4 給水タンクのふたを回しながら外して、給水タンク内の残った水を捨てて、内部をよくすすぎます。



5 給水タンクにふたを取り付け、キャビネットスタンドの中に設置します。

6 給水タンクの接続部に、接続用カプラを「カチッ」と音がするまで押し込み、接続します。



7 キャビネットスタンドの扉を閉じます。

排水タンクの排水 (床置 T1・LP 形)

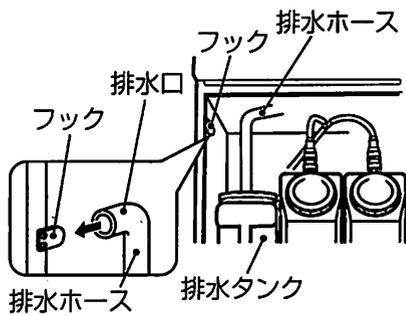
使用上の注意

- 床置 T1・LP 形をご使用の場合は、運転停止後は必ず排水タンク内の水を捨ててください。排水タンク内の水が腐敗し汚れや異臭の原因になります。

1 キャビネットスタンドの扉を開きます。

2 排水ホースを持ち上げ、排水口をフックに差し込んでから、排水タンクを取り出します。

- 排水ホースをそのままにして、排水タンクを取り出すと、ホース内部に残った排水が滴下して、排水タンク台を汚します。



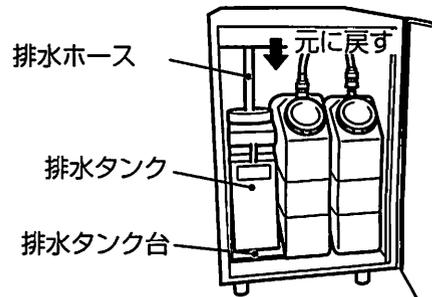
3 排水タンクのふたを外して、排水タンク内の排水を捨てて、内部をよくすすぎます。

お知らせ

- 汚れのひどい場合は、中性洗剤でしっかり洗ってください。



4 排水タンクを排水タンク台に取り付け、排水ホースを元に戻します。



5 キャビネットスタンドの扉を閉じます。

水抜きのかた (卓上形、床置C・LP形)

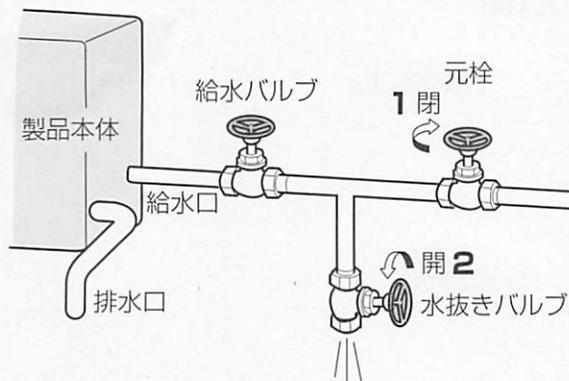
⚠ 衛生

! 長期間 (2日以上) 停止させる時は
水抜きをすること

水抜き実施 水の腐敗から雑菌が繁殖し、健康障害の原因
になります。

お知らせ

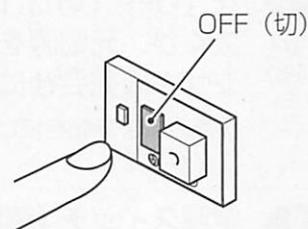
- 凍結の原因になりますので水抜きをしてください。



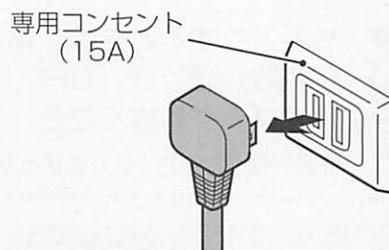
- 1 元栓を閉じます。
- 2 配管内の水抜きバルブを開いて管内の水を排水します。

モータバルブの停止のかた (床置LP形)

- 1 キャビネットスタンドの扉を開きます。
- 2 コントロールボックスの電源スイッチ (漏電遮断器) を「OFF (切)」にします。



- 3 キャビネットスタンドの電源プラグを抜きます。



- 4 キャビネットスタンドの扉を閉じます。

お手入れと点検

⚠ 警告



ぬれ手
禁止

ぬれた手で電源プラグなど電気部品に触れたり、電源スイッチ（漏電遮断器）を操作しないこと

感電の原因になります。



禁止

注出中や洗浄中はフロントパネルを開けないこと

水漏れの原因になります。また、水漏れすると、感電の原因になります。



電源を
切る

異常時は電源スイッチ（漏電遮断器）を「OFF（切）」にし電源プラグを抜くか、元電源を切って、すぐにホシザキ販売会社に連絡すること

異常のまま運転を続けると感電、火災の原因になります。



連絡

電源スイッチ（漏電遮断器）が「OFF（切）」に作動した場合には、ホシザキ販売会社に連絡すること

無理に「ON（入）」にすると、感電や火災の原因になります。



プラグを
抜く

お手入れするときは、電源スイッチ（漏電遮断器）を、「OFF（切）」にして、電源プラグも抜くこと

機械が動いたとき、ケガをする原因になります。

⚠ 衛生



お手入れ

掃除・お手入れはこまめに行うこと

洗剤を使用する場合は、その用法、用量および使用上の注意をよく読み、十分に理解してから使用してください。雑菌の繁殖や腐敗による健康障害の原因になります。



定期交換

浄水器のカートリッジは、定期的に交換すること

タンク水質や使用量によって異なりますが、年1回以上交換してください。



よく読む

浄水器の取扱いは、浄水器の付属の取扱説明書に従うこと

取扱いを誤ると水の腐敗から雑菌が繁殖し、健康障害の原因になります。

■ サービスマンによる安全点検のおすすめ

製品の使用に支障がなくても、保証期間を過ぎて使用されている場合は、水かかりや汚れによる電気部品の絶縁劣化、経年変化などにより、感電、火災、水漏れなどの原因になることがあります。ホシザキ販売会社に点検をご依頼ください。（有料）

点検内容

- 製品内部のほこりの堆積、水漏れ、汚れなど確認と対処
- 本体および使用部品の経年変化の状況など確認と対処
- 水経路の水垢・シリカ・石灰などの異物など確認と対処

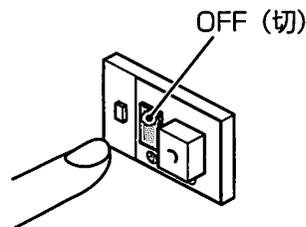
■ お手入れの概要

使用上の注意

- 毎日のお手入れは中性洗剤を使用し、殺菌効果を得るには逆性石けん（塩化ベンザルコニウム）の使用をおすすめします。
逆性石けん（塩化ベンザルコニウム）には殺菌効果があります。
逆性石けん（塩化ベンザルコニウム）は薬局でお求めいただけます。
商品例：オスバン S（日本製薬（株））
- 次のようなものは使わないでください。
<塗装面やプラスチック面を傷めるもの>
シンナー・ベンジン・アルコール・石油・紛石けん・みがき粉・アルカリ性洗剤・酸・たわし・など。
特に換気扇・レンジなどに使用する強力な洗剤。
<錆の発生につながるもの>
塩素系漂白剤など。
上記以外の洗剤でも塗装面やプラスチック面を傷めるものがあります。不具合が発生した場合はただちに使用を中止してください。
- 化学雑巾をご使用の際は、その使いかたに従ってください。
- 汚れがひどいときは都度行ってください。
- お手入れ部品の洗浄に 40℃以上のお湯や温風乾燥機を使用しないでください。
部品が変形して使用できなくなったり、異音発生の原因になります。
- 「お手入れガイド」をご覧ください。
(☎ 78 ページ)

お手入れのしかた

- 1 フロントパネルを開いて、電源スイッチ（漏電遮断器）を「OFF（切）」にします。



- 2 手を洗います。



- 3 清潔なふきんを用意します。



- 4 逆性石けん（塩化ベンザルコニウム）10%液を、ぬるま湯（30～40℃）1Lに、キャップ2杯（約10mL）の割合で混ぜ、お手入れする部品を3分以上浸け込み、洗浄します。



逆性石けん（塩化ベンザルコニウム）10%溶液を
キャップ2杯（約10mL）

ぬるま湯 1L

- 5 石けん分が残らないように、お手入れした部品を水道水で洗い流します。
水洗い後、清潔な布で水分をふき取ります。

お知らせ

- 洗剤分が残っていると、金属、プラスチック面をいためる原因になります。
- 汚れているときは、中性洗剤で洗い、水道水ですすいでから行ってください。

■ お手入れと点検一覧表

お手入れ箇所	毎日	週1回	月1回	年1～2回	長期停止	参照ページ
ミキシングケース ・本体 ・カバー ・かくはんローター ・コーンスープ対応部品 (オプション)	★ 汚れの状況により分解洗浄	★ 分解洗浄			★ 分解洗浄	53 58
シュータ	★				★	53
粉放出口	◎□				★	53
ドリンクガイド ドリンクガイドカバー	★ 分解洗浄				★ 分解洗浄	54
カップステージA・B グリル	★				★	55
給水タンク (床置 T1 形)	○ 水入替え	★			● 排水	56 47
排水タンク (床置 T1・LP 形)	● 排水				● 排水	56
ホットタンク		○ 水入替え			● 排水	57 45
ダクト、ダクトカバー、フィルター		★			★	59
排水フィルター		★			★	60
排水タンク台 (床置 T1・LP 形)		★			★	61
冷却タンク			○ 水入替え		● 排水	46
キャニスタ	◎	△	★		★	64
外装、フロントパネル		◎			◎	61
漏電遮断器			△ テスト			62
コントロールボックス (漏水検知) (床置 LP 形)			△ テスト	△ 目視		62 63
アース線、電源プラグ				△ 目視		63
給排水管 (水漏れ)				△ 目視		63
ドアスイッチ				△ 目視		63
浄水器カートリッジ (別売)				□ 交換		63

★：中性洗剤で洗浄し、水洗い

◎：柔らかい布でふく

○：水を入れ替える

●：水を捨てる (排水)

△：点検

□：交換

■ 毎日のお手入れ

⚠ 衛生



手動洗浄を毎日行うこと

洗浄

冷水経路の水道水に雑菌が繁殖し、健康障害の原因になります。

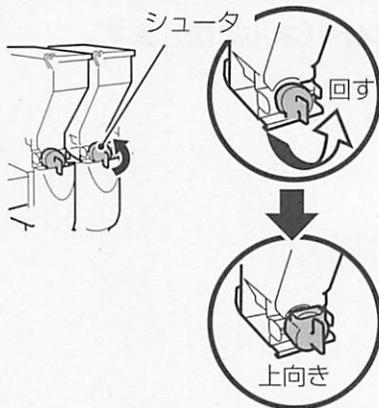
ミキシングケース、シュータ、粉放出口のお手入れ

1 シューター（洗浄し、水洗いして十分乾燥させたもの）を準備します。

2 フロントパネルを開きます。

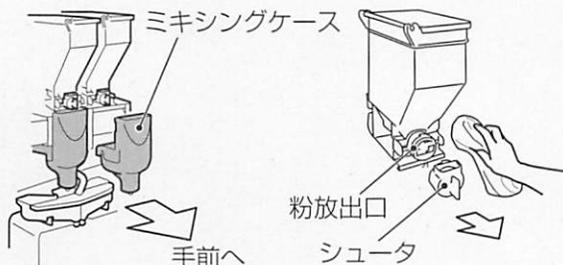
3 シュータを上向きに回します。

⇒ ミキシングケースを取り出せる状態になります。



4 ミキシングケースを手前に引き出します。

5 キャニスタに付いているシュータを手前に引いて取り外し、粉放出口を柔らかい布でふき、手順1で準備したシュータと交換します。シュータは上向きのままにしておきます。



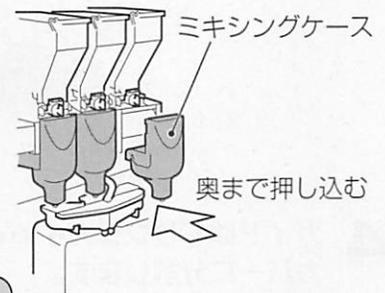
● 取り外したシュータは、中性洗剤に浸け込み洗浄し、水洗いして十分乾燥させてください。

6 ミキシングケースを柔らかい布でふきます。



ミキシングケースの汚れが目立つときは、分解洗浄してください。(P.58 ページ)

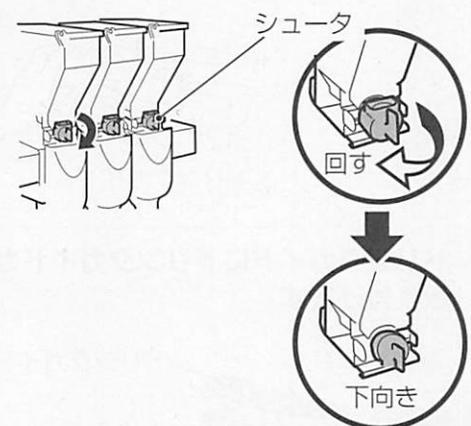
7 ミキシングケースを取り付けます。



使用上の注意

● ミキシングケースは、しっかり奥まで押し込んで取り付けてください。取り付けが不十分ですと注出時に異音発生の原因になります。

8 シュータを下向きに回してミキシングケースが外れないことを確認します。

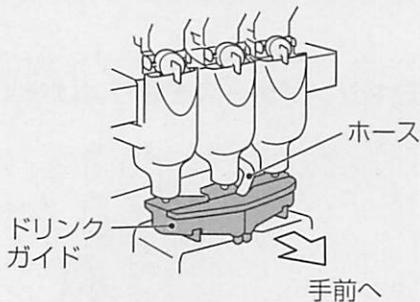


9 フロントパネルを閉じます。

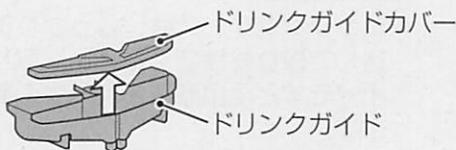
ドリンクガイド、ドリンクガイドカバーのお手入れ

ドリンクガイドとドリンクガイドカバーを中性洗剤に浸け込み洗浄します。

- 1 フロントパネルを開きます。
- 2 ドリンクガイドからホースを外します。
- 3 ドリンクガイドを手前に引き出します。



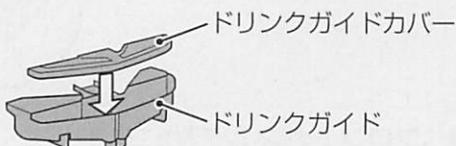
- 4 ガイドはドリンクガイドとドリンクガイドカバーに分解します。



- 5 中性洗剤に浸け込み洗浄し水洗いします。清潔な布で水分をふき取ります。

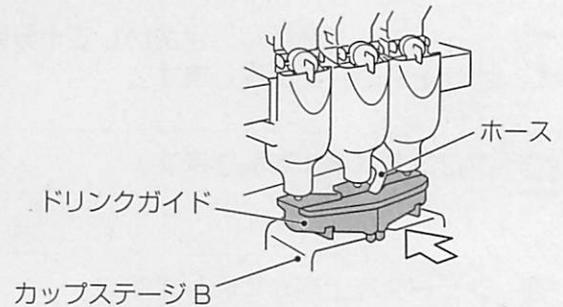


- 6 ドリンクガイドにドリンクガイドカバーを取り付けます。



- 7 ドリンクガイドをカップステージBの上に取り付けます。

- 8 ホースをドリンクガイドに取り付けます。



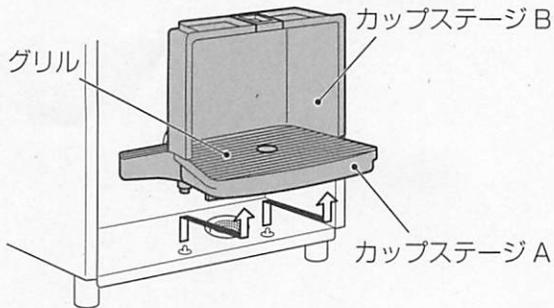
- 9 フロントパネルを閉じます。

カップステージA・B、グリルのお手入れ

カップステージA・Bとグリルを中性洗剤に浸け込み洗淨します。(製品の排気構造上、カップステージ周辺に原料粉末が付着している場合があります。お手入れ時に水洗いで一緒に落としてください)

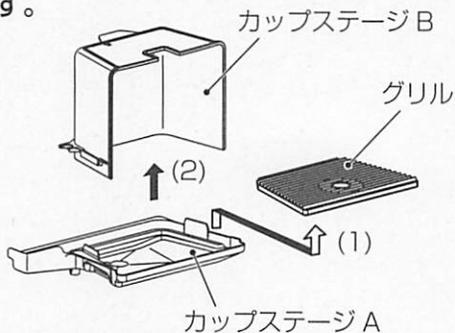
1 フロントパネルを開きます。

2 カップステージA・Bとグリルを一緒に持ち上げながら手前に引き出します。

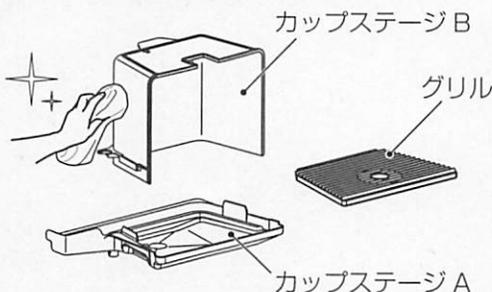


3 カップステージA・B、およびグリルとに分解します。

- (1) グリルを取り外すときは、カップステージAから持ち上げます。
- (2) カップステージA・Bを取り外すときは、カップステージBを真上に持ち上げます。

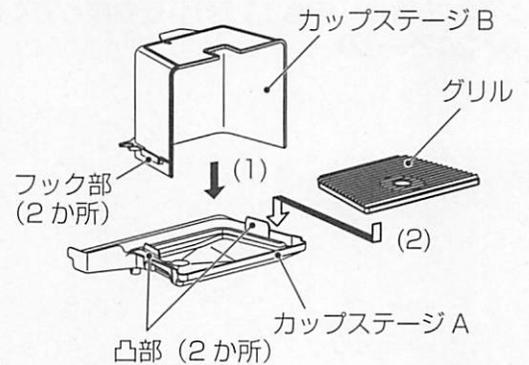


4 中性洗剤に浸け込み洗淨し水洗いします。清潔な布で水分をふき取ります。

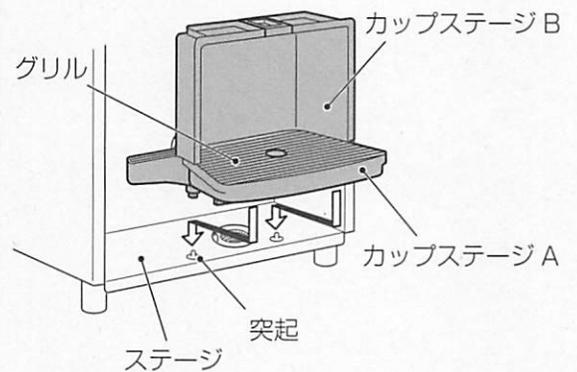


5 カップステージA・B、およびグリルを組み立てます。

- (1) カップステージAの凸部(2か所)にカップステージBのフック部(2か所)をはめ込みます。
- (2) グリルをカップステージA・Bに取り付けます。



6 組み立てたカップステージA・Bとグリルを元の位置の突起にはめ込みます。



7 フロントパネルを閉じます。

お手入れと点検

お手入れと点検

給水タンクへの給水 (床置 T1 形)

⚠ 衛生

! カセット給水タンクの水は毎日入れ替えること

水替え 水の腐敗から雑菌が繁殖し、健康障害の原因になります。

給水タンクの水を入れ替えます。

給水タンクの水の入れ替え方法については、「給水タンクへの給水 (床置 T1 形)」を参照してください。
(☞ 24 ページ)

排水タンクのお手入れ (床置 T1・LP 形)

排水タンクの水を捨てます。

排水タンクの排水方法については、「排水タンクの排水 (床置 T1・LP 形)」を参照してください。
(☞ 48 ページ)

■ 1週間に1回のお手入れ

ホットタンクの水の入れ替え

⚠ 警告



禁止

運転直後にホットタンクのお湯を排水するときは、排水コック以外には手を触れないこと
やけどの原因になります。

⚠ 衛生



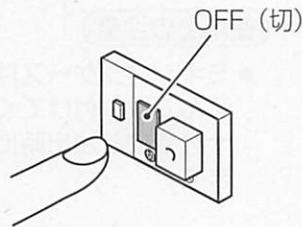
水抜実施 水の腐敗から雑菌が繁殖し、健康障害の原因になります。

長期間（2日以上）停止させる時は水抜きをすること

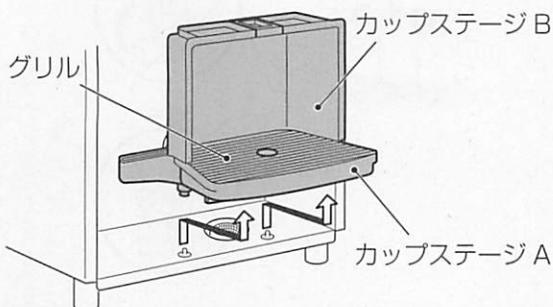
週に1回は排水して、ホットタンク内の水を入れ替えてください。定期的に排水しないと配管内にスケールが堆積して詰まる原因になります。

1 フロントパネルを開きます。

2 電源スイッチ（漏電遮断器）を「OFF（切）」にします。



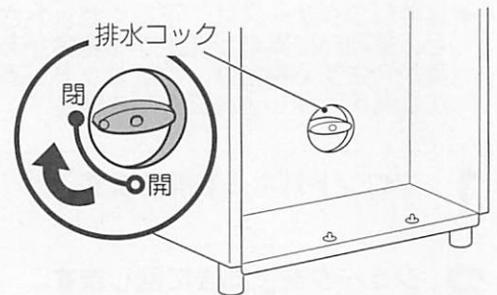
3 カップステージA・Bとグリルを一緒に持ち上げながら手前に引き出します。



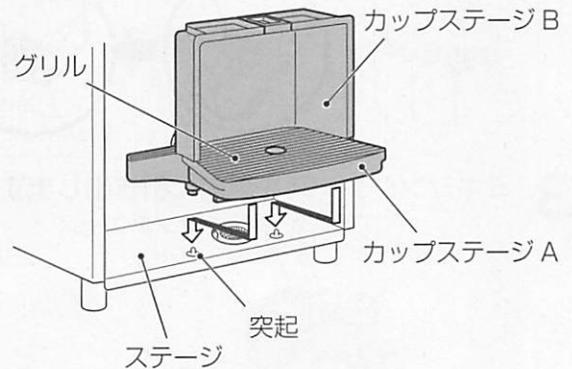
4 排水コックを10秒間「開」にし、「閉」に戻します。

お知らせ

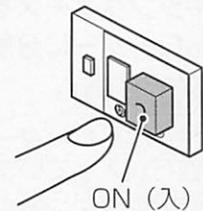
- 床置T1・LP形をご使用の場合は、排水タンクが満水になっても排水を停止する機能がありません。排水タンク内の水位を確認しながら排水処理を行ってください。（排水タンク内が満水になる前に一旦排水コックを閉め、排水タンクを空にしてから再度排水処理を行ってください。）



5 組み立てたカップステージA・Bとグリルを元の位置の突起にはめ込みます。



6 電源スイッチ（漏電遮断器）を「ON（入）」にします。



7 フロントパネルを閉じます。

⇒ホットタンクへの給水が始まります。

ミキシングケースの分解洗浄

ミキシングケースを分解して、中性洗剤に浸け込み洗浄します。使用するパウダー原料により、毎日のお手入れが必要になる場合があります。

かくはんローターは精密部品のため、浸け込みはせず、ブラシ（市販）で丁寧に洗浄してください。

お知らせ

- 水圧が低いところで冷茶を注出すると、ミキシングケース内にパウダー原料が残り易くなりますので、必要に応じてお手入れを行ってください。
- コーンスープなど一回の注出で、多くの原料を消費するものは、毎日お手入れをしてください。
- ミキシングケースは、正しくセットされていないと、運転時に異音が発生する場合があります。異音が発生する場合は、再度セットし直して、しっかり奥まで押し込んでください。

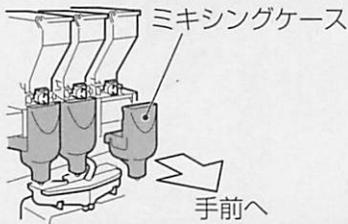
1 フロントパネルを開きます。

2 シュータを上向きに回します。

⇒ ミキシングケースを取り出せる状態になります。



3 ミキシングケースを手前に引き出します。



4 ミキシングケースを、本体、カバー、かくはんローターに分解します。

使用上の注意

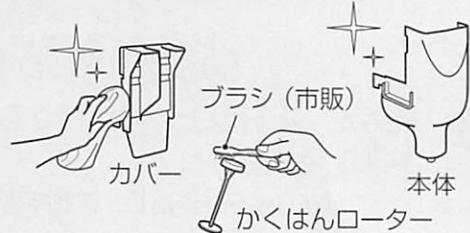
- かくはんローターには磁石が入っています。高い位置から落とすと磁石が割れる原因になりますので、注意してください。
- コーンスープ対応部品（オプション）がある場合は、一緒に分解します。



5 本体、カバーを中性洗剤に浸け込み洗浄し水洗いします。（コーンスープ対応部品（オプション）がある場合は、一緒に洗浄・水洗いします。）

かくはんローターはブラシ（市販）で洗浄してください。

清潔な布で水分をふき取ります。



6 カバー、かくはんローターを本体に取り付けます。（コーンスープ対応部品（オプション）がある場合は、一緒に取り付けます。）

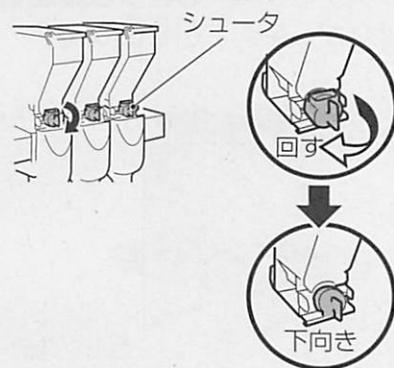
7 ミキシングケースを取り付けます。



使用上の注意

- ミキシングケースは、しっかり奥まで押し込んで取り付けてください。取り付けが不十分ですと注出時に異音発生の原因になります。

8 シュータを下向きに回してミキシングケースが外れないことを確認します。



9 フロントパネルを閉じます。

ダクト、フィルターのお手入れ

使用上の注意

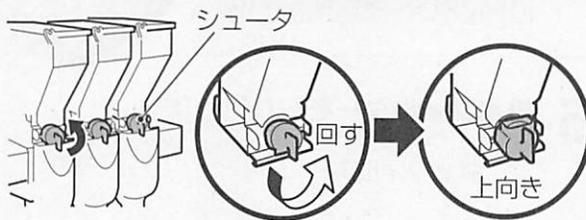
- ダクトの着脱は、左右のツメ部分を両手で持って行ってください。
片手だけで着脱を行うと、ダクトが破損するおそれがあります。

ダクトとフィルターを中性洗剤に浸け込み洗浄します。

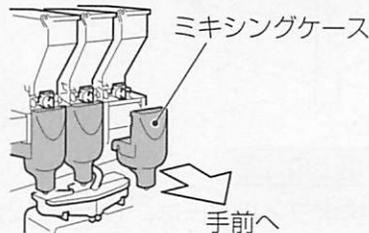
1 フロントパネルを開きます。

2 シュータを上向きに回します。

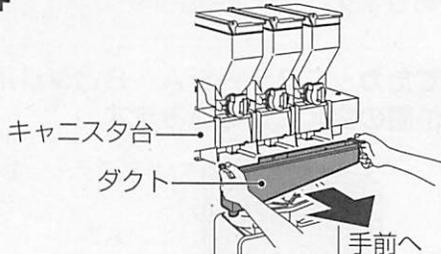
⇒ミキシングケースを取り出せる状態になります。



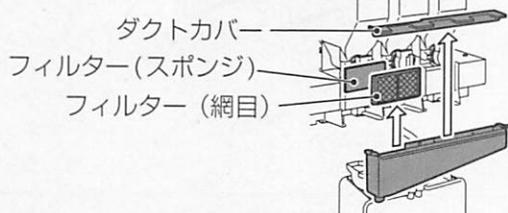
3 ミキシングケースを手前に引き出します。



4 ダクトを取り出します。

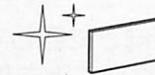


5 ダクト内からダクトカバーとフィルターを取り出します。



フィルターは、網目状のものとスポンジ状のものが組合わせてセットされています。

6 フィルター(スポンジ)をもみ洗いして風通しのよいところで乾燥させます。



フィルター(スポンジ)

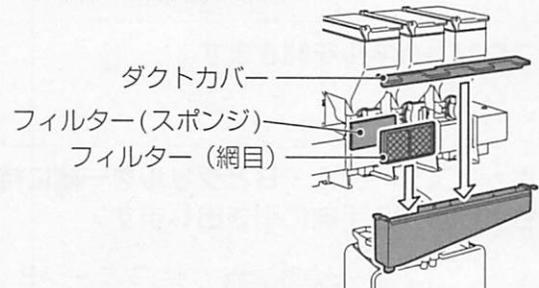
ぬれたまま取り付けると性能低下のおそれがあります。

7 ダクト、ダクトカバー、フィルター(網目)を中性洗剤に浸け込み洗浄し水洗いし、清潔な布で水分をふき取ります。



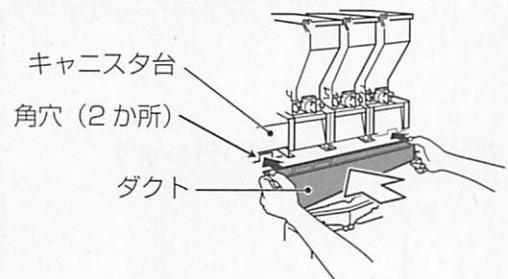
汚れが落ちにくい場合は、ブラシ(市販)を使って、汚れを落としてください。

8 フィルター(網目)とフィルター(スポンジ)を組合わせてからダクトに取付け、ダクトカバーを取付けます。



フィルター(スポンジ)は、つぶれや折れがないようにフィルター(網目)にはめ込んでください。

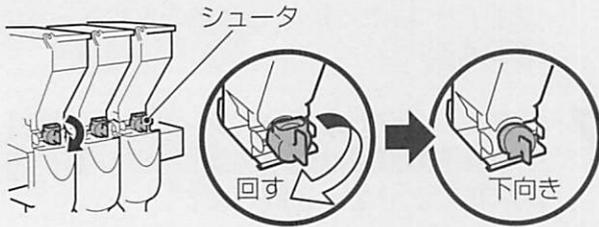
9 キャニスタ台の角穴(両サイド)にダクトを合わせて、はめこみます。



ダクトは、ツメの部分が掛かるように奥まで差し込んでください。
セットが不十分な場合、注出に不具合が発生するおそれがあります。

10 ミキシングケースを取り付けます。

11 シュータを下向きに回してミキシングケースが外れないことを確認します。



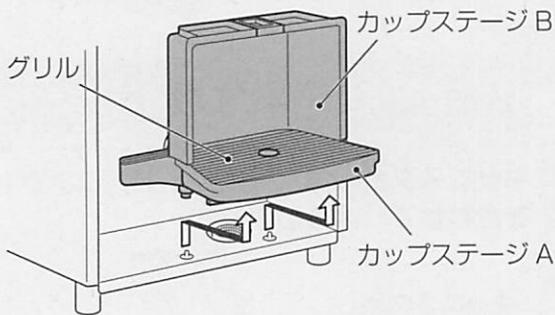
12 フロントパネルを閉じます。

排水フィルターのお手入れ

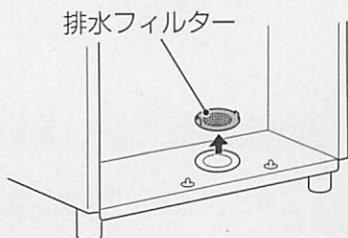
排水フィルターを中性洗剤に浸け込み洗浄します。

1 フロントパネルを開きます。

2 カップステージA・Bとグリルを一緒に持ち上げながら手前に引き出します。



3 排水フィルターを取り外します。

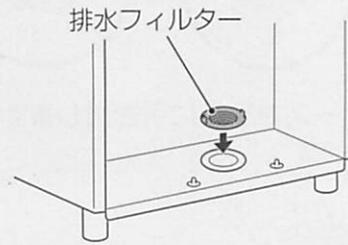


4 中性洗剤に浸け込み洗浄し水洗いします。清潔な布で水分をふき取ります。



汚れが落ちにくい場合は、ブラシ(市販)を使って、汚れを落としてください。

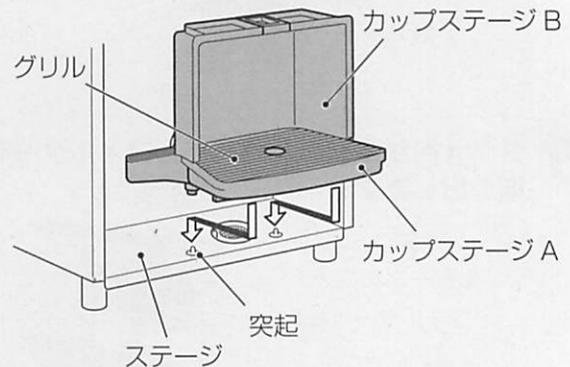
5 排水フィルターを取り付けます。



使用上の注意

- 排水フィルターは、しっかりと押し込んで取り付けてください。取り付けが不十分な場合、水漏れするおそれがあります。

6 組み立てたカップステージA・Bとグリルを元の位置の突起にはめ込みます。

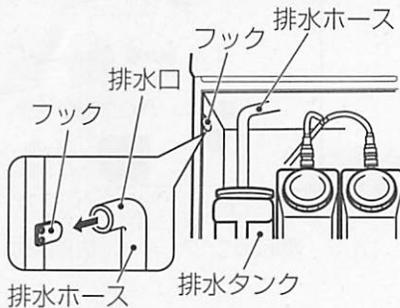


7 フロントパネルを閉じます。

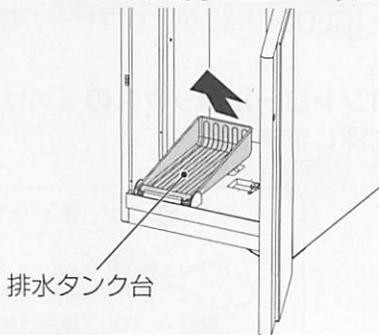
排水タンク台のお手入れ (床置 T1・LP 形)

排水タンク台を中性洗剤で洗浄し水洗いします。

- 1 キャビネットスタンドの扉を開きます。
- 2 排水ホースを持ち上げ、排水口をフックに差し込んでから、排水タンクを取り出します。
 - 排水ホースをそのままにして排水タンクを取り出すとホース内部に残った排水が滴下して、排水タンク台を汚します。



- 3 排水タンク台の奥側を持ち上げ、取り外します。



使用上の注意

- 水がたまっている場合は、水をふき取ってから取り外してください。

- 4 中性洗剤で洗浄し水洗いします。清潔な布で水分をふき取ります。
- 5 排水タンク台を取り付けます。
- 6 排水タンクを排水タンク台に取り付け、排水ホースを元に戻します。
- 7 キャビネットスタンドの扉を閉じます。

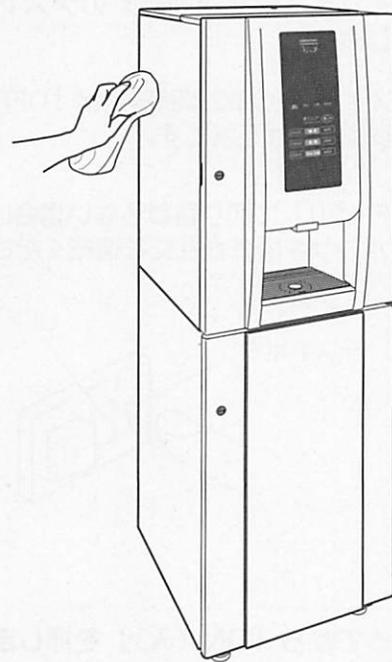
外装、フロントパネルのお手入れ

外装・フロントパネルをふきます。

使用上の注意

- お手入れしないと、外装は錆びる場合があります。

- 1 中性洗剤を入れたぬるま湯を含ませた布でふきます。
- 2 洗剤分が残らないよう水を含ませた布で洗剤分をふき取ります。



■ 1 か月に 1 回の点検

漏電遮断器の点検

⚠ 警告

! 漏電遮断器の機能は月に 1 回、動作確認すること

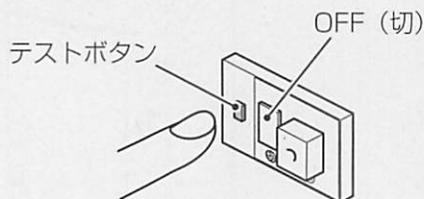
動作点検 漏電遮断器を故障のまま使用すると、漏電のとき動作せず、感電の原因になります。

1 フロントパネルを開きます。

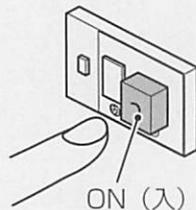
2 電源スイッチ（漏電遮断器）のテストボタンを押します。

⇒ 電源スイッチ（漏電遮断器）が「OFF（切）」に切り替われば正常です。

●「OFF（切）」に切り替わらない場合は、すぐにホシザキ販売会社にご連絡ください。



3 3分待ってから「ON（入）」を押します。



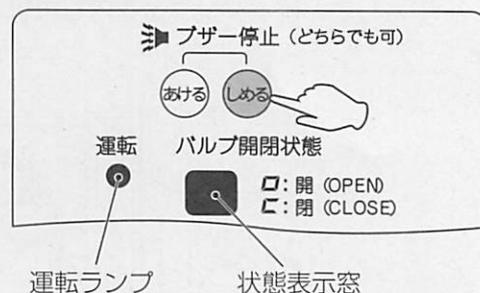
4 フロントパネルを閉じます。

コントロールボックス（漏水検知）の点検（床置 LP 形）

水漏れが発生したとき正常に動作するよう点検を行ってください。

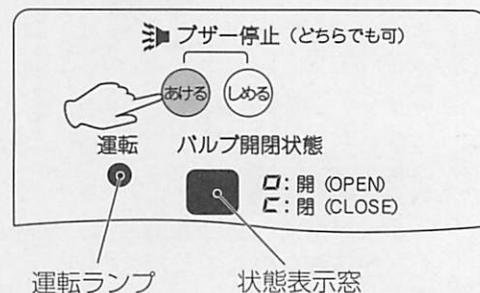
1 キャビネットスタンドの扉を開きます。

2 コントロールボックスの「しめる」ボタンを押します。



⇒ 運転ランプが点灯から点滅にかわり、状態表示窓の表示が O：開（OPEN）から C：閉（CLOSE）にかわりブザーが鳴ります。

3 コントロールボックスの「あける」ボタンを押します。



⇒ ブザー音が止まり、運転ランプが点滅から点灯にかわり、状態表示窓の表示が C：閉（CLOSE）から O：開（OPEN）にかわれば正常です。

4 キャビネットスタンドの扉を閉じます。

■ 年に 1 ～ 2 回の点検

⚠ 衛生



浄水器のカートリッジは、1年で交換すること

定期交換 雑菌が繁殖し、健康障害の原因になります。

日本水道協会（JWWA）において、衛生の観点から使用限度月数の表示上限を12か月と定め、1年以内のカートリッジ交換を推奨しています。

お知らせ

- 冷却タンクの水は、1年に1～2回入替えてください。水質・水量の変化で蓄水できない場合があります。
- 1年に1度、配管洗浄を行うことをおすすめします。（有料）ホシザキ販売会社に依頼してください。

アース線・電源プラグの点検

調べるところ	処置方法
(1) アース線が切れたり接続部が緩んでいないか確認します。	異常の場合は、ホシザキ販売会社、または電気工事業者に修理を依頼してください。
(2) 電源プラグやコードに異常な発熱や破損、重い物がのったり、はさみ込まれたりしていませんか？	異常の場合は、すぐにホシザキ販売会社に修理を依頼してください。
(3) 電源プラグの刃と刃の取り付け面および専用コンセントにほこりがついていませんか？ 	ほこりがついていている場合は、掃除をしてください。
(4) 電源プラグが専用コンセントに入っていますか？	他の機器と共用している場合は、専用コンセントにしてください。
(5) 電源は専用電源を使用していますか？	他の機器と共用している場合は、専用電源にしてください。

給排水管の点検

調べるところ	処置方法
(1) 給排水管の接続部より水漏れはありませんか？	水漏れの場合には、すぐにホシザキ販売会社にご連絡ください。
(2) 排水管が詰まっていますか？ 詰まると床に水があふれます。	排水詰まりの場合には、すぐにホシザキ販売会社にご連絡ください。

使用上の注意 ● 1年に1度、配管洗浄を行うことをおすすめします。（有料）ホシザキ販売会社に依頼してください。

ドアスイッチの点検

調べるところ	処置方法
(1) フロントパネルをきちんと閉めているのに、操作パネルの4つの表示ランプ（運転・給水・点検・洗浄中）が点滅していませんか？	すぐにホシザキ販売会社にご連絡ください。

コントロールボックス（漏水検知）の点検

調べるところ	処置方法
(1) キャビネット底の検知部にほこりがたまっていませんか？	ほこりがたまっている場合は、掃除をしてください。

※ フロン排出抑制法に基づき、3か月に1回以上の点検・記録を行ってください。

点検方法などについては、ホシザキ販売会社までお問い合わせください。

■ 消耗品・定期交換部品

この製品には、消耗品はありません。下表の部品は定期的な交換が必要です。

部品名	交換の目安
浄水器カートリッジ	約1年（10,000L）目安表を参照ください。

カートリッジの交換は、総通水10,000Lが目安です。水質などの条件により異なりますが、衛生的にお使いいただくためには、年1回以上の交換をおすすめします。（有料）ホシザキ販売会社に依頼してください。

長期停止

■ 長期停止

⚠ 警告

 1週間以上ご使用にならない場合は、電源スイッチ（漏電遮断器）を「OFF（切）」にし、電源プラグをコンセントから抜くこと

電源プラグやコンセント部にほこりがたまって発熱、発火の原因になります。

⚠ 衛生

 長期間（2日以上）停止させる時は水抜きをすること

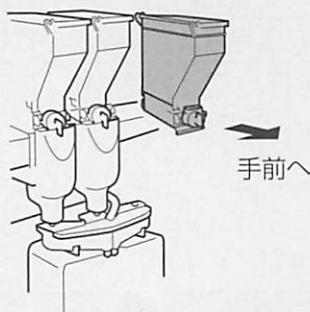
水抜き実施 水の腐敗から雑菌が繁殖し、健康障害の原因になります。

お知らせ

- 運転を停止してから冷却タンク内の氷が溶けるのに約1日程度かかります。事前に冷却運転を停止し、冷却タンク内の氷が溶けたことを確認してから冷却タンクの排水を行ってください。氷が冷却タンク内に残った状態では完全に排水ができません。
- キャニスタ内にパウダー原料が入った状態で電源スイッチをOFFにすると、キャニスタ内のパウダー原料の品質を維持できません。電源スイッチをOFFにする場合は、パウダー原料を他の密閉できる容器に移し替えてください。

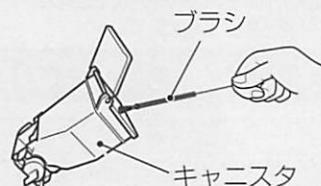
1 「■停止の手順」に従って、運転を停止します。（☞44～49ページ）

2 キャニスタを手前に引いて取り外します。

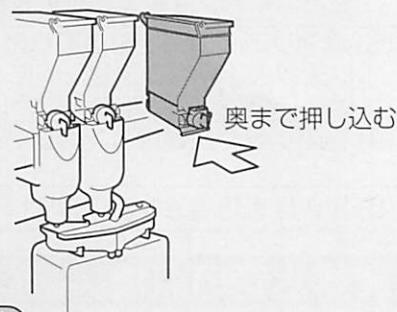


3 キャニスタからパウダー原料を取り出します。必要に応じて、付属品のブラシを使ってパウダー原料を取り除いてください。

パウダー原料の固着がひどい場合、キャニスタは水洗いできますが、風通しのよいところで1日以上乾燥させてください。



4 キャニスタを取り付けます。



使用上の注意

- キャニスタは、しっかり奥まで押し込んで取り付けてください。取り付けが不十分ですと注出時に異音発生の原因になります。

5 「■お手入れの概要」に従って、以下のお手入れをすべて行います。（☞51～61ページ）

- (1) 毎日のお手入れ
- (2) 1週間に1回のお手入れ

6 再開するときは「■運転前の準備」に従って、再度設定します。（☞20～27ページ）

使用上の注意

- 衛生的にお使いいただくために、ご使用前にはホットタンク内に給水した水を一度排水してください。（☞45ページ）
ホット運転のみの長期停止から再運転する場合はホットタンク内に一度給水して、80℃以上に加熱し排水をしてください。
- お茶が注出できる状況になりましたら、手動洗浄（☞41ページ）も行ってください。

アフターサービス

⚠ 警告



修理技術者以外の人は分解したり、修理しないこと

分解禁止 異常動作をしてケガをしたり、修理に不備があると感電、火災などの原因になります。



修理をするときは、ホシザキ販売会社に依頼すること

修理依頼 お客様での修理は、行わないこと。異常動作をしてケガをしたり、修理に不備があると感電、火災などの原因になります。

修理・お取り扱い・お手入れ・転居などのご相談は、ホシザキ販売会社にお申し付けください。

■ 保証書(ホシザキ販売会社発行)

設置年月日(お買い上げ年月日)・販売会社名などの記入を必ず確認し、ホシザキ販売会社にご連絡ください。

保証期間は、設置年月日より1年間です。

■ 補修用性能部品の保有期間

この製品の補修用性能部品の保有期間は製造打ち切り後9年です。

お知らせ

- 補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

保守制度のおすすめ

当社の保守制度へのご加入をおすすめいたします。これは定期的に点検整備を行い、常に安定した性能を維持して、ご使用いただくための制度です。詳細はホシザキ販売会社にお問い合わせください。

■ 修理を依頼されるとき

「修理を依頼される前に」に従って調べていただき、なお異常があるときは、必ず電源コードのプラグを抜いて、ホシザキ販売会社にご連絡ください。
(☞裏表紙)

ご連絡いただきたい内容

- 機種(ネームプレートに記載)
- 製造番号(ネームプレートに記載)
- 設置年月日(保証書に記載)
- 故障状況(できるだけ具体的に)
- お客様名
- ご住所
- お電話番号

保証期間中の修理

保証書の規定に従って、ホシザキ販売会社が修理させていただきます。
なお、修理に際しましては、保証書をご提示ください。

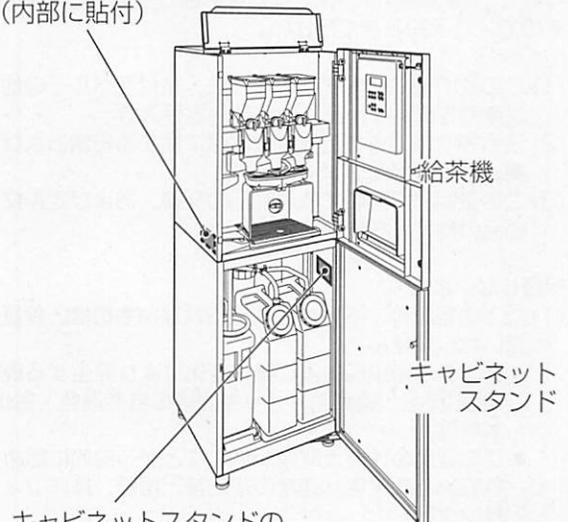
保証期間満了後の修理

保証期間満了後は、修理によって製品の性能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料で修理いたします。

■ ネームプレートと貼り付け位置

この製品についてお問合せいただく場合は、このネームプレートに記載されている形式をお知らせください。

給茶機のネームプレート
(内部に貼付)



キャビネットスタンドの
ネームプレート

給茶機

キャビネット
スタンド

お手入れと点検

長期停止
アフターサービス

■保証とサービス

1 この製品には、保証書がついています

- (1) 保証書はホシザキ販売会社で発行します。必ずお受け取りいただき、よくお読みになり大切に保管してください。
- (2) 転居などで修理の依頼先がご不明の場合は裏表紙に記載のホシザキ販売会社にご相談ください。

2 保証修理について

以下は保証書と同一内容です。

1. 保証修理の内容

この保証は、保証書表記記載のこの製品を構成する後記3.に記載する保証部品について、当社の責任により不具合が発生した場合に、この保証書に記載する期間と条件に従って、この無料修理（この無料修理を「保証修理」といいます。）をお約束するものです。保証修理は、部品の交換または補修により行います。なお、保証修理時に取り外した不具合部品は、当社の所有となります。

2. 保証修理の受け方

保証修理をお受けになる場合は、ホシザキ販売会社にご連絡ください。ホシザキ販売会社のサービスマンがお伺いした際、この保証書をご提示のうえ、保証修理をお申し付けください。保証書を提示されない場合、保証修理をお受けいたしかねます。

3. 保証部品

この保証書に基づく保証の対象となる部品（保証部品といいます。）は、この説明書に記載する消耗品を除いたものです。

4. 保証期間

保証修理を受けられる期間（保証期間といいます。）は、保証書表記記載のとおりです。なお、交換部品として新たに装着した部品についての保証期間は、この保証書の期間満了時までとします。

5. お客様にお守りいただく事項

お客様がこの製品の取扱説明書、この製品に貼付されたラベルその他の注意書きに従って、正しい使用・お手入れがなされている場合に、保証修理をいたします。これらが守られていない場合は、保証修理をお断りすることがありますので、ご承知おきください。

- (1) この説明書に記載する取扱方法、貼付ラベルその他の注意書きに従った正しい使用・お手入れ
- (2) 法令等で定められた安全性確保に関する日常および定期的な点検整備
- (3) この説明書に記載する消耗品の交換、および定期交換部品の指定どおりの交換

6. 保証しない事項

- (1) 以下の現象等、不具合と認められないものは、保証修理いたしません。
 - 通常の使用損耗および経年変化により発生する現象（樹脂部品、塗装面、メッキ面等の自然退色・劣化・剥離等）
 - この製品の性能上問題がないことが一般的に認められている現象等（通常の運転音、振動、操作フィーリング等）

(2) 以下の不具合は、外的要因によるものであり、当社の責任による不具合ではありませんから、保証修理いたしません。

- 地震・風水害・落雷等の自然災害、火災による罹災事故、公害・塩害・有毒ガス・薬品・異常電圧等を原因とした不具合
- 給排水管の破損、異物の詰りによる不具合
- 給水、給電が行われなかったことに起因する不具合
- お客様の故意・過失により生じた不具合
- ホシザキ販売会社以外の第三者が、修理または改造等したことによる不具合
- 不具合の原因が、この製品以外の部分にある場合の不具合
- 寒冷時における製品内の凍結による不具合
- 車両、船舶等の揺れ動く場所での使用による不具合

(3) 以下の不具合は、適切な点検・整備・お手入れまたは正しい使用・管理等がなされていないことに起因するものですから、保証修理いたしません。

- 法令等で定められた安全性確保に関する日常および定期的な点検整備の未実施に起因する不具合
- この説明書に記載する取扱方法、貼付ラベルその他の注意書きに従った正しい使用・お手入れの未実施に起因する不具合
- この説明書に記載する消耗品の交換、および定期交換部品の指定どおりの交換の未実施に起因する不具合
- 通常の注意で発見・処置できなにもかかわらず、放置した事により拡大した不具合
- 当社の指定する部品以外の部品・原材料または洗剤等を使用したことに起因する不具合

(4) 保証修理以外に、以下の費用については、この保証書に基づいて当社が負担することはいたしません。

- この製品を使用できなかったことによる賠償費用
- 自らまたはホシザキ販売会社以外が修理した場合の修理費用

7. 別途費用

以下の費用については、別途、お客様の費用負担としてご請求申しあげます。

- (1) 保証修理を行うため、離島または離島に準ずる遠隔地に赴く場合の旅費（航空運賃・乗船運賃・宿泊費等）
- (2) 取扱説明書に記載する消耗品および定期交換部品の費用（作業費を含む）

8. 保証の発効

この保証は、機種、機番、設置年月日が記入されていることにより有効となります。

9. 保証の失効

この保証は、保証書に記載する保証期間が満了した時に、効力を失います。また、保証期間であっても、製品が日本国外に持ち出された時には、効力を失います。

10. その他

- (1) この保証は、日本国内においてのみ有効です。
- (2) この保証書は、再発行いたしませんので、大切に保管してください。
- (3) この保証書は、この保証によって、お客様の権利を制限するものではありません。

※ This warranty is valid only in Japan.

修理を依頼される前に

「故障かな?」と思われるときは、以下の項目に従って調べてください。
 なお異常があるときは、電源コードのプラグを抜いて、ホシザキ販売会社にご連絡ください。(☎裏表紙)
 修理は専門の技術が必要です。
 お客様での修理は行わないでください。

■ エラーメッセージ (設定パネル)

液晶表示部に次のエラーメッセージが表示されたときは、ただちにホシザキ販売会社にご連絡ください。
 (操作パネルの点検ランプ (赤) が点滅します。)

異常表示記号	内容	異常表示したときの症状	処置方法
HOT サーミスタ コショウ	ホットタンク湯温検知用 サーミスタの異常	● お湯が沸かない、ぬるい	ホシザキ販売会社に連絡して ください。
COLD サーミスタ コショウ	冷却タンク水温検知用 サーミスタの異常	● 冷水・冷茶が注出できない ときがある	

■ ランプの異常 (操作パネル)

こんなときは	調べるところ	処置方法
4つの表示ランプ (運 転・給水・点検・洗浄 中) が点滅	(1) フロントパネルが開いて いませんか?	フロントパネルが開いているときは異常ではありません。
	(2) フロントパネルがきちん と閉まっていますか?	閉めたつもりでもフロントパネルがきちんと閉まってい ない場合があります。 フロントパネル上側のドアスイッチがマグネットキャッ チ部に接触しているか確認してください。
運転ランプ (緑) が点滅	(1) 2週間以上電源が切られ ませんでしたか?	製品の時計機能が正常に働かず、タイマー予約運転がで きない状況になっています。 現在の時刻設定と、必要があればタイマー予約の操作を 行ってください。(☎ 25、40 ページ)
適温ランプ (橙、青) (「HOT」、「COLD」ポ タン周囲) が同時に点 滅 (床置 T1・LP 形)	(1) 排水タンクが満水になっ ていませんか?	排水タンクの排水を行ってください。 (☎ 48 ページ)
給水ランプ (赤) が点滅 または点灯 (点滅の間、お湯の注 出は可能です)	(1) 断水していませんか? (卓上形、床置 C・LP 形)	断水の回復を待ってから、フロントパネルを一度開閉し てください。 給茶機がリセットされ給水を開始します。 (リセット後は注出準備のため、約 30 秒間は注出を受け 付けません。)
	(2) 給水タンクが空になっ ていませんか? (床置 T1 形)	給水タンクへの給水を行ってください。 (☎ 24 ページ)
	(3) 排水コックが開いていま せんか?	排水コックを閉めてください。
コントロールボックス 上の運転ランプ (赤) が 点滅し、ブザーが鳴る (床置 LP 形)	(1) 水漏れしていませんか?	(1) コントロールボックスの「あける」または「しめる」 ボタンを押してください。 ⇒ブザー音が解除されます。 (2) 水漏れの原因を確認して、水漏れが止まるように対 応、処置してください。 (3) キャビネットスタンド底部にたまった水を排除して ください。 (4) 「あける」ボタンを押してください。 ⇒運転ランプが点滅から点灯にかわり、表示が O : 開 (OPEN) になったら、給水を開始します。

● 上記を確認し、それでも異常があるときは、ホシザキ販売会社にご連絡ください。

知
っ
て
お
い
て
く
だ
さ
い

ア
フ
タ
ー
サ
ー
ビ
ス
修
理
を
依
頼
さ
れ
る
前
に

■ 動作の異常

こんなときは	調べるところ	処置方法
給茶機、冷水機が 運転しない	(1) 電源プラグが抜けていませんか？	コンセントを差し込んでください。
	(2) 電源スイッチ（漏電遮断器）が「OFF（切）」になっていませんか？	電源スイッチ（漏電遮断器）を「ON（入）」にしてください。 電源スイッチ（漏電遮断器）を「ON（入）」にしても、自動的に「OFF（切）」になる場合は、漏電している可能性があります。ホシザキ販売会社に連絡してください。
	(3) 停電ではありませんか？	通電するのを待ってください。
	(4) タイマー予約運転を行い、現在「停止（切）」になっていませんか？	タイマー予約を「運転（入）」、またはタイマー予約を解除してください。（☞ 40 ページ）
給茶機の湯温が 上がらない	(1) 連続して多量のお茶やお湯を注出した後ではありませんか？	再びお湯が沸くまでしばらくお待ちください。 お湯が沸いたら、適温ランプが点灯します。
	(2) 排水コックがきちんと閉まっていますか？	ホットタンクに水がたまらず、湯温も低下します。排水コックを「閉」にしてください。（☞ 57 ページ）
	(3) タイマー予約時間の「入」時間直後ではありませんか？	「入」時間直後はお茶がぬるい状態です。 予約時間の変更を行ってください。（☞ 39 ページ）
冷水機の水が冷えない	(1) 連続して多量のお茶や冷水を注出した後ではありませんか？	再び冷えるまでしばらくお待ちください。
	(2) 外部から熱気の影響を受けていませんか？	熱源を遠ざけてください。
	(3) 周囲温度が 35℃以上になっていませんか？	換気扇などで換気して周囲温度を下げてください。
	(4) 本体上面の排気部をふさいでいませんか？	排気部をふさいでいるものを取り除いてください。
	(5) 冷却タンクに冷却水が入っていますか？	冷却水を入れてください。（☞ 23 ページ）
注出できない	(1) 排水コックがきちんと閉まっていますか？	ホットタンクに水がたまらず、湯温も低下します。排水コックを「閉」にしてください。（☞ 57 ページ）
	(2) フロントパネルがきちんと閉まっていますか？	フロントパネルがきちんと閉まっていないと、安全上注出できません。 フロントパネル上側のドアスイッチがマグネットキャッチ部に接触しているか確認してください。
	(3) タイマー予約運転の「切」時間中ではありませんか？	「切」時間中は注出できません。 予約時間の変更を行ってください。（☞ 39 ページ）
	(4) 給水タンクの水位が低くなっていませんか？ （床置 T 1 形）	給水タンクへの給水を行ってください。（☞ 24 ページ）
	(5) 排水タンクが満水になっていませんか？ （床置 T 1・LP 形）	排水タンクの排水を行ってください。（☞ 48 ページ）
	(6) 給水タンクとの接続がきちんとされていますか？ （床置 T 1 形）	接続カプラをきちんと接続してください。（☞ 24 ページ） また、ホースの抜け・折れがないか確認してください。

こんなときは	調べるところ	処置方法
給水タンクに2L以上の水が入っていても給水しない (床置T1形)	(1) フロントパネルがきちんと閉まっていますか？	給茶機のフロントパネルを一度開閉してください。 給茶機がリセットされ給水を開始します。
冷水が注出できない	(1) 運転を始めて2.5時間たっていますか？	運転を始めて製氷が完了するまで約2.5時間かかります。 製氷が完了していない状態で冷水を注出すると、一時的に冷水注出ができなくなることがありますが、故障ではありません。 これは、冷却水槽への蓄氷を優先するもので、約30分程度で再び注出が可能となります。
	(2) 製品の連続注出能力以上に冷水を注出していませんか？	製品の連続注出能力以上に冷水を注出すると、一時的に冷水注出ができなくなることがありますが、故障ではありません。 これは、冷却水槽への蓄氷を優先するもので、約30分程度で再び注出が可能となります。
味がしない・薄い	(1) キャニスタ内のパウダー原料が減っていませんか？	パウダー原料が減っている場合は補給してください。(☎ 21 ページ)
	(2) ミキシングケース、シュータ、粉放出口が詰まっていますか？	メンテナンスボタンを押して確認してください。(☎ 43 ページ) 詰まっている場合はお手入れしてください。(☎ 53 ページ)
本体からの水漏れ	(1) 排水管が詰まっていますか？	ホシザキ販売会社に連絡してください。
	(2) 排水管が折れ曲がってつぶされていますか？	
	(3) 排水管が排水口より高くなっていますか？	
	(4) 排水管が下水管に直結されていますか？	
	(5) 排水タンクから水があふれていますか？(床置T1形)	排水コックがきちんと閉まっているか確認し、開いている場合は、閉めてください。
現在時刻、タイマー予約がおかしい	(1) コンセントの元電源が切られていませんか？	2週間以上電源が切られたりすると、製品の時計機能が正常に働かなくなります。
	(2) 2週間以上電源が切られていますか？(運転ランプ(緑)点滅)	現在の時刻設定を行い、再びタイマー予約の設定を行ってください。(☎ 25、40 ページ)
冷却水を入れ替えたが、冷茶・冷水が温くなる。	(1) 液晶表示部に「レイキャクスイヨイレカエテクダサイ」の表示が出ていませんか？	水質改善する必要があります。 ホシザキ販売会社に連絡してください。

● 上記を確認し、それでも異常があるときは、ホシザキ販売会社にご連絡ください。

知っておいてください

修理を依頼される前に

■ その他のメッセージ

表示記号	内容	表示した時の症状	処置方法
ハイスイバルブラ アケテクダサイ*1	排水コック「閉」	ホットタンク運転が停止設定の とき、排水コックが閉じている。	排水コックを開ける。
レイキャクスイヲ イレカエテクダサイ	冷水タンク内蓄氷不良	冷却水の水質が変化して蓄氷で きない状況で、冷水が温かくなっ たり、注出能力が低下している ときがある。	冷却水の入替え 重曹 (3 g) を投入 (☞ 23 ページ)
チュウシュツロック	全ての注出が停止に設 定されている。 (一括全注出停止)	フロントパネル裏の設定パネル 上で注出ロックボタンが押され、 注出ボタンを押しても注出でき ない状況。	必要に応じて設定変更
ハイスイタンク マンスイ	排水タンクが満水 (床置T1・LP形)	排水タンクが満水で、注出等が できない状態。	排水タンクの水を排水す る。
フィルタコウカン	浄水器のカートリッジ 交換時期が超過	設定した交換時期が過ぎている。	カートリッジの交換が必要 です。(☞ 27 ページ) ホシザキ販売会社に連絡 してください。

注) *1 排水コックを開けてもしばらく表示が続くことがあります。

仕様

■仕様

この製品は、日本国内仕様です。

卓上形

	PTE-250HWA1 (パウダー茶専用機)	PTE-F250HWA1 (粉碎茶専用機)	
製品名	ホシザキティーディスペンサー		
形名	PTE-250HWA1-BK/BR	PTE-F250HWA1-BK/BR	
メニュー	温茶×1、冷茶×1、お湯・冷水		
電源	単相 100V 50/60Hz 容量 1.34kVA (13.4A)		
電源コード	4.0m (L形プラグ付)		
外形寸法	幅 450 × 奥行 527 × 高さ 750 (～765) mm		
外装	扉：ABS樹脂+アクリル塗装、鍵付、右ヒンジ式 キャビネット：亜鉛鋼板+ポリエステル粉体焼付塗装		
運転電流	10.3/10.9A		
給茶機部	電熱装置定格電流	12.1/12.1A	
	電熱装置定格消費電力	1210/1210W	
	連続注出能力	約 250 杯 90mL/杯、4 杯/min 注出、注出温度 70℃以上 (周囲温度 30℃、給水温度 25℃、タンク内温度 90℃設定時)	
	昇温時間	約 55min 周囲温度 30℃ 給水温度 25℃ 湯温 25℃→90℃	
	タンク	総貯水容量：7L (有効水量 3.8L+ 保安水量 3.2L)	
	ヒーター	アルミ鑄込みヒーター：1200W	
	キャニスタ容量	約 1000mL	約 700mL
	原料放出	スクリュウ式	スクリュウ&ギア攪拌式
	定量調節	温茶・冷茶共：90～250mL (10mL 単位可変) お湯・冷水は連続注出	
	濃度調節	20 段階可変式	
	タンク内湯温調節	サーミスタ 65～94℃で湯温設定可 (標準設定 90℃)、湯温表示機能付、適温表示：設定温度-13℃	
	ミキシング方式	マグネット着脱式攪拌ローター	
	冷却機部	冷凍機定格電流	3.8/4.2A 始動電流：22/21A
冷凍機定格消費電力		295/355W (力率：79/86%)	
放熱量		約 440/510W	
連続注出能力		約 250 杯 100mL/杯、3 杯/min 注出、注出温度 10℃以下 (周囲温度 25℃、給水温度 20℃、冷却槽蓄水完了時)	
フルダウン時間		約 2.5/2.0h 50/60Hz (周囲温度 30℃、給水温度 25℃→製氷 2kg 完了)	
冷却方式		瞬間冷却方式 (氷蓄熱式)	
圧縮機		全密閉形 100W	
凝縮器		スパイラルコンデンサ (ファン付)	
冷媒制御		キャピラリーチューブ	
冷媒		R134a	
冷却水槽	貯水量：4.3L		
断熱材	ウレタン発泡		
電気経路保護	漏電遮断器、アース線		
空焚き防止	温度ヒューズ：182℃		
冷媒経路保護	モータプロテクタによる圧縮機停止		
タイマー	ウィークリータイマー		
給水	水道直結式：給水口 G1/2 オネジ		
排水	直接排水式：呼び 25 水道用塩ビパイプ配管可能		
脚	樹脂製 50～65mm 調整可能		
製品質量	38kg		
使用条件	屋内設置、周囲温度：5～35℃、電圧変動：定格電圧の±10% 給水圧：ゲージ圧 0.05～0.78MPa		

知っておいてください

仕様
修理を依頼される前に

卓上形

	PTE-100H2WA1	PTE-100H3WA1	
製品名	ホシザキティーディスペンサー		
形名	PTE-100H2WA1-BK/BR	PTE-100H3WA1-BK/BR	
メニュー	キャニスタ2連式 (温茶×2、冷茶×2)、お湯・冷水	キャニスタ3連式 (温茶×3、冷茶×3)、お湯・冷水	
電源	単相 100V 50/60Hz 容量 1.20kVA (12.0A)		
電源コード	4.0m (L形プラグ付)		
外形寸法	幅 450 × 奥行 527 × 高さ 750 (~765) mm		
外装	扉：ABS 樹脂+アクリル塗装、鍵付、右ヒンジ式 キャビネット：亜鉛鋼板+ポリエステル粉体焼付塗装		
運転電流	9.9/10.2A		
給茶機部	電熱装置定格電流	8.1/8.1A	
	電熱装置定格消費電力	810/810W	
	連続注出能力	約 100 杯 90mL/杯、4 杯/min 注出、注出温度 70℃以上 (周囲温度 30℃、給水温度 25℃、タンク内温度 90℃設定時)	
	昇温時間	約 55min 周囲温度 30℃ 給水温度 25℃ 湯温 25℃→90℃	
	タンク	総貯水容量：7L (有効水量 3.8L+ 保安水量 3.2L)	
	ヒーター	アルミ鑄込みヒーター：800W	
	キャニスタ容量	約 1000mL × 2	約 1000mL × 3
	原料放出	スクリュウ式	
	定置調節	温茶・冷茶共：90～250mL (10mL 単位可変) お湯・冷水は連続注出	
	濃度調節	20 段階可変式	
	タンク内湯温調節	サーミスタ 65～94℃で湯温設定可 (標準設定 90℃)、湯温表示機能付、適温表示：設定温度-12℃	
	ミキシング方式	マグネット着脱式攪拌ローター	
	冷却機部	冷凍機定格電流	3.0/3.1A 始動電流：19/19A
冷凍機定格消費電力		225/265W (力率：70/80%)	
放熱量		約 390/410W	
連続注出能力		約 100 杯 100mL/杯、3 杯/min 注出、注出温度 10℃以下 (周囲温度 25℃、給水温度 20℃、冷却槽蓄水完了時)	
フルダウン時間		約 2.5/2.0h 50/60Hz (周囲温度 30℃、給水温度 25℃→製氷 2kg 完了)	
冷却方式		瞬間冷却方式 (氷蓄熱式)	
圧縮機		全密閉形 75W	
凝縮器		スパイラルコンデンサ (ファン付)	
冷媒制御		キャピラリーチューブ	
冷媒		R134a	
冷却水槽	貯水量：4.3L		
断熱材	ウレタン発泡		
電気経路保護	漏電遮断器、アース線		
空焚き防止	温度ヒューズ：182℃		
冷媒経路保護	モータプロテクタによる圧縮機停止		
タイマー	ウィークリータイマー		
給水	水道直結式：給水口 G1/2 オネジ		
排水	直接排水式：呼び 25 水道用塩ビパイプ配管可能		
脚	樹脂製 50～65mm 調整可能		
製品質量	39kg	40kg	
使用条件	屋内設置、周囲温度：5～35℃、電圧変動：定格電圧の±10% 給水圧：ゲージ圧 0.05～0.78MPa		

床置形 (PTE-250HWA1 との組み合わせ)

	C形	T1形	LP形
製品名	ホシザキティーディスペンサー		
組み合わせ形名	PTE-250HWA1-C-BK/BR	PTE-250HWA1-T1-BK/BR	PTE-250HWA1-LP-BK/BR
組み合わせ機種	卓上形+APC-EA1-C-BK/BR	卓上形+APC-EA1-T1-BK/BR	卓上形+APC-EA1-LP-BK/BR
メニュー	温茶×1、冷茶×1、お湯・冷水		
電源	1電源		2電源
	単相 100V 50/60Hz 容量 1.34kVA (13.4A)	単相 100V 50/60Hz 容量 1.45kVA (14.5A)	単相 100V 50/60Hz 容量 1.34kVA (13.4A) 単相 100V 50/60Hz 容量 10VA (0.1A)
電源コード	4.0m (L形プラグ付)		
外形寸法	幅 450 × 奥行 527 × 高さ 1465 (~1480) mm		
給茶	本体	扉: ABS樹脂+アクリル塗装、鍵付、右ヒンジ式 キャビネット: 亜鉛鋼板+ポリエステル粉体焼付塗装	
	キャビネットスタンド	扉: 亜鉛鉄板+アクリル焼付塗装、鍵付、右ヒンジ式 キャビネット: 亜鉛鋼板+ポリエステル粉体焼付塗装	
運転電流	10.3/10.9A		
給茶機部	電熱装置定格電流	12.1/12.1A	
	電熱装置定格消費電力	1210/1210W	
	連続注出能力	約 250杯 90mL/杯、4杯/min 注出、注出温度 70℃以上 (周囲温度 30℃、給水温度 25℃、タンク内温度 90℃設定時)	
	昇温時間	約 55min 周囲温度 30℃ 給水温度 25℃ 湯温 25℃→90℃	
	タンク	総貯水容量: 7L (有効水量 3.8L+保安水量 3.2L)	
	ヒーター	アルミ鑄込みヒーター: 1200W	
	キャニスタ容量	約 1000mL	
	原料放出	スクリュース式	
	定量調節	温茶・冷茶共: 90~250mL (10mL単位可変) お湯・冷水は連続注出	
	濃度調節	20段階可変式	
タンク内湯温調節	サーミスタ 65~94℃で湯温設定可 (標準設定 90℃)、湯温表示機能付、適温表示: 設定温度-13℃		
ミキシング方式	マグネット着脱式攪拌ローター		
冷却機部	冷凍機定格電流	3.8/4.2A 始動電流: 22/21A	
	冷凍機定格消費電力	295/355W (力率: 79/86%)	
	放熱量	約 440/510W	
	連続注出能力	約 250杯 100mL/杯、3杯/min 注出、注出温度 10℃以下 (周囲温度 25℃、給水温度 20℃、冷却槽蓄水完了時)	
	ブルダウン時間	約 2.5/2.0h 50/60Hz (周囲温度 30℃、給水温度 25℃→製氷 2kg完了)	
	冷却方式	瞬間冷却方式 (氷蓄熱式)	
	圧縮機	全密閉形 100W	
	凝縮器	スパイラルコンデンサ (ファン付)	
	冷媒制御	キャピラリーチューブ	
	冷媒	R134a	
冷却水槽	貯水量: 4.3L		
断熱材	ウレタン発泡		
電気経路保護	漏電遮断器、アース線		
空焚き防止	温度ヒューズ: 182℃		
冷媒経路保護	モータプロテクタによる圧縮機停止		
漏水検知装置	-	-	センサ: SUS304 電極 (2本) 止水装置: 電動ボールバルブ
タイマー	ウィークリータイマー		
給水	水道直結式: 給水口 G1/2 オネジ	カセット給水式: カセットタンク 15L × 2	水道直結式: 給水口 G1/2 オネジ
給水装置	-	ペーン式ポンプ (モーター出力 40W)	-
排水	直接排水式: 呼び 25 水道用塩ビパイプ接続可能	ドレンタンク排水: 10L × 1	ドレンタンク排水: 10L × 1
脚	樹脂製 50~65mm 調整可能		
製品質量	PTE-250HWA1-BK/BR: 38kg APC-EA1-C-BK/BR: 19kg	PTE-250HWA1-BK/BR: 38kg APC-EA1-T1-BK/BR: 22kg	PTE-250HWA1-BK/BR: 38kg APC-EA1-LP-BK/BR: 20kg
使用条件	屋内設置、周囲温度: 5~35℃ 電圧変動: 定格電圧の±10% 給水圧: ゲージ圧 0.05~0.78MPa	屋内設置、周囲温度: 5~35℃ 電圧変動: 定格電圧の±10%	屋内設置、周囲温度: 5~35℃ 電圧変動: 定格電圧の±10% 給水圧: ゲージ圧 0.05~0.78MPa

知っておくべきこと

仕様

床置形 (PTE-F250HWA1 との組み合わせ)

	C形	T1形	LP形
製品名	ホシザキティーディスペンサー		
組み合わせ形名	PTE-F250HWA1-C-BK/BR	PTE-F250HWA1-T1-BK/BR	PTE-F250HWA1-LP-BK/BR
組み合わせ機種	卓上形+APC-EA1-C-BK/BR	卓上形+APC-EA1-T1-BK/BR	卓上形+APC-EA1-LP-BK/BR
メニュー	温茶×1、冷茶×1、お湯・冷水		
電源	1電源		2電源
	単相 100V 50/60Hz 容量 1.34kVA (13.4A)	単相 100V 50/60Hz 容量 1.45kVA (14.5A)	単相 100V 50/60Hz 容量 1.34kVA (13.4A) 単相 100V 50/60Hz 容量 10VA (0.1A)
電源コード	4.0m (L形プラグ付)		
外形寸法	幅 450 × 奥行 527 × 高さ 1465 (~1480) mm		
給茶	本体	扉: ABS樹脂+アクリル塗装、鍵付、右ヒンジ式 キャビネット: 亜鉛鋼板+ポリエステル粉体焼付塗装	
	キャビネットスタンド	扉: 亜鉛鉄板+アクリル焼付塗装、鍵付、右ヒンジ式 キャビネット: 亜鉛鋼板+ポリエステル粉体焼付塗装	
運転電流	10.3/10.9A		
給茶機部	電熱装置定格電流	12.1/12.1A	
	電熱装置定格消費電力	1210/1210W	
	連続注出能力	約 250杯 90mL/杯、4杯/min 注出、注出温度 70℃以上 (周囲温度 30℃、給水温度 25℃、タンク内温度 90℃設定時)	
	昇温時間	約 55min 周囲温度 30℃ 給水温度 25℃ 湯温 25℃→90℃	
	タンク	総貯水容量: 7L (有効水量 3.8L+保安水量 3.2L)	
	ヒーター	アルミ鑄込みヒーター: 1200W	
	キャニスタ容量	約 700mL	
	原料放出	スクリュウ&ギヤ攪拌式	
	定量調節	温茶・冷茶共: 90~250mL (10mL単位可変) お湯・冷水は連続注出	
	濃度調節	20段階可変式	
	タンク内湯温調節	サーミスタ 65~94℃で湯温設定可 (標準設定 90℃)、湯温表示機能付、適温表示: 設定温度-13℃	
	ミキシング方式	マグネット着脱式攪拌ローター	
冷却機部	冷凍機定格電流	3.8/4.2A 始動電流: 22/21A	
	冷凍機定格消費電力	295/355W (力率: 79/86%)	
	放熱量	約 440/510W	
	連続注出能力	約 250杯 100mL/杯、3杯/min 注出、注出温度 10℃以下 (周囲温度 25℃、給水温度 20℃、冷却槽蓄水完了時)	
	ブルダウン時間	約 2.5/2.0h 50/60Hz (周囲温度 30℃、給水温度 25℃→製氷 2kg完了)	
	冷却方式	瞬間冷却方式 (氷蓄熱式)	
	圧縮機	全密閉形 100W	
	凝縮器	スパイラルコンデンサ (ファン付)	
	冷媒制御	キャピラリーチューブ	
	冷媒	R134a	
冷却水槽	貯水量: 4.3L		
断熱材	ウレタン発泡		
電気経路保護	漏電遮断器、アース線		
空焚き防止	温度ヒューズ: 182℃		
冷媒経路保護	モータプロテクタによる圧縮機停止		
漏水検知装置	-	-	センサ: SUS304 電極 (2本) 止水装置: 電動ボールバルブ
タイマー	ウィークリータイマー		
給水	水道直結式: 給水口 G1/2 オネジ	カセット給水式: カセットタンク 15L × 2	水道直結式: 給水口 G1/2 オネジ
給水装置	-	ペーン式ポンプ (モーター出力 40W)	-
排水	直接排水式: 呼び 25 水道用塩ビパイプ接続可能	ドレンタンク排水: 10L × 1	ドレンタンク排水: 10L × 1
脚	樹脂製 50 ~ 65mm 調整可能		
製品質量	PTE-F250HWA1-BK/BR: 38kg APC-EA1-C-BK/BR: 19kg	PTE-F250HWA1-BK/BR: 38kg APC-EA1-T1-BK/BR: 22kg	PTE-F250HWA1-BK/BR: 38kg APC-EA1-LP-BK/BR: 20kg
使用条件	屋内設置、周囲温度: 5 ~ 35℃ 電圧変動: 定格電圧の±10% 給水圧: ゲージ圧 0.05 ~ 0.78MPa	屋内設置、周囲温度: 5 ~ 35℃ 電圧変動: 定格電圧の±10%	屋内設置、周囲温度: 5 ~ 35℃ 電圧変動: 定格電圧の±10% 給水圧: ゲージ圧 0.05 ~ 0.78MPa

床置形 (PTE-100H2WA1 との組み合わせ)

	C形	T1形	LP形
製品名	ホシザキティーディスペンサー		
組み合わせ形名	PTE-100H2WA1-C-BK/BR	PTE-100H2WA1-T1-BK/BR	PTE-100H2WA1-LP-BK/BR
組み合わせ機種	卓上形+APC-EA1-C-BK/BR	卓上形+APC-EA1-T1-BK/BR	卓上形+APC-EA1-LP-BK/BR
メニュー	キャニスタ2連式(温茶×2、冷茶×2)、お湯・冷水		
電源	1電源	1電源	2電源
	単相 100V 50/60Hz 容量 1.20kVA (12.0A)	単相 100V 50/60Hz 容量 1.31kVA (13.1A)	単相 100V 50/60Hz 容量 1.20kVA (12.0A) 単相 100V 50/60Hz 容量 10VA (0.1A)
電源コード	4.0m (L形プラグ付)		
外形寸法	幅 450 × 奥行 527 × 高さ 1465 (～1480) mm		
給茶	本体	扉: ABS樹脂+アクリル塗装、鍵付、右ヒンジ式 キャビネット: 亜鉛鋼板+ポリエステル粉体焼付塗装	
	キャビネットスタンド	扉: 亜鉛鉄板+アクリル焼付塗装、鍵付、右ヒンジ式 キャビネット: 亜鉛鋼板+ポリエステル粉体焼付塗装	
運転電流	9.9/10.2A		
給茶機部	電熱装置定格電流	8.1/8.1A	
	電熱装置定格消費電力	810/810W	
	連続注出能力	約 100杯 90mL/杯、4杯/min 注出、注出温度 70℃以上 (周囲温度 30℃、給水温度 25℃、タンク内温度 90℃設定時)	
	昇温時間	約 55min 周囲温度 30℃ 給水温度 25℃ 湯温 25℃→90℃	
	タンク	総貯水容量: 7L (有効水量 3.8L+保安水量 3.2L)	
	ヒーター	アルミ鑄込みヒーター: 800W	
	キャニスタ容量	約 1000mL × 2	
	原料放出	スクリュウ式	
	定量調節	温茶・冷茶共: 90～250mL (10mL単位可変) お湯・冷水は連続注出	
	濃度調節	20段階可変式	
	タンク内湯温調節	サーミスタ 65～94℃で湯温設定可 (標準設定 90℃)、湯温表示機能付、適温表示: 設定温度-12℃	
	ミキシング方式	マグネット着脱式攪拌ローター	
冷却機部	冷凍機定格電流	3.0/3.1A 始動電流: 19/19A	
	冷凍機定格消費電力	225/265W (力率: 70/80%)	
	放熱量	約 390/410W	
	連続注出能力	約 100杯 100mL/杯、3杯/min 注出、注出温度 10℃以下 (周囲温度 25℃、給水温度 20℃、冷却槽蓄氷完了時)	
	ブルダウン時間	約 2.5/2.0h 50/60Hz (周囲温度 30℃、給水温度 25℃→製氷 2kg完了)	
	冷却方式	瞬間冷却方式 (氷蓄熱式)	
	圧縮機	全密閉形 75W	
	凝縮器	スパイラルコンデンサ (ファン付)	
	冷媒制御	キャピラリーチューブ	
	冷媒	R134a	
冷却水槽	貯水量: 4.3L		
断熱材	ウレタン発泡		
電気経路保護	漏電遮断器、アース線		
空焚き防止	温度ヒューズ: 182℃		
冷媒経路保護	モータプロテクタによる圧縮機停止		
漏水検知装置	-	-	センサ: SUS304 電極 (2本) 止水装置: 電動ボールバルブ
タイマー	ウィークリータイマー		
給水	水道直結式: 給水口 G1/2 オネジ	カセット給水式: カセットタンク 15L × 2	水道直結式: 給水口 G1/2 オネジ
給水装置	-	ペーン式ポンプ (モーター出力 40W)	-
排水	直接排水式: 呼び 25 水道用塩ビパイプ接続可能	ドレンタンク排水: 10L × 1	ドレンタンク排水: 10L × 1
脚	樹脂製 50～65mm 調整可能		
製品質量	PTE-100H2WA1-BK/BR: 39kg APC-EA1-C-BK/BR: 19kg	PTE-100H2WA1-BK/BR: 39kg APC-EA1-T1-BK/BR: 22kg	PTE-100H2WA1-BK/BR: 39kg APC-EA1-LP-BK/BR: 20kg
使用条件	屋内設置、周囲温度: 5～35℃ 電圧変動: 定格電圧の±10% 給水圧: ゲージ圧 0.05～0.78MPa	屋内設置、周囲温度: 5～35℃ 電圧変動: 定格電圧の±10%	屋内設置、周囲温度: 5～35℃ 電圧変動: 定格電圧の±10% 給水圧: ゲージ圧 0.05～0.78MPa

知っておいてください

仕様

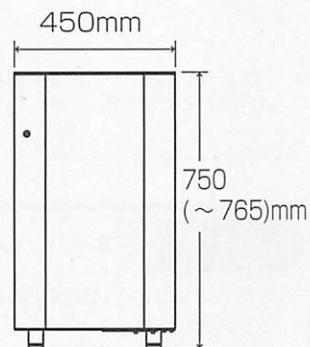
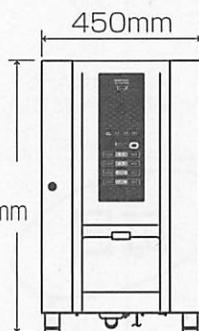
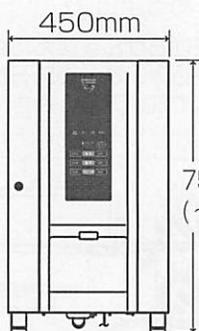
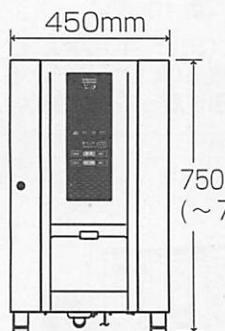
床置形 (PTE-100H3WA1 との組み合わせ)

	C形	T1形	LP形
製品名	ホシザキティーディスペンサー		
組み合わせ形名	PTE-100H3WA1-C-BK/BR	PTE-100H3WA1-T1-BK/BR	PTE-100H3WA1-LP-BK/BR
組み合わせ機種	卓上形+APC-EA1-C-BK/BR	卓上形+APC-EA1-T1-BK/BR	卓上形+APC-EA1-LP-BK/BR
メニュー	キャニスタ3連式(温茶×3、冷茶×3)、お湯・冷水		
電源	1電源	1電源	2電源
	単相100V 50/60Hz 容量1.20kVA (12.0A)	単相100V 50/60Hz 容量1.31kVA (13.1A)	単相100V 50/60Hz容量1.20kVA (12.0A) 単相100V 50/60Hz容量10VA (0.1A)
電源コード	4.0m (L形プラグ付)		
外形寸法	幅450×奥行527×高さ1465(～1480)mm		
給茶	本体	扉:ABS樹脂+アクリル塗装、鍵付、右ヒンジ式 キャビネット:亜鉛鋼板+ポリエステル粉体焼付塗装	
	キャビネットスタンド	扉:亜鉛鉄板+アクリル焼付塗装、鍵付、右ヒンジ式 キャビネット:亜鉛鋼板+ポリエステル粉体焼付塗装	
運転電流	9.9/10.2A		
給茶機部	電熱装置定格電流	8.1/8.1A	
	電熱装置定格消費電力	810/810W	
	連続注出能力	約100杯 90mL/杯、4杯/min注出、注出温度70℃以上 (周囲温度30℃、給水温度25℃、タンク内温度90℃設定時)	
	昇温時間	約55min 周囲温度30℃ 給水温度25℃ 湯温25℃→90℃	
	タンク	総貯水容量:7L(有効水量3.8L+保安水量3.2L)	
	ヒーター	アルミ鑄込みヒーター:800W	
	キャニスタ容量	約1000mL×3	
	原料放出	スクリュウ式	
	定量調節	温茶・冷茶共:90～250mL(10mL単位可変) お湯・冷水は連続注出	
	濃度調節	20段階可変式	
	タンク内湯温調節	サーミスタ65～94℃で湯温設定可(標準設定90℃)、湯温表示機能付、適温表示:設定温度-12℃	
	ミキシング方式	マグネット着脱式攪拌ローター	
冷却機部	冷凍機定格電流	3.0/3.1A 始動電流:19/19A	
	冷凍機定格消費電力	225/265W(力率:70/80%)	
	放熱量	約390/410W	
	連続注出能力	約100杯 100mL/杯、3杯/min注出、注出温度10℃以下 (周囲温度25℃、給水温度20℃、冷却槽蓄氷完了時)	
	ブルダウン時間	約2.5/2.0h 50/60Hz(周囲温度30℃、給水温度25℃→製氷2kg完了)	
	冷却方式	瞬間冷却方式(氷蓄熱式)	
	圧縮機	全密閉形75W	
	凝縮器	スパイラルコンデンサ(ファン付)	
	冷媒制御	キャピラリーチューブ	
	冷媒	R134a	
冷却水槽	貯水量:4.3L		
断熱材	ウレタン発泡		
電気経路保護	漏電遮断器、アース線		
空焚き防止	温度ヒューズ:182℃		
冷媒経路保護	モータプロテクタによる圧縮機停止		
漏水検知装置	-	-	センサ:SUS304電極(2本) 止水装置:電動ボールバルブ
タイマー	ウィークリータイマー		
給水	水道直結式: 給水口G1/2オネジ	カセット給水式: カセットタンク15L×2	水道直結式: 給水口G1/2オネジ
給水装置	-	ペーン式ポンプ(モーター出力40W)	-
排水	直接排水式: 呼び25水道用塩ビパイプ接続可能	ドレンタンク排水:10L×1	ドレンタンク排水:10L×1
脚	樹脂製50～65mm調整可能		
製品質量	PTE-100H3WA1-BK/BR:40kg APC-EA1-BK/BR:19kg	PTE-100H3WA1-BK/BR:40kg APC-EA1-T1-BK/BR:22kg	PTE-100H3WA1-BK/BR:40kg APC-EA1-LP-BK/BR:20kg
使用条件	屋内設置、周囲温度:5～35℃ 電圧変動:定格電圧の±10% 給水圧:ゲージ圧0.05～0.78MPa	屋内設置、周囲温度:5～35℃ 電圧変動:定格電圧の±10%	屋内設置、周囲温度:5～35℃ 電圧変動:定格電圧の±10% 給水圧:ゲージ圧0.05～0.78MPa

■ 外形寸法

卓上形

キャビネットスタンド



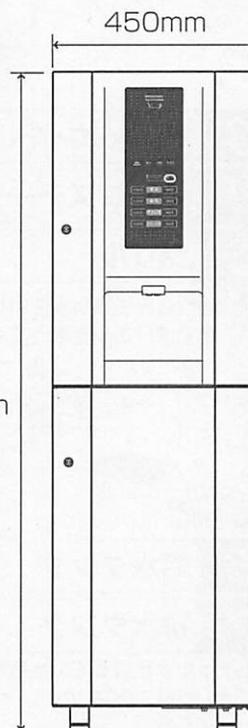
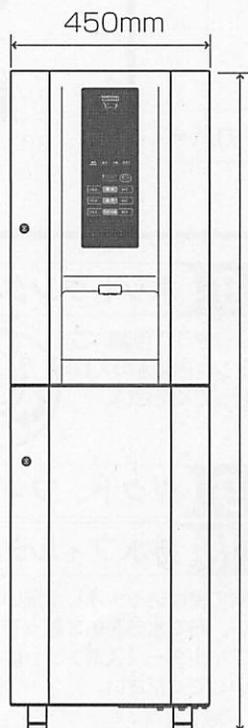
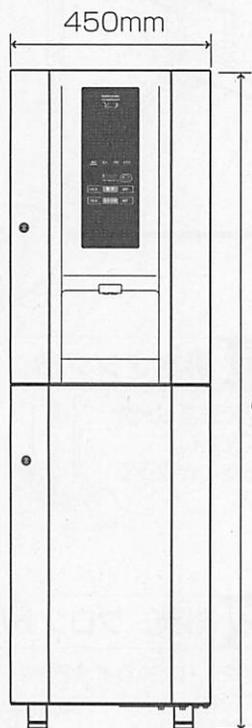
PTE-250HWA1-BK/BR
PTE-F250HWA1-BK/BR

PTE-100H2WA1-BK/BR

PTE-100H3WA1-BK/BR

APC-EA1-C-BK/BR
APC-EA1-T1-BK/BR
APC-EA1-LP-BK/BR

床置形 (キャビネットスタンドと組み合わせ)



PTE-250HWA1-C-BK/BR
PTE-250HWA1-T1-BK/BR
PTE-250HWA1-LP-BK/BR
PTE-F250HWA1-C-BK/BR
PTE-F250HWA1-T1-BK/BR
PTE-F250HWA1-LP-BK/BR

PTE-100H2WA1-C-BK/BR
PTE-100H2WA1-T1-BK/BR
PTE-100H2WA1-LP-BK/BR

PTE-100H3WA1-C-BK/BR
PTE-100H3WA1-T1-BK/BR
PTE-100H3WA1-LP-BK/BR

知
っ
て
お
い
て
く
だ
さ
い

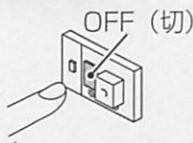
仕
様

お手入れガイド

■ ティーディスペンサー (PTE-100/250/F250 シリーズ)

お願い

1



電源を切って
行ってください。

2



清潔な手で
行ってください。

3



清潔なふきんを
使用してください。

使用する殺菌消毒剤



ぬるま湯 1L

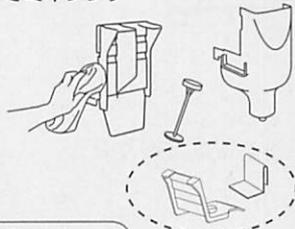
逆性石けん
(塩化ベンザルコニウム)

逆性石けん 10%溶液を、
ぬるま湯 1L にキャップ
2杯 (約 10mL)

逆性石けんを加えたぬるま湯 (35 ~ 40°C) に
浸け込み、3分後に石けん分が残らないように、水道
水で洗い流し、ふきんで水をふき取ってください。

POINT 1 ミキシングケース

汚れが目立つときは状況に応じてミキシング
ケースを、本体・カバー・
かくはんローターに分解し
て洗浄してください。
(コーンスープ対応部品
(オプション) がある場合は、
一緒に洗浄・水洗いします。)



毎日

POINT 2 シュータ・粉放出口

シュータ：中性洗剤に浸け込み洗浄し、水洗いして
十分乾燥させてください。
粉放出口：乾いた柔らかい布でふきます。

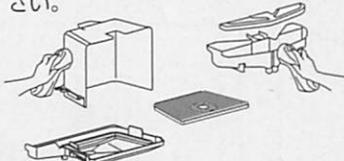


POINT 3 ドリンクガイド、ドリンクガイドカバー

POINT 4 カップステージ A・B

POINT 5 グリル

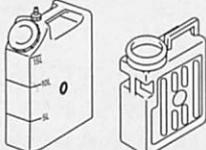
中性洗剤に浸け込み洗浄し水洗いして
ください。布で水分をふき取ってくだ
さい。



POINT 6 給水タンク

POINT 7 排水タンク

残水やたまった水を捨てて、水道水
で 2 ~ 3 回洗浄してください。



POINT 8 ホットタンク

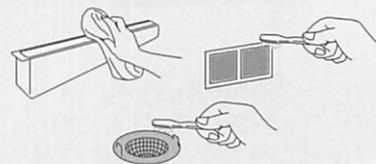
排水コックを 10 秒開いて
ホットタンク内の水の入れ
替えを行ってください。



POINT 9 ダクト、フィルター

POINT 10 排水フィルター

中性洗剤に浸け込み洗浄し水洗いして
ください。布で水分をふき取ってくだ
さい。フィルター (スポンジ) は
もみ洗いしてください。



POINT 11 排水タンク台

中性洗剤で洗浄し水洗
いしてください。
布で水分をふき取って
ください。



POINT 12 外装、フロントパネル

中性洗剤を入れたぬるま湯を含めた布で
ふいてください。
洗剤分が残らない
ように水を含ませ
た布で洗剤分をふ
き取ってください。



1 週間に 1 回

* 汚れのひどいときは都度行ってください。
* 逆性石けん (塩化ベンザルコニウム) は薬局でお求め頂けます。
* 取り外し、取り付け手順などの詳細は本紙のお手入れと点検をご覧ください。
* このページはコピーし、給茶機側面に貼り付けるなどしてご利用ください。

据付工事説明

⚠ 警告



据付工事は専門業者がこの据付工事説明に従って実施すること

専門業者 据付工事完了後試運転を行い、異常がないことを確認し、取扱説明書に従ってお客様に使用方法・お手入れのしかたを説明してください。

も く じ

開梱	80
■ 開梱のしかた	
■ 点検	
運搬	81
■ 運搬のしかた	
設置	82
■ 組立のしかた	
■ 設置のしかた	
電気工事	85
配管工事	87
■ 給水工事のしかた	
■ 給水配管	
■ 排水工事のしかた	
■ 配管工事終了後の確認	
■ 棚板の取り付け（床置C形）	
試運転	92
■ 試運転前の準備	
■ 運転動作確認	
浄水器の取り付け工事	95
■ 浄水器について	

開梱

■ 開梱のしかた

⚠ 警告



作業は、床が丈夫で平らなところで
行うこと

専門業者 不安定なところでは、製品転倒によるケガの
原因になります。

⚠ 注意



包装用バンドを持って荷扱いしない
こと

禁止 バンドが切れ、ケガをしたり、製品が破損す
る原因になります。

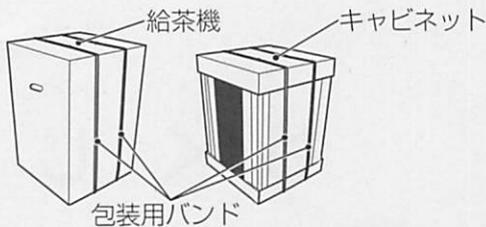
使用上の注意

- 製品を 45° 以上傾けないでください。圧縮機など
の故障の原因になることがあります。

お知らせ

- 梱包用ビニール袋は、保管または廃却してください。

1 包装用バンドを外して、開梱します。



2 給茶機の上にある浄水器の梱包を取り出します。

お知らせ

- キャビネットスタンド床置形-T1 と組み合わせる
ときは、この浄水器を床置形-T1 に組み付けま
す。
- 上記以外の場合は、状況に応じて浄水器を組
付けてください。

3 給茶機のフロントパネルを開け、付属品を取り出します。

4 給茶機内にあるミキシングケース、キャニスタなどを固定しているテープを外します。

5 キャビネットスタンドの扉を開け、貼り付けてある固定テープを外します。

6 キャビネットスタンド内の付属品を取り出します。

■ 点検

1 フロントパネルなどの外周りや、内装部品に傷や破損がないことを点検します。

2 取扱説明書の「付属品」を見て、不足部品、傷、破損がないことを点検します。 (P. 18 ~ 19 ページ)

お知らせ

- 点検の結果、不足部品、傷、破損があれば、最寄りのホシザキ販売会社に連絡してください。
- キャビネットスタンドには脚は付属していません。給茶機の脚を外して使用してください。

運搬

■ 運搬のしかた

⚠ 警告

 製品を移動するときは、トップパネル、扉を持たないこと

禁止 天板、扉が外れ、製品落下によるケガの原因になります。

⚠ 注意

 製品を移動するときは、本体底面を持って行うこと

運搬 ケガの原因になります。

 製品は、二人以上で運搬すること
腰を痛めたり、ケガをする原因になります。

運搬

使用上の注意

- 製品を 45° 以上傾けないでください。圧縮機などの故障の原因になることがあります。

設置

■ 組立のしかた

⚠ 注意



作業は、二人以上で運搬すること
ケガをする原因になります。

作業

組み合わせ

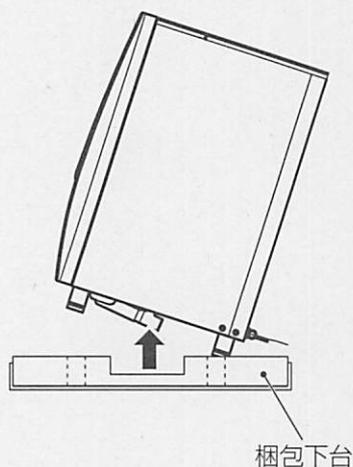
給茶機とキャビネットスタンドの組み合わせについては、「機種一覧表」を参照してください。
(P.8 ページ)
「お客様の製品」欄にチェックを入れてください。

組み立てかた (卓上形)

使用上の注意

- 電源コード、アース線をはさまないように注意してください。

- 1 給茶機を梱包下台から取り出します。



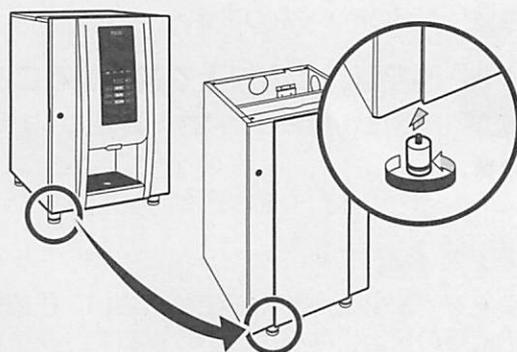
キャビネットスタンドとの組み合わせ

- 1 給茶機の脚 (4個) を取り外します。

使用上の注意

- 脚の取り外しは、梱包下台の上で行ってください。他の場所で行うと、給茶機の底部にある排水口が破損する恐れがあります。

- 2 キャビネットスタンドに脚を取り付けます。

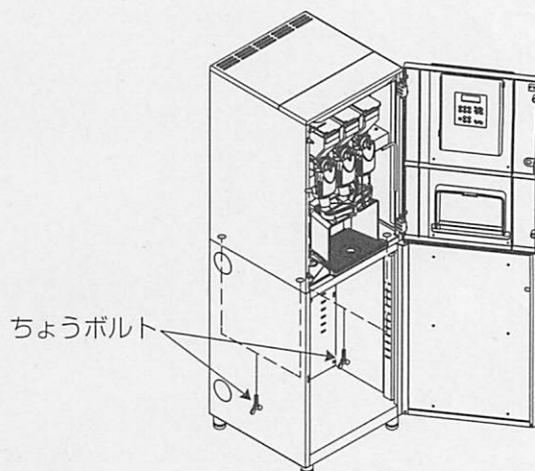


- 3 キャビネットスタンドの上に給茶機をのせます。

使用上の注意

- 給茶機とキャビネットスタンドで、電源コード、アース線をはさまないように注意してください。

- 4 ちょうボルト (4個) で給茶機とキャビネットスタンドを固定します。



■ 設置のしかた

⚠ 警告

-  屋外に据え付けないこと
雨水のかかる場所で使用されると、漏電、感電の原因になります。
屋外禁止
-  湿気の多い所や、水のかかりやすい場所に据え付けないこと
湿気禁止 絶縁低下から漏電、感電の原因になります。

使用上の注意

- 浄水器は、スケール抑制型を取り付けて頂くことをお勧めします。
スケール抑制型浄水器を取り付けない場合、水質によっては、製品が故障するおそれがあります。

お知らせ

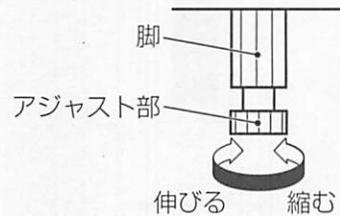
- 水がこぼれても支障のない場所に据え付けてください。お茶がこぼれたりして床を汚したりすることがあります。
- 凍結の恐れがある場所へは据え付けないでください。万が一、周囲温度が0℃以下になり、凍結の恐れがあるときは、水抜きをしてください。配管の破損により浸水し、周囲（家財など）をぬらす原因になります。
- 温度と湿気に対し支障のない場所に設置してください。使用中に注出口より湯気が出ます。
- 湿度の高い場所に設置されると、キャニスタ内のパウダー原料が固まる可能性があります。
- 周囲温度が35℃を超える場合は、換気扇などで換気して、35℃以下にしてください。

水平に調整

⚠ 注意

-  床面が丈夫で平らな所に水平になるように据え付けること
専門業者 水漏れ、転倒、落下によるケガなどの原因になります。

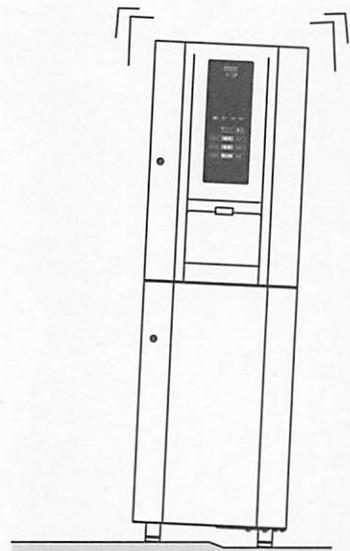
- 1 設置場所に置いてから、製品がガタつかず垂直になるようにアジャスト部を回し、調整します。



- 2 丈夫で平らな床に据え付けます。

使用上の注意

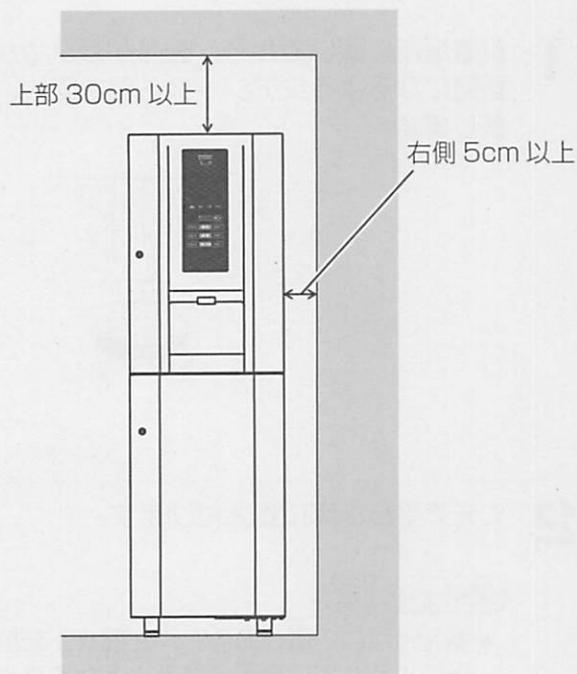
- 据え付けに不備があると、水漏れ、転倒、落下によるケガの原因になることがあります。



製品周囲のすき間

機械室を塞がないようにし、風通しをよくしてください。すき間がないと、排熱が悪くなり、注出能力の低下や故障の原因になります。

壁や物と製品とのすき間は、下図のようにします。守らないと、冷水側の冷却能力が低下し電気代のむだにもなります。



転倒防止措置

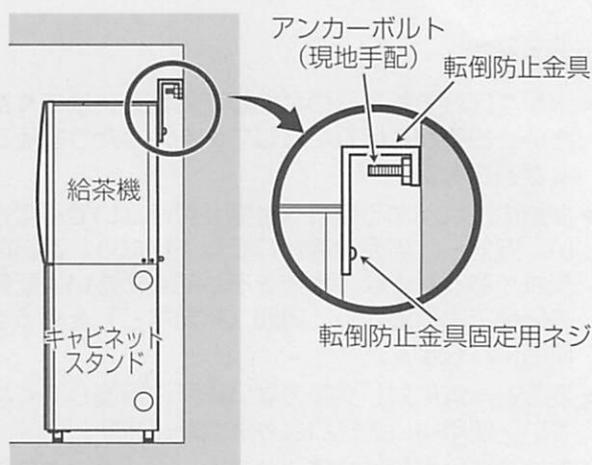
⚠ 警告

! 給茶機やキャビネットスタンドは、壁および床に転倒防止金具で固定すること
転倒防止
製品が転倒し、ケガの原因になります。

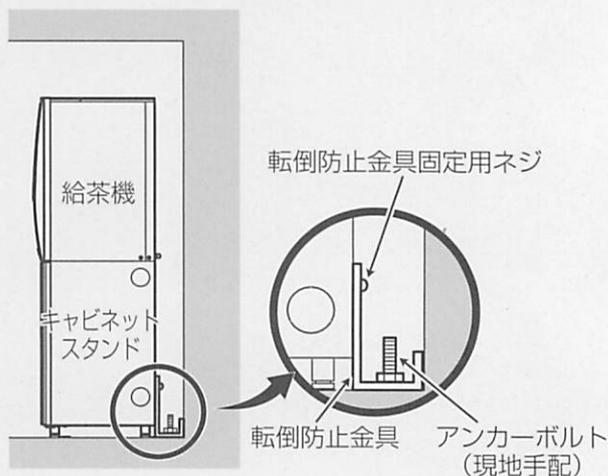
転倒防止対策として、壁または床面に固定する2種類の固定方法があります。

下記のいずれかの方法で施工します。

壁に固定する場合



床に固定する場合



⚠ 警告



電気工事を始める前に、元電源を切ること

元電源切 感電の原因になります。切った元電源には、この先で仕事をしているので電源を入れるな、という意味の標識を取り付けてください。



電気工事 電源工事は、「電源設備に関する技術基準」、「内線規定」およびこの取扱・据付工事説明書の「据付工事説明」に従って施工し、専用回路（過負荷・短絡保護あり）を使用すること

電気回路不良、容量不足や施工不備があると、感電、火災の原因になります。



専用電源を使用すること

専用電源 電源コードは途中で接続したり、延長コードの使用やタコ足配線をする、感電や発熱、火災の原因になります。



アース工事を行うこと

アース線接続 アース線はガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないこと
アースが不完全な場合は、感電の原因になります。（電気工事業者によるD接種工事が必要）



電源コードを傷つけないこと

加工したり、引っ張ったり、たばねたり、また重いものをのせたり、はさみ込んだりすると、電源コードが破損し、感電、火災の原因になります。



ぬれた手で電源プラグなど電気部品に触れたり、電源スイッチ（漏電遮断器）を操作しないこと

ぬれ手禁止

感電の原因になります。



電源プラグは確実に差し込むこと

電源プラグ 接続が不完全な場合は、感電、火災の原因になります。

⚠ 注意



電源電圧は定格電圧の90～110%の範囲内とすること

電圧 この範囲以外では発煙、発火、機械の故障や能力低下を招く原因になります。

お知らせ

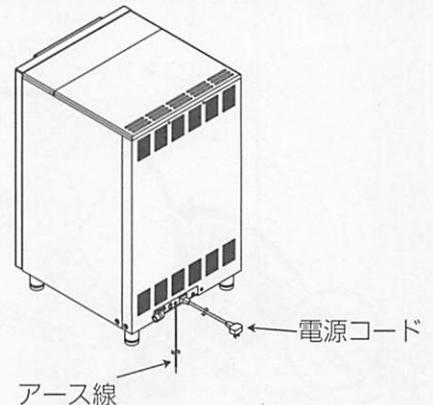
- 元電源（元ブレーカ）および専用コンセントの容量は15Aにしてください。
- 製品の電源コード、およびアース線の長さは約4.0mです。
- 電源コード、アース線が元電源、および専用コンセントに届く範囲に設置し電気工事を行ってください。

アース線の接続

配管工事終了後、アース線の接続を行ってください。

給茶機

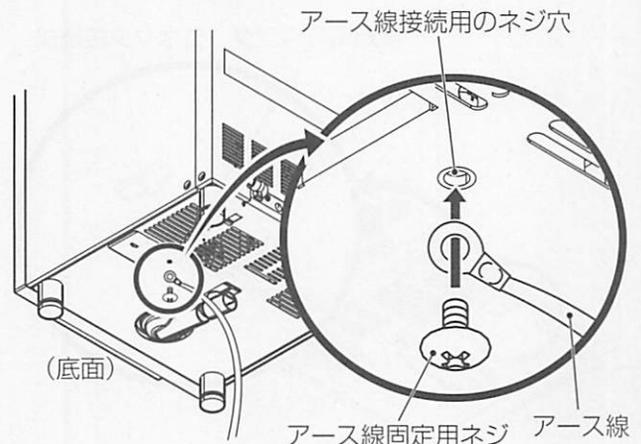
給茶機には、機械背面にアース線が取り付けられています。緑と黄色のストライプの色の電線がアース線です。



キャビネットスタンド（床置T1・LP形）

床置T1・LP形のキャビネットスタンドには、機械内部にアース線が取り付けられています。緑色の電線がアース線です。

- 1 給茶機の底面に、アース線をアース線固定用ネジで固定します。



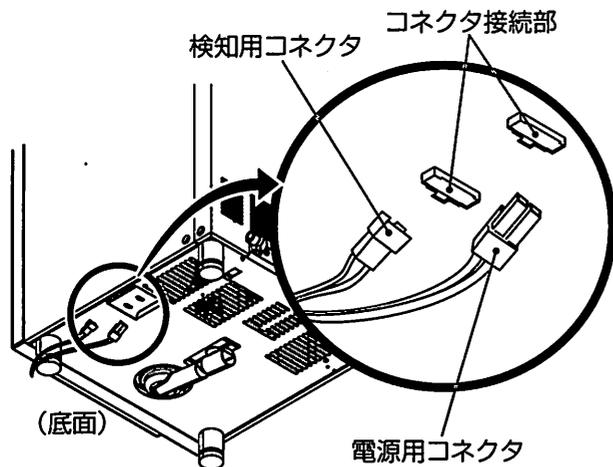
コネクタの接続

配管工事終了後、コネクタの接続を行ってください。

排水タンクの検知用コネクタ（床置 T1・LP 形）と給水ポンプの電源用コネクタ（床置 T1 形）を給茶機の底面にあるコネクタ部へ接続してください。

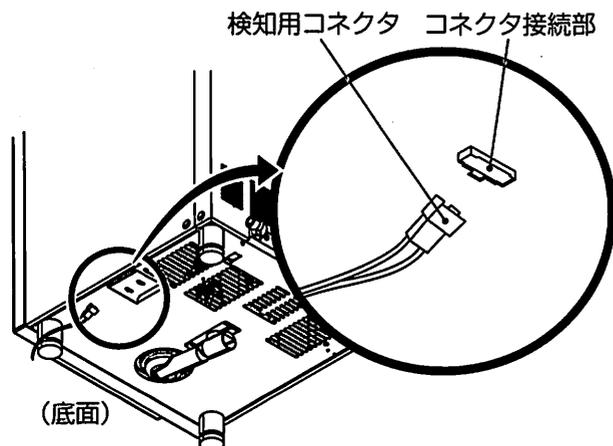
床置 T1 形

- 1 排水タンクの検知用コネクタを給茶機底面にあるコネクタ接続部に接続します。
- 2 給水ポンプの電源用コネクタを給茶機底面にあるコネクタ接続部に接続します。



床置 LP 形

- 1 排水タンクの検知用コネクタを給茶機底面にあるコネクタ接続部に接続します。



配管工事

■ 給水工事のしかた

使用水

⚠ 衛生



水道水を使用すること

水道水以外を使用すると、錆・配管詰まりや健康障害の原因になります。

使用上の注意

- 給水圧は 0.05 ~ 0.78MPa の範囲内で使用してください。
- 給水圧が 0.05MPa 以下の場合は、加圧ポンプを使用してください。
- 給水圧が 0.78MPa 以上になるおそれがある場合は、必ず減圧弁を取り付けてください。
- 目安値を超える場合は、水質に適した水処理器の取り付けが必要となります。水処理専門業者または、最寄りのホシザキ販売会社に相談ください。
- 使用する水の硬度が高い場合は、軟水器を取り付けてください。硬度の高い水を長期間使用すると、最悪の場合、お湯の温度が上がらなくなったり、水漏れの原因になります。

配管材

給水配管は地域の水道法の基準に適合しているフレキシブル管、硬質塩化ビニール管、硬質塩化ビニールライニング鋼管などをお使いください。排水管は硬質塩化ビニール管などをお使いください。

配管類の洗浄

配管類は接続する前に十分洗浄してください。

お知らせ

- 配管類には、切り粉、切削油、異物などが付着しています。これらが混入しますと、フィルターや製品内部のウォーターバルブが詰まる場合があります。

配管接続部

配管類はシール材、シール用テープ、パッキンなどを使用して、水漏れがないように接続してください。シール材は配管が詰まったり、水ににおいがつくようなものは、使わないでください。

■ 給水配管

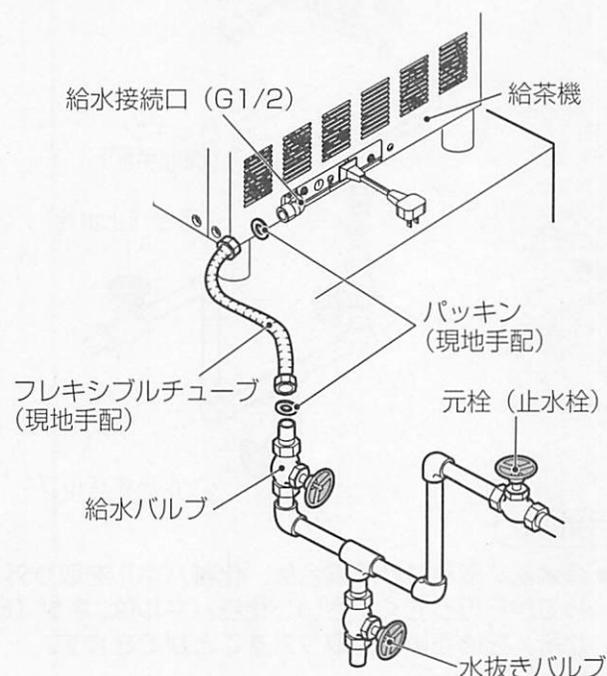
配管のしかた

お知らせ

- 給水工事を確実に行ってください。水漏れから周囲（家財など）をぬらす原因になります。

卓上形

水道管と給茶機を接続します。
下図のような配管で行ってください。

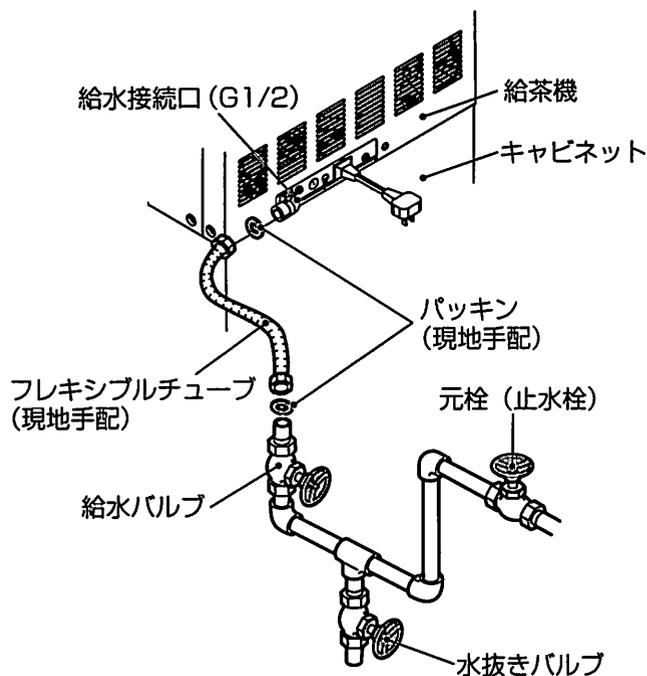


使用上の注意

- 浄水器を接続する場合は、給水接続口 (G 1/2) と給水バルブの間で行ってください。
(接続するために必要とするフレキシブルチューブ 2本、パッキン 4個は現地手配となります。)
- 浄水器の固定は、現地の状況に応じて実施してください。

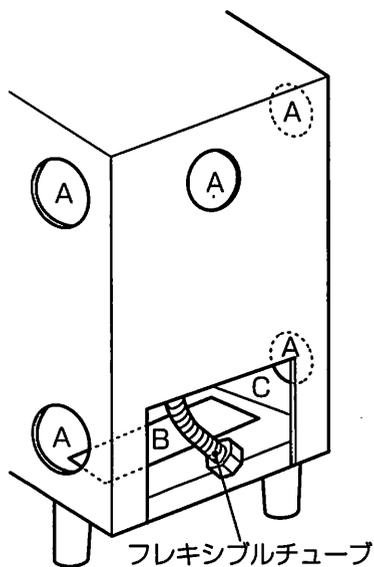
床置C形

水道管と給茶機を接続します。
下図のような配管で行ってください。



お知らせ

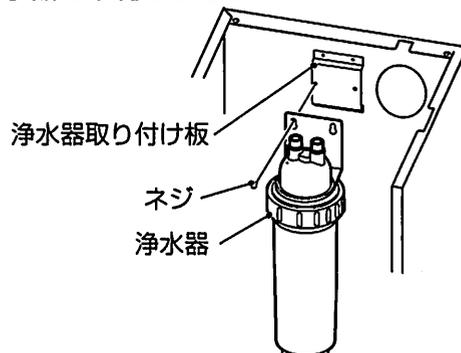
- 浄水器を取り付ける場合は、化粧パネルを取り外してから行ってください。化粧パネルは、ネジ（6か所）をゆるめると取り外すことができます。（☞ 14 ページ）
- 浄水器 1 次側・2 次側の配管は、図中 A 部（5か所）、B 部（キャビネット底部）、C 部（キャビネット背面）の任意の場所より接続を行ってください。付属のフレキシブルチューブとパッキンを使用してください。



床置T1形

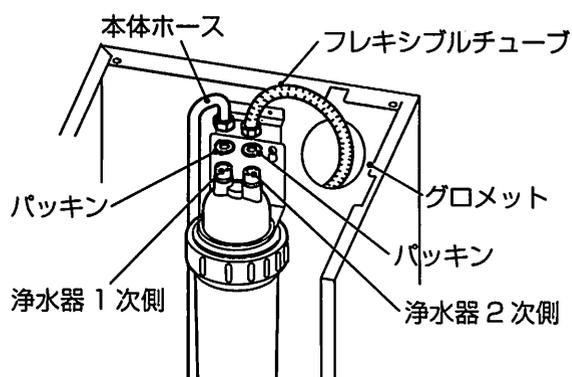
浄水器を取付け、給茶機と接続します。給水タンク・排水タンクを取り出してから行ってください。

1 浄水器を取付けます。

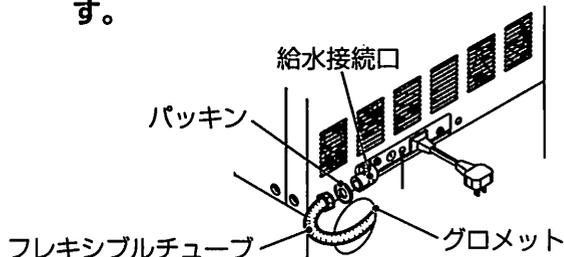


2 浄水器と給茶機を接続します。

- (1) 本体ホースにパッキンを組み込み、浄水器 1 次側に取り付けます。
- (2) フレキシブルチューブにパッキンを組み込み、浄水器 2 次側に取り付けます。
- (3) フレキシブルチューブの片側をキャビネット背面にあるグロメットに入れて通します。



- (3) フレキシブルチューブにパッキンを組み込み、給茶機の給水接続口に取り付けます。

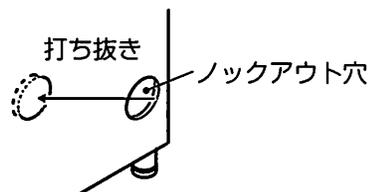


床置 LP 形

水道管とモータバルブ、およびモータバルブと給茶機を接続します。

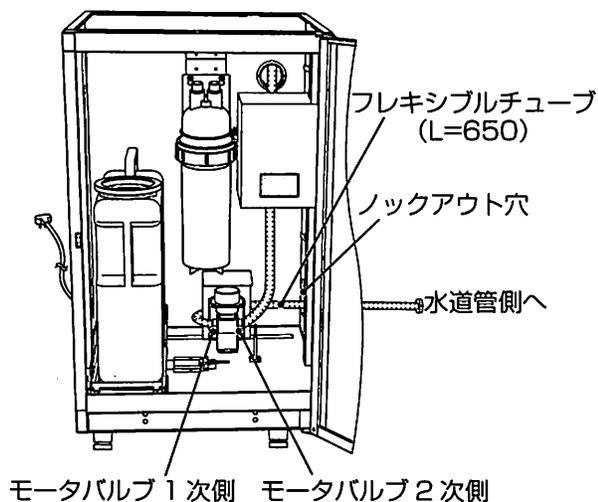
(例) 右側接続の場合

1 ノックアウトを外から打ち抜きます。



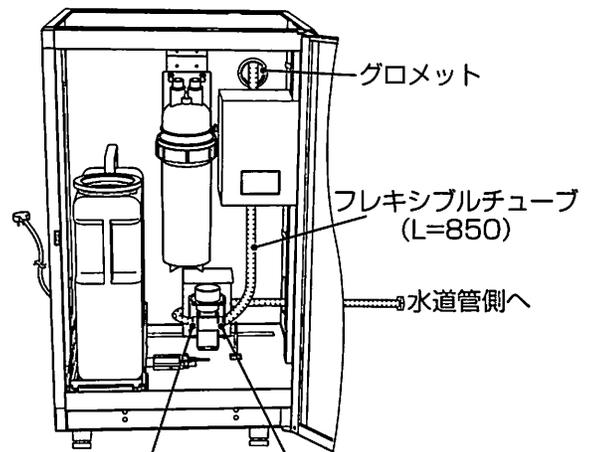
2 水道管とモータバルブを接続します。

- (1) フレキシブルチューブ (L=650) にパッキンを組み込み、モータバルブ 1 次側に取り付けます。
- (2) フレキシブルチューブ (L=650) の片側を手順 1 で打ち抜いたノックアウト穴に入れて通します。
- (3) フレキシブルチューブ (L=650) にパッキンを組み込み、水道管に取り付けます。



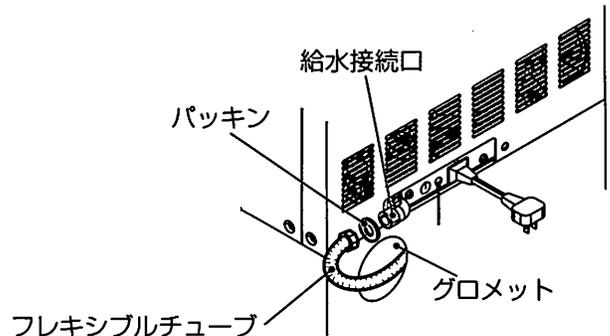
3 モータバルブと給茶機を接続します。

- (1) フレキシブルチューブ (L=850) にパッキンを組み込み、モータバルブ 2 次側に取り付けます。



モータバルブ 1 次側 モータバルブ 2 次側

- (2) フレキシブルチューブ (L=850) の片側をキャビネットスタンド背面のグロメットに入れて通します。
(浄水器接続の場合は、フレキシブルチューブ (L=850) の片側にパッキンを組み込み、浄水器一次側に取り付けます。)
- (3) フレキシブルチューブ (L=850) にパッキンを組み込み、給茶機の給水接続口に取り付けます。
(浄水器接続の場合は、フレキシブルチューブ (L=550) で浄水器 2 次側と給茶機給水接続口を接続してください。)



使用上の注意

- 配管を通した後の穴のすき間は、ネズミ侵入防止のため、金属板や金網などでふさいでください。

■ 排水工事のしかた

お知らせ

- 排水管はできるだけ短く、曲りが少なく、下げ勾配を持たせ、途中で排水口より高い部分ができないようにしてください。
- 逆流を防ぐため、排水管は下水管に直結しないでください。必ず排水口空間を設けて間接排水してください。

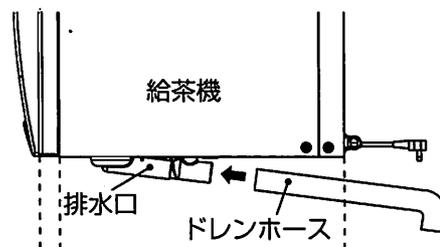


- 直接床に排水してから排水溝に流し込むことは、絶対にさけてください。床のゴミなどを巻き込んで排水溝を詰まらせたり、思わぬ方向へ流れる原因となります。
- 排水配管は十分な排水能力を確保してください。部品が故障した場合は、連続的に排水することがあります。十分な排水能力がない場合には、水が床に漏れ、周囲（家財など）をぬらす原因になります。
- 排水配管は十分な耐熱性を確保してください。1週間に1回、タンク内の約90℃のお湯を排水します。十分な耐熱性がないと、水が床に漏れます。

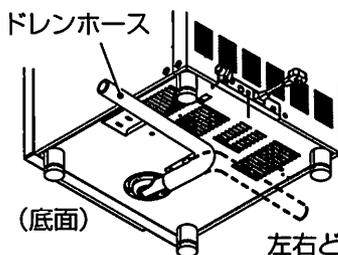
排水配管のしかた

卓上形

- 1 給茶機の底部にある排水口に、ドレンホースを差し込みます。



- 現地での設置状況に応じて、ドレンホースは切断してご使用ください。
- ドレンホースの差し込みを反対にすると、給茶機側面から出すことも可能です。



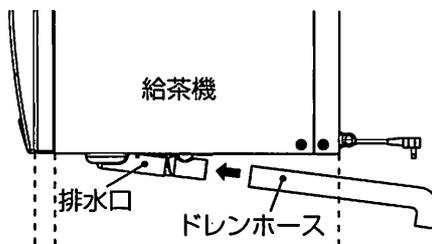
左右どちらでも可能

- 2 ドレンホース以後から排水溝までの配管工事を行います。

床置C形

- 化粧パネルを取り外してから行ってください。化粧パネルは、ネジ（6か所）をゆるめると取り外すことができます。

- 1 給茶機の底部にある排水口に、ドレンホースを差し込みます。



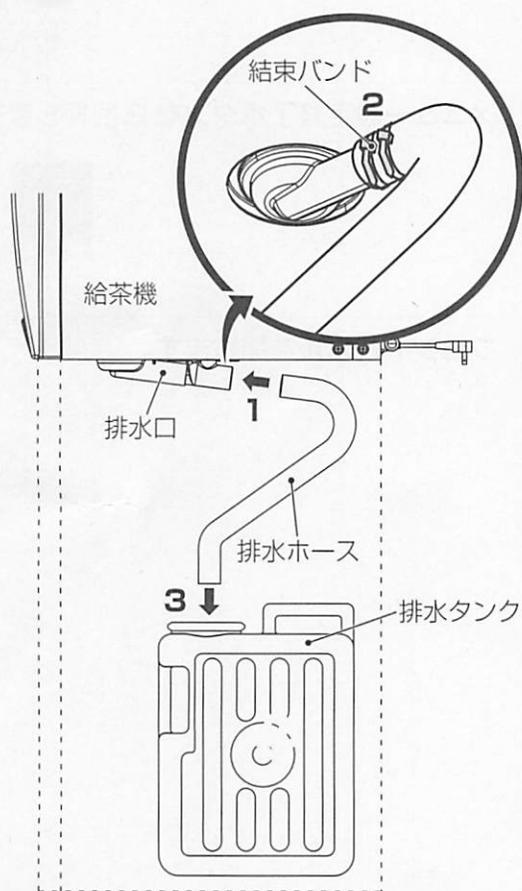
- 現地での設置状況に応じて、ドレンホースは切断してご使用ください。

- 2 ドレンホース以後から排水溝までの配管工事を行います。

床置 T1・LP 形

- 床置 T1 形の場合は、給水タンク・排水タンクを取り出してから行ってください。

- 1 給茶機の底部にある排水口に、排水ホースを差し込みます。
- 2 排水口と排水ホースの接続部を結束バンド(2本)で固定します。
- 3 排水ホースの先端を排水タンクの受け口に導くよう取り付けます。



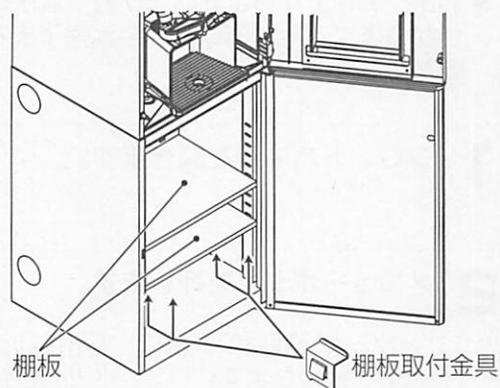
■ 配管工事終了後の確認

配管工事終了後、次のことを行ってください。

- 1 元栓をあげ、配管接続部からの水漏れがないことを確認します。

■ 棚板の取り付け (床置 C 形)

床置 C 形のキャビネットスタンドには、付属品に棚板(2枚)と棚板取付金具(8個)が付いています。下図を参考にして、棚板をご希望の位置に取り付けてください。



試運転

■ 試運転前の準備

冷却タンクへの給水

冷却タンクへ給水します。

冷却タンクへの給水方法については、「冷却タンクへの給水」を参照してください。(P.23 ページ)

給水方式の設定 (床置 T1 形)

床置 T1 形は、下記手順に従って給水方式の設定変更を行ってください。

お知らせ

- 「給水タンクへの給水 (床置 T1 形)」に従って、運転準備を行ってください。(P.24 ページ)
- お湯が沸き上がるまで約 30 分 (満水時 55 分) かかります。冷水の場合は製氷完了まで約 2.5 時間かかります。

1 フロントパネルを開きます。

2 メニューボタンを押します。

⇒メニュー項目の表示に切り替わります。

>01) ホットタンク オンド
02) ホット1 セッテイ
03) ホット2 セッテイ
04) ホット3 セッテイ

3 機能設定の▲・▼ボタンを押して、「23) キュウスイ ホウシキ」を選択します。

21) ミキシンク センジ ヨウ
22) レイスイ センジ ヨウ
>23) キュウスイ ホウシキ
24) チクヒョウリョウ

4 メニュー設定ボタンを押します。



5 機能設定の▲・▼ボタンを押して、「カセット」を選択します。



お知らせ

- 工場出荷時の設定は、水道直結方式 ("スイドウ") になっています。

> 23) キュウスイ ホウシキ
カセット

6 メニュー設定ボタンを押します。



7 メニュー設定終了ボタンを 2 回押します。



8 フロントパネルを閉じます。

水道水の硬度を確認

使用する水道水の硬度を測定します。

付属品の浄水器に試薬が含まれています。水道水の硬度の確認のしかたについては、試薬の取扱説明書を確認してください。

硬度は水道水で確認をしてください。
機種一覧表へ測定した硬度を記入し、測定結果をお客様に伝えてください。(P.8 ページ)

浄水器カートリッジ交換時期の設定

浄水器を取付ける場合は、交換時期の設定を行ってください。
交換時期の計算方法については、「浄水器の警告について」を参照してください。(P.27 ページ)

1 フロントパネルを開きます。

2 メニューボタンを押します。

⇒メニュー項目の表示に切り替わります。

>01)ホットタンク オンド
02)ホット1 セッテイ
03)ホット2 セッテイ
04)ホット3 セッテイ

3 機能設定の▲・▼ボタンを押して、"29) フィルタ コウカン" を選択します。

23)キユスイ ホウシキ
> カセット

4 メニュー設定ボタンを押します。



5 機能設定の▲・▼ボタンを押して、"コウカン キセッテイ" を選択します。

29)フィルタ コウカン
>コウカン キセッテイ
2014-10-03
コウカンツチ ユウコウ

お知らせ

- 交換通知も設定しておく、と、交換時期がきたら、操作パネルの点検ランプ (赤) が点滅します。

6 メニュー設定ボタンを押します。



7 機能設定の▲・▼ボタンを押して、交換時期を設定します。



8 メニュー設定ボタンを押します。



9 メニュー設定終了ボタンを2回押します。



10 フロントパネルを閉じます。

■ 運転動作確認

据付工事終了後、次の運転動作確認を行ってください。

- 1** 電源・電圧を確認します。
 - ※ 単相 100V の専用コンセントを使用していますか？
- 2** アース線を接続します。
 - ※ アース線は確実に接続されていますか？
- 3** 電源プラグをコンセントに差し込みます。
 - ※ 電源プラグは確実に差し込まれていますか？
- 4** 水抜きバルブを閉め、給水バルブを開きます。
 - ※ 給水されていますか？
 - ※ 給水配管、排水配管の水漏れはありませんか？
- 5** 電源スイッチ（漏電遮断器）を「ON（入）」にします。
 - ※ 運転ランプ（緑）が点灯しましたか？
 - ※ 冷水運転ボタンを押して5分後に運転が開始されましたか？
 - ※ フロントパネルを閉じて、ホットタンクへの給水が始まりましたか？
 - ※ 約 30 分後にフロントパネルを開けて、液晶表示部で湯温・水温の状況を確認しましたか？
 - ※ 異常音はありませんか？
- 6** 操作説明をします。
 - ※ お客様に取り扱い説明をしましたか？
- 7** 取扱説明書をお客様に渡します。
 - ※ 取扱説明書の「お客様の製品」欄にチェックを入れましたか？（☞ 8 ページ）
 - ※ 取扱・据付工事説明書をお客様に渡しましたか？

浄水器の取り付け工事

■ 浄水器について

卓上形、床置 C・LP 形に浄水器を取り付けるときは、最寄りのホシザキ販売会社に相談してください。

使用上の注意

- 浄水器は、スケール抑制型を取り付けて頂くことをお勧めします。
スケール抑制型浄水器を取り付けない場合、水質によっては、製品が故障するおそれがあります。

お知らせ

- 浄水器の種類によっては、給水圧が下がり給水されなかったり、注出能力が下がることがあります。
- 中空糸膜を搭載している浄水器は、使用しないでください。
- メイスイ株式会社製浄水器、エバーピュア・ジャパン株式会社製浄水器も取り付け可能です。

付属品以外の浄水器の取り付けかた (床置 C・LP 形)

使用上の注意

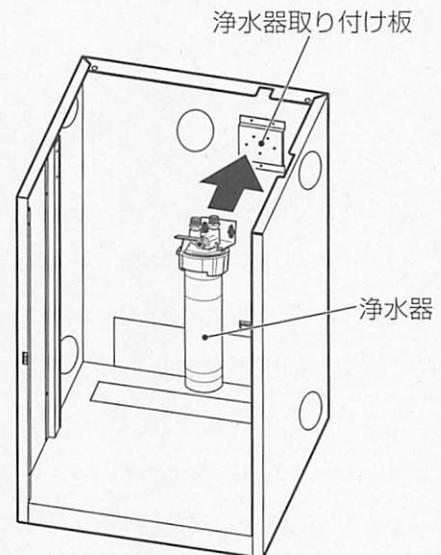
- 浄水器は給茶機に接続する前に外した状態で5分間通水し、バケツなどの容器に直接排水してください。
- 通水せずに直接使用すると、浄水器内の活性炭微粉末が水といっしょに排出されることがあります。

お知らせ

- 浄水器を取り付けるときは、浄水器に付属されている取扱説明書をよく読んで取り付けてください。

(例) エバーピュア・ジャパン株式会社製 浄水器の場合

- 1 キャビネットスタンド内背面に浄水器を取り付けます。



● お買い求めの際に必ずご記入ください。

形名	
お買い求め年月日	年 月 日
お買い求め店名	電話 () -

● ご相談窓口のご案内

お買い上げの商品またはこの取扱説明書の内容につきまして、ご不明な点がございましたら、下記までご遠慮なくお問い合わせください。

- | | | |
|---------------------|------------------|--------------------------|
| ホシザキ北海道株式会社 | ☎ (011) 841-4433 | 札幌市白石区菊水1条4-1-8 |
| ホシザキ東北株式会社 | ☎ (022) 728-9511 | 仙台市青葉区昭和町2-38 |
| ホシザキ北関東株式会社 | ☎ (048) 660-2311 | さいたま市北区宮原町3-36 |
| ホシザキ関東株式会社 | ☎ (03) 3943-6201 | 東京都文京区白山4-37-33 |
| ホシザキ東京株式会社 | ☎ (03) 5791-8001 | 東京都港区高輪2-20-32 ホシザキ高輪ビル |
| ホシザキ湘南株式会社 | ☎ (045) 650-6121 | 横浜市中区桜木町 2-2-5 |
| ホシザキ北信越株式会社 | ☎ (076) 240-2266 | 金沢市松島2-26 |
| ホシザキ東海株式会社 | ☎ (052) 563-5581 | 名古屋市東区中村区名駅5-21-3 |
| ホシザキ京阪株式会社 | ☎ (06) 6762-5351 | 大阪市中央区内本町2-2-12 ホシザキ本町ビル |
| ホシザキ阪神株式会社 | ☎ (06) 6886-5691 | 大阪市淀川区木川東3-1-34 |
| ホシザキ中国株式会社 | ☎ (082) 293-9451 | 広島市中区土橋町1-13 |
| ホシザキ四国株式会社 | ☎ (087) 811-5610 | 高松市紺屋町3-3 |
| ホシザキ北九株式会社 | ☎ (092) 471-7396 | 福岡市博多区博多駅南3-18-9 |
| ホシザキ南九株式会社 | ☎ (099) 813-0007 | 鹿児島市下荒田4-41-11 |
| ホシザキ沖縄株式会社 | ☎ (098) 861-1240 | 那覇市泊3-3-13 |
| ホシザキ電機株式会社 サービスセンター | ☎ (0562) 97-2126 | 豊明市栄町南館3-16 |

ホシザキ電機株式会社

本社 / 〒470-1194 愛知県豊明市栄町南館3-16 ☎ (0562) 97-2111